

## Ⅱ 調査結果の分析

### 1. 南海トラフ地震などの大規模災害について

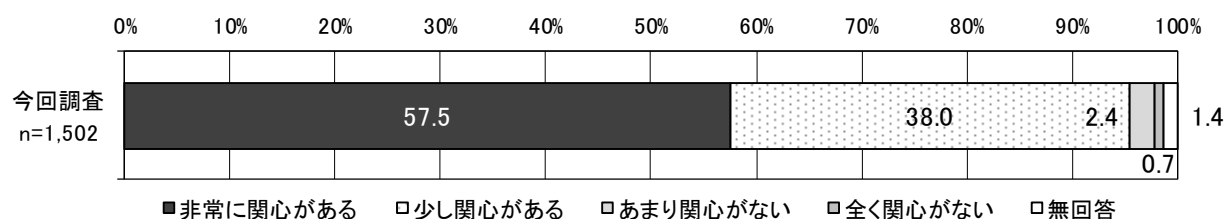
#### (1) 南海トラフ地震などの大規模災害への関心

問1 あなたは、南海トラフ地震や豪雨などの大規模災害の発生に関心がありますか？  
(○は1つ)

◎ 95.5%の人が『関心がある』と答えており、前回より 2.8 ポイント増加した。

- 南海トラフ地震等の大規模災害に「非常に関心がある」(57.5%)と「少し関心がある」(38.0%)を合わせ、95.5%の人が『関心がある』と答えており、圧倒的多数となっている。

図 1. 南海トラフ地震等の大規模災害への関心

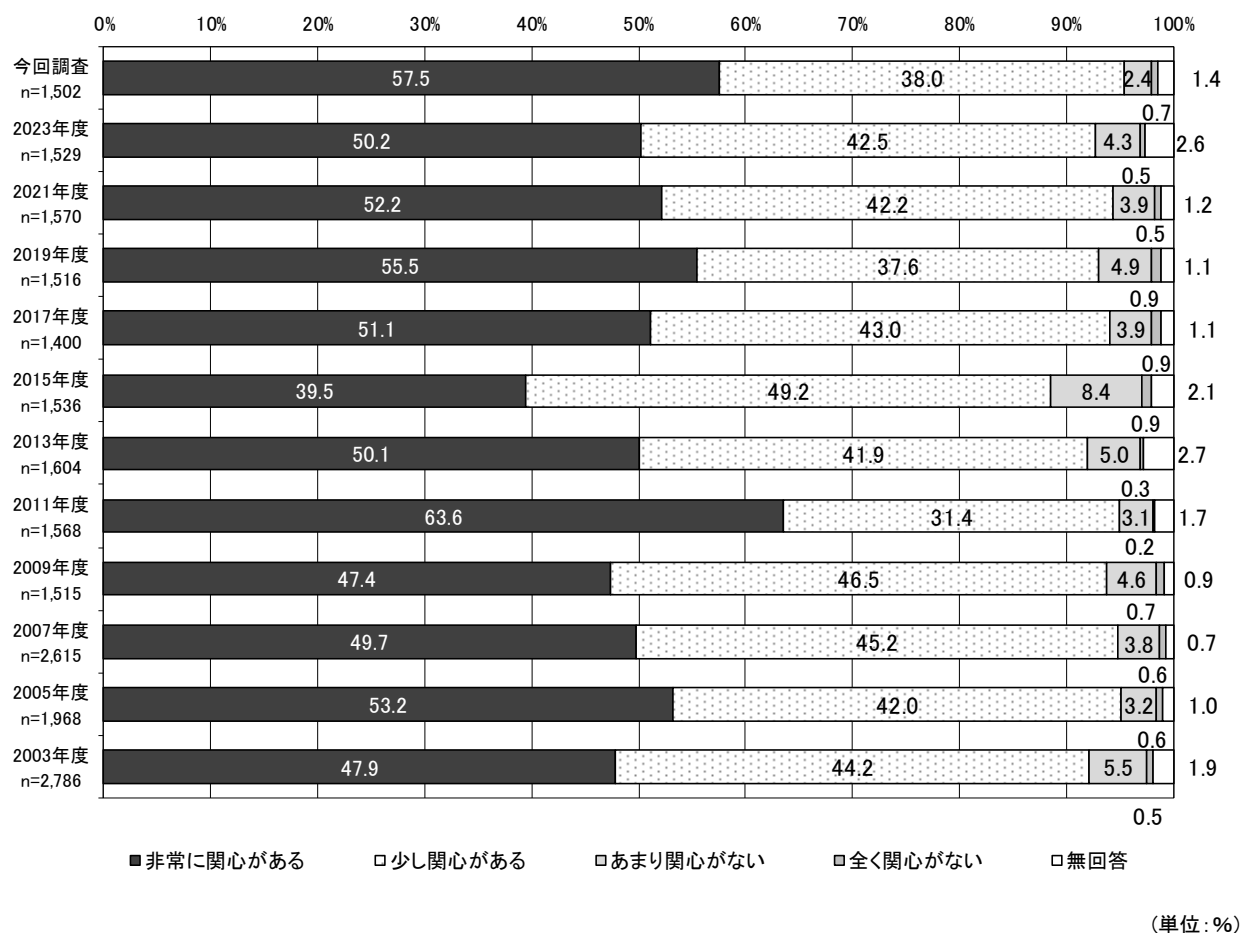


(単位: %)

## ◆南海トラフ地震等の大規模災害への関心[経年比較]

○ 「非常に関心がある」の割合が前回より増加。一方で「関心がない」人の割合は減少した。

図 2. 南海トラフ地震等の大規模災害への関心[経年比較]



※ 2015年度から2019年度は東海地震、東南海地震、南海地震等の南海トラフ地震についての関心である。

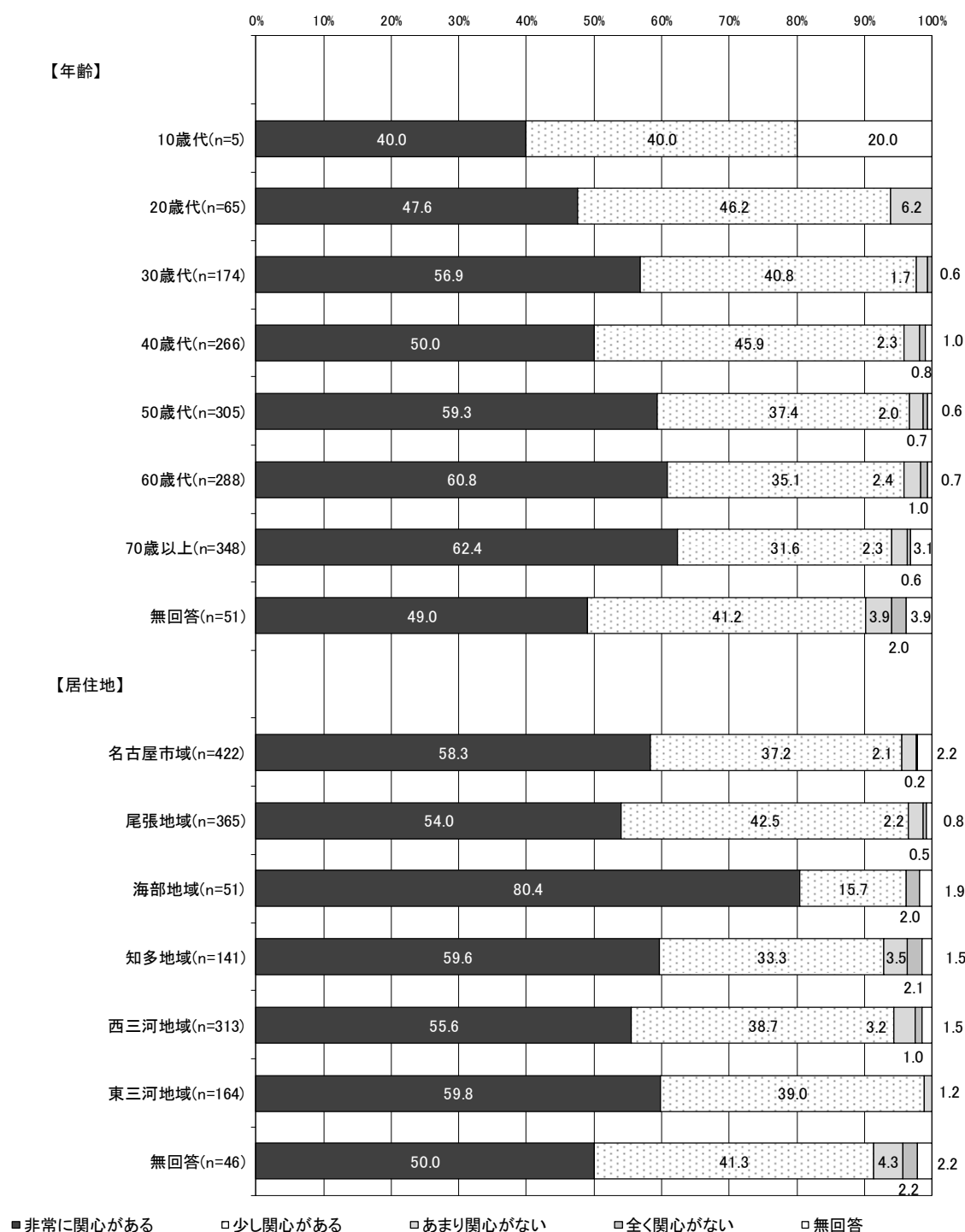
※ 2011年度、2013年度は東海地震、東南海地震、南海地震等の連動発生についての関心である。

※ 2009年度調査は東海・東南海地震についての関心である。

## ◆南海トラフ地震等の大規模災害への関心[年齢別、居住地別]

- 年齢別にみると10歳代において「非常に関心がある」と答えた人の割合が40.0%と最も低く、次には20歳代で47.6%と低くなっている。
- 居住地別にみると、海部地域において「非常に関心がある」と答えた人の割合が80.4%と最も高く、次には東三河地域で59.8%と高くなっている。

図3. 南海トラフ地震等大規模災害への関心[年齢別、居住地別]



(単位: %)

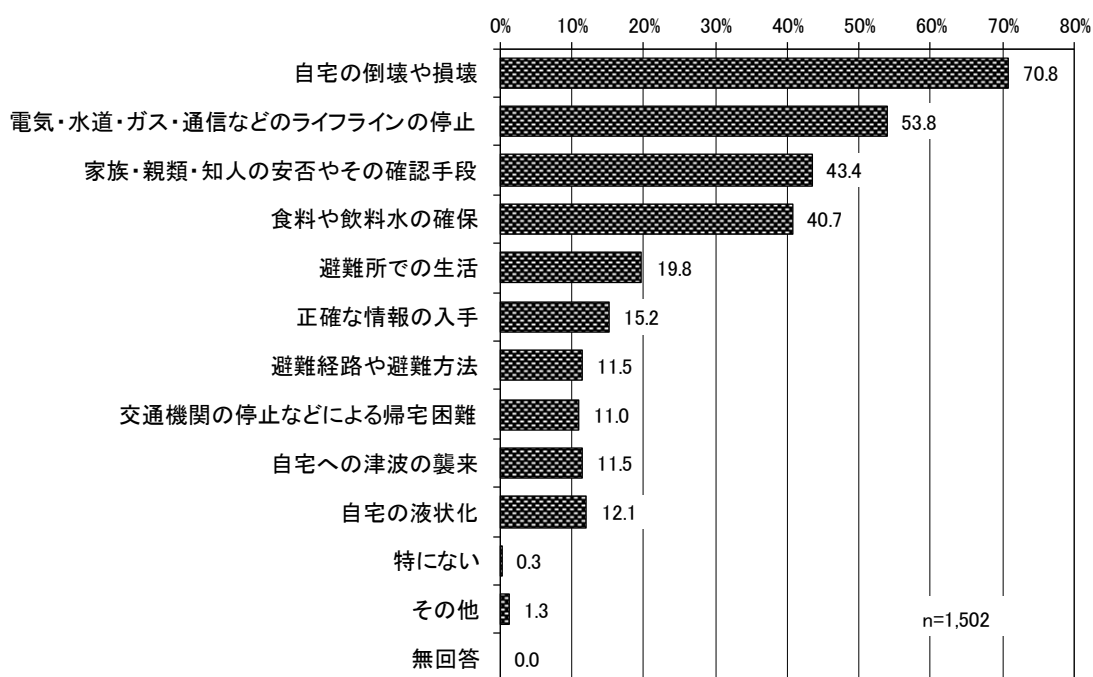
## (2) 大規模災害発生時の不安

問2 南海トラフ地震等の大規模災害が発生した場合、不安や危険に思うことは何ですか？  
(○は3つまで)

◎ 70.8%の人が「自宅の倒壊や損壊」、53.8%の人が「電気・水道・ガス・通信などのライフラインの停止」と答えた。

○ 大規模災害発生時の不安は、「自宅の倒壊や損壊」が最も多く、70.8%もの人が不安に思っている。次には「電気・水道・ガス・通信などのライフラインの停止」が53.8%と多くなっている。

図4. 大規模災害発生時の不安



(単位: %)

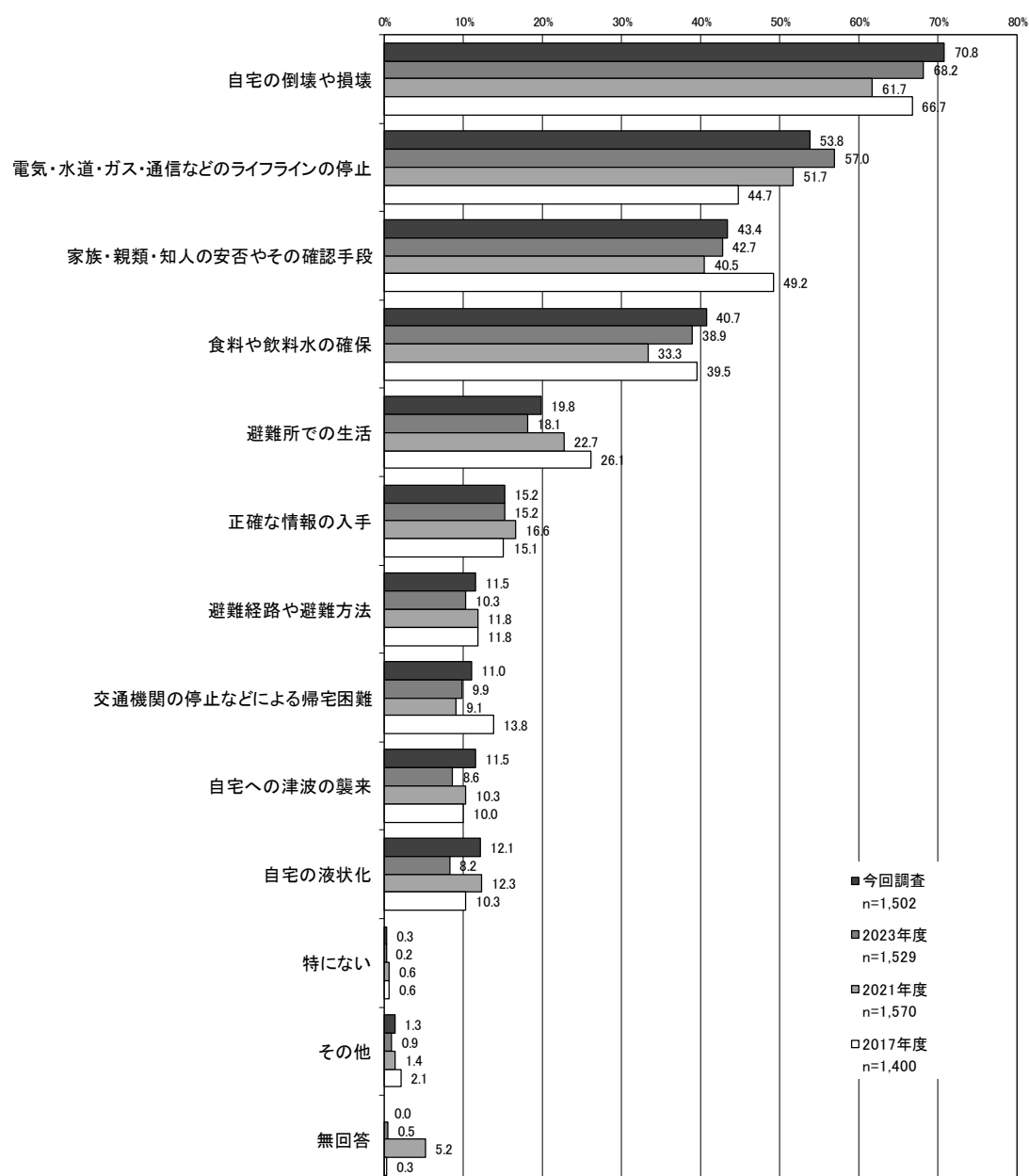
## ▽「その他」の記入内容

築 60 年、夫婦で足が不自由、ベタ座りできない、WC が心配だし . . .	建て替え資金
選択肢 1. 2. 5 以外に 6. 7. 8. 9. 10 も不安に感じる	災害あとの生活支援
そもそも避難所へ入れるのか？キャパの問題	災害発生による強盗や性加害などの犯罪の増加 (2)
トイレの場所	難を避ける方法がない
ペットをどうするか (10)	自宅の浸水
体が不自由なので、避難に不安がある	自宅停電でも生活出来る発電装置
医療が適正に受けられるか	職場が豊川の近くなので津波が怖い

## ◆大規模災害発生時の不安[経年比較]

- 大規模災害発生時の不安について、「自宅の倒壊や損壊」は増加傾向となっており、2.6 ポイント増加。一方、「電気・水道・ガス・通信などのライフラインの停止」は昨年度より 3.2 ポイント減少となっている。

図 5. 大規模災害発生時の不安[経年比較]



(単位: %)

※ 2017 年度調査は南海トラフ地震発生時の不安や危険に思うことである。

## ◆大規模災害発生時の不安[居住地別、性別、年齢別、同居家族別]

- 居住地別にみると、海部地域で「自宅への津波の襲来」を不安に思う人の割合が高い。
- 年齢別では、40歳代が、「家族・親類・知人の安否やその確認手段」に最も不安に思う人の割合が高い。

表 8. 大規模災害発生時の不安[居住地別、年齢別]

	回答者数	自宅の倒壊や損壊	自宅への津波の襲来	自宅の液化化	避難経路や避難方法	よる帰宅困難	交通機関の停止などに	否やその確認手段	家族・親類・知人の安	正確な情報の入手	食料や飲料水の確保	電気・水道・ガスのライフラインの停止	避難所での生活	特にな	その他	無回答
単位：％																
【居住地】																
名古屋市域	422	66.4	14.7	18.0	11.1	10.9	41.5	17.3	39.6	50.5	19.9	0.0	1.7	0.0		
尾張地域	365	72.6	4.1	12.3	14.2	9.6	48.5	14.5	38.9	55.3	19.5	0.5	0.8	0.0		
海部地域	51	66.7	31.4	19.6	17.6	11.8	39.2	9.8	35.3	39.2	23.5	0.0	0.0	0.0		
知多地域	141	72.3	14.2	7.8	8.5	12.8	40.4	14.2	41.1	59.6	21.3	0.0	0.7	0.0		
西三河地域	313	72.5	8.0	6.1	8.9	11.5	39.6	15.0	47.3	60.1	18.5	1.0	1.9	0.0		
東三河地域	164	72.6	18.3	7.3	11.0	12.2	48.2	14.6	37.8	49.4	23.2	0.0	1.2	0.0		
無回答	46	78.3	10.9	19.6	13.0	8.7	43.5	13.0	37.0	43.5	10.9	0.0	2.2	0.0		
【年齢】																
10歳代	5	80.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	20.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0		
20歳代	65	61.5	24.6	9.2	10.8	15.4	49.2	4.6	44.6	41.5	26.2	0.0	3.1	0.0		
30歳代	174	63.8	12.6	11.5	16.7	14.9	47.7	8.6	51.1	46.0	17.8	0.6	1.1	0.0		
40歳代	266	67.3	10.9	13.5	10.2	14.3	56.8	9.8	42.5	49.2	18.0	0.4	1.5	0.0		
50歳代	305	69.5	11.5	11.1	8.9	13.4	45.9	13.1	44.6	51.5	22.6	0.7	1.6	0.0		
60歳代	288	74.3	10.8	12.8	9.4	8.7	36.5	20.8	35.8	60.8	19.4	0.3	1.4	0.0		
70歳以上	348	76.1	10.1	11.5	14.1	5.5	34.2	21.6	34.8	60.3	19.5	0.0	0.6	0.0		
無回答	51	74.5	9.8	17.6	11.8	7.8	41.2	15.7	39.2	47.1	15.7	0.0	2.0	0.0		

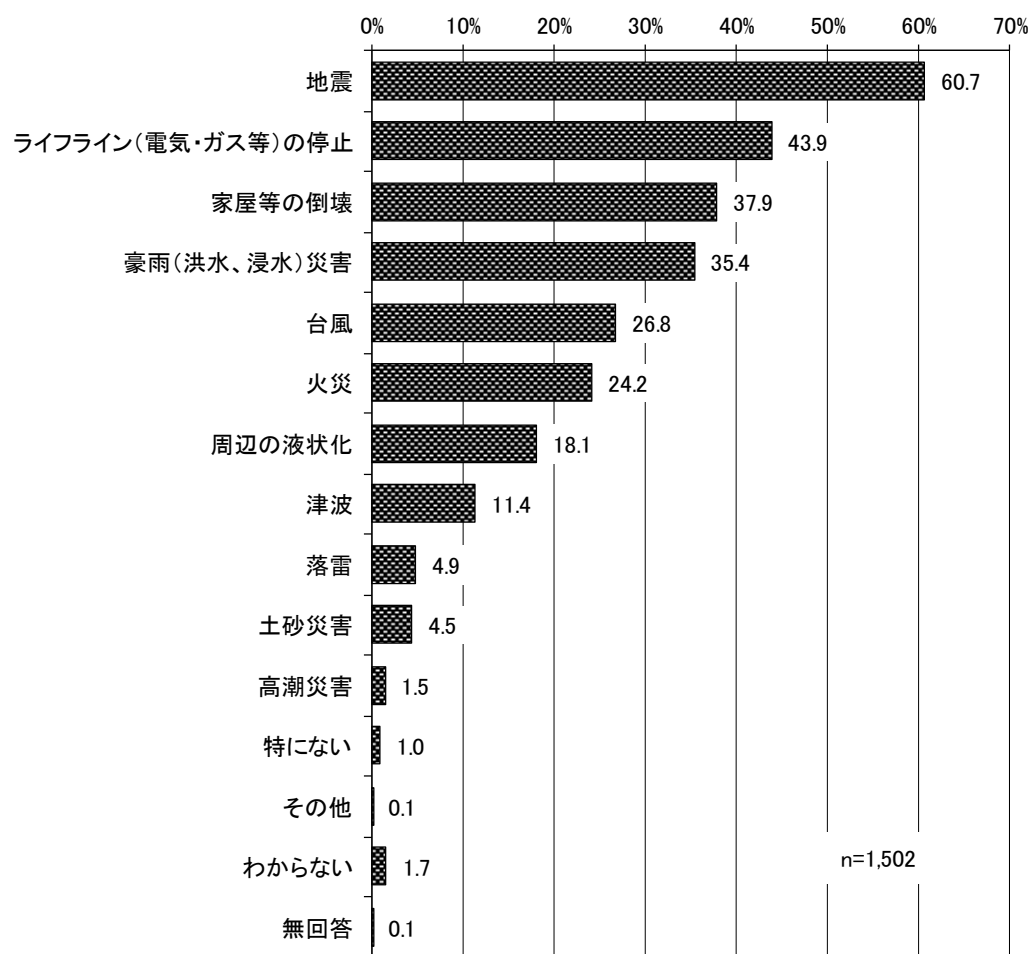
## (3) 自宅周辺で発生する可能性が高い災害

問3 ご自宅やご自宅周辺地域で発生する可能性が高いと思う災害は何ですか？（〇は3つまで）

◎ 60.7%の人が「地震」、43.9%の人が「ライフライン（電気・ガス等）の停止」と答えた。

○ 自宅周辺で発生する可能性が高いと思う災害としては、「地震」が60.7%と最も多く、次いで「ライフライン（電気・ガス等）の停止」が43.9%、「家屋等の倒壊」が37.9%となっている。

図6. 自宅周辺で発生する可能性が高い災害



(単位: %)



## ▽「その他」の記入内容

昭和 40 年代、荒井町は浸水被害アリだから	堤防決壊しそう
高齢での避難が難しい	

## ◆自宅周辺で発生する可能性が高い災害[居住地別、年齢別]

○ 居住地別にみると、西三河地域において「地震」と答えた人の割合が 65.8%と最も高くなっている。

表 9. 自宅周辺で発生する可能性が高い災害[居住地別、年齢別]

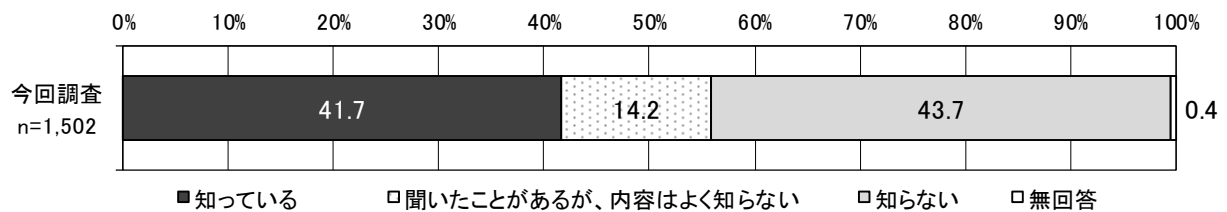
	回答者数	津波	周辺の液状化	害 豪雨（洪水、浸水）災	高潮災害	土砂災害	台風	家屋等の倒壊	地震	火災	落雷	ガス等）の停止（電気・	その他	特にない	わからない	無回答
単位：％																
【居住地】																
名古屋市域	422	16.6	25.6	40.5	0.9	1.9	21.3	37.7	56.9	23.2	2.8	41.5	0.5	0.9	1.4	0.5
尾張地域	365	1.1	17.5	39.7	0.3	4.7	25.5	37.3	61.9	29.3	6.0	44.7	0.0	1.6	1.1	0.0
海部地域	51	29.4	41.2	58.8	3.9	0.0	27.5	23.5	51.0	9.8	2.0	21.6	0.0	0.0	2.0	0.0
知多地域	141	15.6	9.2	20.6	2.1	4.3	30.5	45.4	64.5	20.6	4.3	50.4	0.0	1.4	3.5	0.0
西三河地域	313	7.0	10.9	26.8	1.0	9.3	30.7	38.7	65.8	27.2	7.3	47.9	0.0	0.6	1.3	0.0
東三河地域	164	20.1	12.8	34.1	5.5	2.4	34.8	34.1	57.3	21.3	4.9	43.3	0.0	0.6	3.0	0.0
無回答	46	10.9	23.9	37.0	0.0	6.5	21.7	45.7	60.9	10.9	4.3	41.3	0.0	0.0	0.0	0.0
【年齢】																
10歳代	5	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	40.0	60.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	65	13.8	26.2	47.7	3.1	1.5	15.4	29.2	67.7	21.5	3.1	40.0	0.0	1.5	0.0	0.0
30歳代	174	14.4	20.7	38.5	1.7	4.6	24.1	24.7	67.2	21.8	4.6	35.1	0.6	1.7	3.4	0.0
40歳代	266	14.3	18.8	35.7	1.1	5.6	23.7	35.7	62.0	26.3	2.6	43.6	0.0	0.8	1.5	0.4
50歳代	305	11.8	17.4	39.0	0.3	5.9	23.6	34.8	61.3	26.6	5.2	44.3	0.0	1.0	1.0	0.0
60歳代	288	10.1	18.4	35.1	3.5	4.9	31.9	39.6	61.5	19.8	4.2	43.1	0.0	0.7	1.7	0.0
70歳以上	348	8.3	14.7	28.4	0.9	2.3	32.8	48.3	54.3	27.0	7.5	50.0	0.3	1.1	2.0	0.0
無回答	51	9.8	19.6	35.3	0.0	5.9	19.6	43.1	56.9	15.7	3.9	45.1	0.0	0.0	0.0	2.0

## (4) 南海トラフ地震臨時情報の発表周知

問4 「南海トラフ地震臨時情報」は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、想定震源域内で大規模地震や地殻変動など異常な現象が観測された場合に、気象庁より発表されますが、この情報をご存じですか。  
(○は1つ)

- ◎ 「知っている」の41.7%より「知らない」の43.7%がわずかに多い。
- 「知らない」が43.7%と最も多い。
- 「知っている」の41.7%より「知らない」の43.7%がわずかに多い。

図7. 南海トラフ地震臨時情報の発表周知



(単位: %)

## ◆南海トラフ地震臨時情報の発表周知[居住地別、年齢別]

○ 年齢別でみると、年齢が高いほど「知らない」割合が低い傾向にある。

表 10. 南海トラフ地震臨時情報の発表周知[居住地別、年齢別]

	回 答 者 数	知 っ て い る	内 容 は よ く 知 ら な い が、	知 ら な い	無 回 答
単位：％					
【居住地】					
名古屋市域	422	40.3	45.3	13.7	0.7
尾張地域	365	41.6	41.6	16.2	0.5
海部地域	51	41.2	41.2	17.6	0.0
知多地域	141	43.3	47.5	9.2	0.0
西三河地域	313	41.2	43.1	15.7	0.0
東三河地域	164	47.0	41.5	11.6	0.0
無回答	46	34.8	50.0	13.0	2.2
【年齢】					
10歳代	5	60.0	20.0	20.0	0.0
20歳代	65	29.2	44.6	26.2	0.0
30歳代	174	42.5	40.2	17.2	0.0
40歳代	266	37.6	42.5	19.9	0.0
50歳代	305	41.6	43.9	14.4	0.0
60歳代	288	43.4	45.5	10.8	0.3
70歳以上	348	45.7	44.8	8.6	0.9
無回答	51	37.3	45.1	13.7	3.9

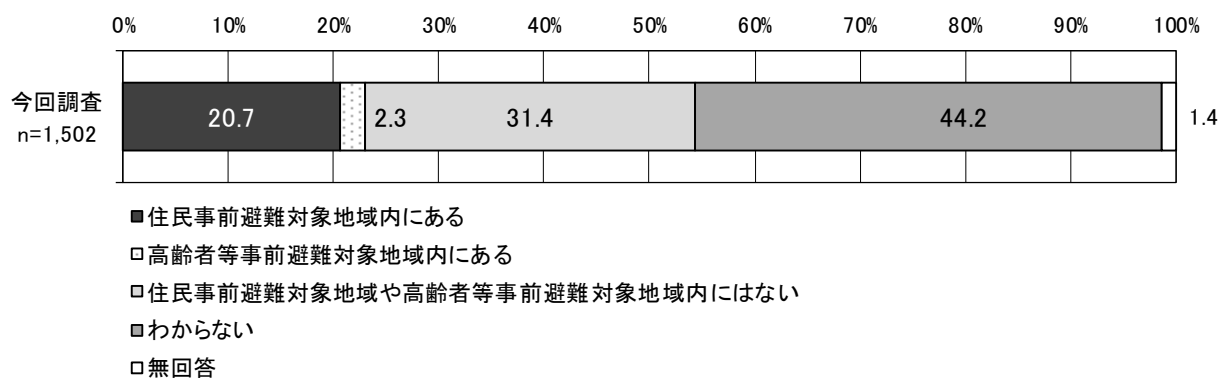
## (5) 南海トラフ地震事前避難対象地域

問5 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合に、後発地震（先に発生した地震に続いて発生する地震）の発生に備えるため、事前に1週間避難しなければならない地域（「住民事前避難対象地域」又は「高齢者等事前避難対象地域」）があります。ご自宅は、その地域内にありますか。（○は1つ）

◎ 「わからない」が44.2%と最も多い。

○ 住民事前避難対象地域又は高齢者等事前避難対象地域が「わからない」44.2%が最も多い。

図8. 住民事前避難対象地域又は高齢者等事前避難対象地域



(単位: %)

## ◆南海トラフ地震事前避難対象地域[居住地別、年齢別]

○ 居住地別にみると、知多地域において「わからない」と答えた人の割合が47.5%と最も高くなっている。

表 11. 南海トラフ地震事前避難対象地域[居住地別、年齢別]

	回 答 者 数	内 に あ る	住 民 事 前 避 難 対 象 地 域	地 域 内 に あ る	高 齢 者 等 事 前 避 難 対 象	象 地 域 内 に は な い	や 高 齢 者 等 事 前 避 難 対 象 地 域	住 民 事 前 避 難 対 象 地 域	わ か ら な い	無 回 答
単位：％										
【居住地】										
名古屋市域	422	41.5	3.1	6.4	47.2	1.9				
尾張地域	365	3.8	0.8	57.3	37.5	0.5				
海部地域	51	43.1	2.0	5.9	47.1	2.0				
知多地域	141	9.2	1.4	41.8	47.5	0.0				
西三河地域	313	13.1	2.2	41.5	41.5	1.6				
東三河地域	164	25.0	3.7	25.0	45.1	1.2				
無回答	46	10.9	6.5	6.5	71.7	4.3				
【年齢】										
10歳代	5	40.0	0.0	40.0	20.0	0.0				
20歳代	65	21.5	3.1	38.5	36.9	0.0				
30歳代	174	19.0	1.7	37.9	41.4	0.0				
40歳代	266	22.9	0.8	36.1	39.1	1.1				
50歳代	305	21.6	1.3	37.4	38.7	1.0				
60歳代	288	22.6	3.1	30.6	43.4	0.3				
70歳以上	348	18.4	3.4	22.1	52.9	3.2				
無回答	51	11.8	5.9	7.8	70.6	3.9				

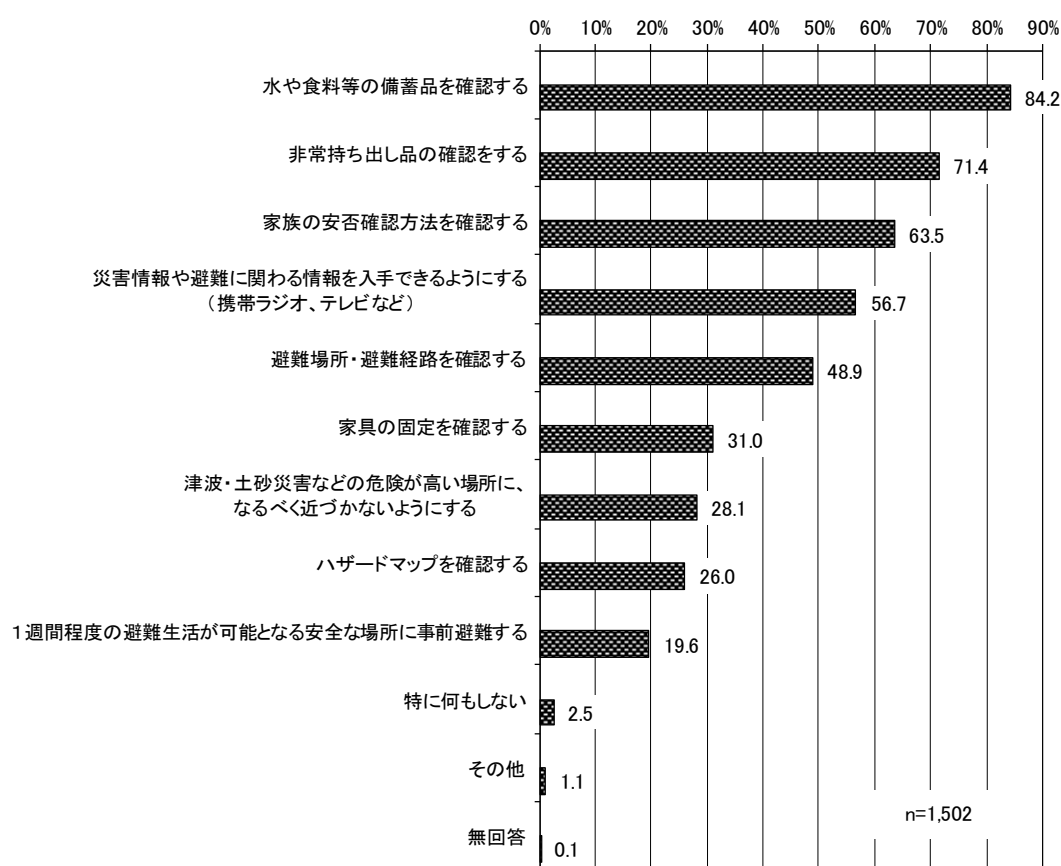
## (6) 南海トラフ地震時の行動(巨大地震警戒)

問6 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合、どのような行動をとりますか。  
（○はいくつでも）

◎ 84.2%の人が「水や食料等の備蓄品を確認する」、71.4%の人が「非常持ち出し品の確認をする」と答えた。

○ 南海トラフ地震時の行動としては、「水や食料等の備蓄品を確認する」が84.2%と最も多く、次いで「非常持ち出し品の確認をする」が71.4%、「家族の安否確認方法を確認する」が63.5%となっている。

図9. 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）発表時の行動



(単位: %)

## ◆南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)発表時の行動[居住地別、年齢別]

- 年齢別でみると、30 歳代にて「水や食料等の備蓄品を確認する」と答えた人の割合が 92.5%と最も高くなっている。

表 12. 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）発表時の行動[居住地別、年齢別]

	回答者数	安全な場所に事前避難する	1週間程度の避難生活が可能となる	家具の固定を確認する	非常持ち出し品の確認をする	水や食料等の備蓄品を確認する	災害情報や避難に関わる情報を入手できるようにする（携帯ラジオ、テレビなど）	家族の安否確認方法を確認する	避難場所・避難経路を確認する	ハザードマップを確認する	津波・土砂災害などの危険性が高い場所に、なるべく近づかないようにする	特に何もしない	その他	無回答
単位：%														
【居住地】														
名古屋市域	422	23.5	31.8	70.4	80.6	59.0	62.3	49.8	28.4	27.7	1.9	1.4	0.0	
尾張地域	365	17.3	34.2	72.9	88.5	58.6	66.0	51.2	23.0	24.1	1.4	1.6	0.0	
海部地域	51	29.4	37.3	66.7	88.2	51.0	60.8	39.2	35.3	27.5	5.9	0.0	0.0	
知多地域	141	18.4	29.8	73.8	83.7	56.7	63.1	50.4	31.2	37.6	2.1	0.0	0.0	
西三河地域	313	18.2	27.2	68.7	85.0	51.1	62.0	49.8	23.6	27.5	4.2	1.3	0.3	
東三河地域	164	15.2	30.5	76.2	83.5	57.9	67.1	46.3	25.0	32.9	1.8	0.0	0.0	
無回答	46	19.6	21.7	67.4	78.3	60.9	56.5	30.4	21.7	21.7	4.3	0.0	0.0	
【年齢】														
10歳代	5	40.0	20.0	60.0	80.0	60.0	60.0	40.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	
20歳代	65	26.2	33.8	60.0	76.9	49.2	63.1	53.8	35.4	46.2	3.1	1.5	0.0	
30歳代	174	17.8	34.5	74.1	92.5	46.6	69.0	58.0	29.3	29.3	0.6	1.1	0.0	
40歳代	266	15.4	33.8	71.4	86.8	54.5	75.6	60.2	31.6	35.3	1.9	1.1	0.0	
50歳代	305	18.4	28.9	72.8	87.9	57.0	72.1	50.8	21.0	30.8	1.3	1.3	0.3	
60歳代	288	17.4	30.9	73.6	83.7	61.5	56.9	43.1	29.2	22.9	2.1	0.3	0.0	
70歳以上	348	24.4	29.6	70.1	77.9	60.3	50.9	40.5	20.7	20.7	4.6	1.4	0.0	
無回答	51	23.5	23.5	64.7	76.5	58.8	54.9	31.4	23.5	23.5	5.9	0.0	0.0	



## ▽「その他」の記入内容

1週間程度の避難生活が可能となる安全な場所に 事前確認する	高齢のため何も出来ないと思う
ペットの備蓄品と避難方法の確認・用意 (5)	高齢のため何も出来ないと思う
仕事中なら、子どもをどうするか確認する。	高齢の為行動一人では無理。重い物、杖つくので無理。
避難場所がわからない	予約のある自営業の顧客にキャンセル連絡する
祖母を先に避難させる	自然に任せる。苦を感じ不安、一度は死を長く生きたいとは思わない
日頃より選択肢 2, 3, 4, 5, 6, 7 チェックしている	不要な外出を控える
わからない	

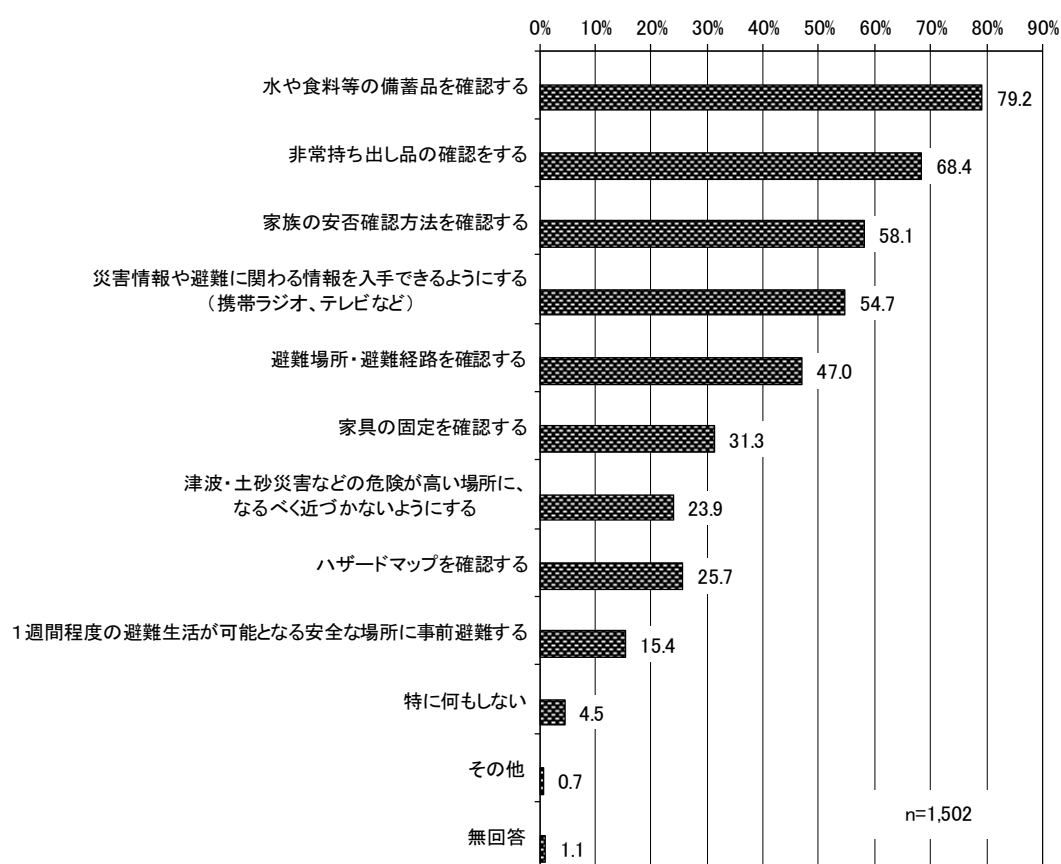
## (7) 南海トラフ地震時の行動(巨大地震注意)

問7 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表された場合、どのような行動をとりますか。  
（○はいくつでも）

◎ 79.2%の人が「水や食料等の備蓄品を確認する」、68.4%の人が「非常持ち出し品の確認をする」と答えた。

○ 南海トラフ地震時の行動としては、「水や食料等の備蓄品を確認する」が 79.2%と最も多く、次いで「非常持ち出し品の確認をする」が 68.4%、「家族の安否確認方法を確認する」が 58.1%となっている。

図 10. 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）発表時の行動



(単位: %)

## ◆南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)発表時の行動[居住地別、年齢別]

- 年齢別でみると、30 歳代にて「水や食料等の備蓄品を確認する」と答えた人の割合が 85.1%と最も高くなっている。

表 13. 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）発表時の行動[居住地別、年齢別]

	回答者数	安全な場所に事前避難する	1週間程度の避難生活が可能となる	家具の固定を確認する	非常持ち出し品の確認をする	水や食料等の備蓄品を確認する	災害情報や避難に関わる情報を入手できるようにする（携帯ラジオ、テレビなど）	家族の安否確認方法を確認する	避難場所・避難経路を確認する	ハザードマップを確認する	津波・土砂災害などの危険性が高い場所に、なるべく近づかないようにする	特に何もしない	その他	無回答
単位：%														
【居住地】														
名古屋市域	422	19.4	31.8	67.5	78.2	58.8	59.2	48.6	27.3	23.0	3.1	1.2	0.9	
尾張地域	365	13.7	34.0	71.2	81.6	56.7	59.5	47.1	23.8	20.5	4.1	0.8	1.6	
海部地域	51	13.7	31.4	64.7	76.5	45.1	52.9	45.1	33.3	29.4	7.8	0.0	2.0	
知多地域	141	14.9	29.8	69.5	81.6	52.5	54.6	46.8	27.0	27.7	6.4	0.0	0.0	
西三河地域	313	13.4	29.4	65.5	78.3	49.2	55.9	46.3	26.2	25.6	6.4	0.6	1.3	
東三河地域	164	12.2	31.1	73.2	79.9	54.9	64.0	48.2	22.6	27.4	3.0	0.0	0.0	
無回答	46	19.6	23.9	56.5	69.6	54.3	45.7	34.8	21.7	17.4	2.2	2.2	4.3	
【年齢】														
10歳代	5	40.0	80.0	80.0	80.0	60.0	40.0	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	
20歳代	65	23.1	35.4	64.6	75.4	47.7	52.3	46.2	26.2	32.3	3.1	1.5	0.0	
30歳代	174	15.5	35.1	71.3	85.1	47.7	59.2	56.3	27.0	26.4	4.6	0.0	0.6	
40歳代	266	12.4	33.1	69.5	78.2	50.0	68.4	53.0	33.5	32.0	6.4	0.4	0.8	
50歳代	305	12.1	30.8	69.2	83.6	58.0	65.2	48.5	23.9	25.9	2.3	0.3	0.7	
60歳代	288	14.6	31.9	68.8	78.1	56.9	55.2	44.4	25.0	19.4	3.8	0.3	0.7	
70歳以上	348	18.1	27.9	68.4	77.0	58.9	49.1	40.8	21.8	17.2	5.5	1.7	2.3	
無回答	51	23.5	21.6	49.0	64.7	49.0	43.1	33.3	21.6	19.6	5.9	2.0	3.9	

## ▽「その他」の記入内容

選択肢 1～9 を日頃よりチェックしている	1 人では何も出来ないと思う
どこへ行けば良いか？	ペットの備蓄品と避難方法の確認・用意（3）
高齢の為行動とれない	自然にまかせる
体が不自由なのでどうしたらいいかわからない	予約のある顧客に連絡する。どうするか決めてもらう。
わからない	

## 2. 住まいの防災対策について

### (1) 市町村の無料耐震診断・耐震改修費補助

(昭和 56 (1981) 年 5 月以前着工の木造・戸建て持ち家にお住まいの方にうかがいます)

問 8 県内の市町村では、昭和 56 (1981) 年 5 月以前に建てられた木造住宅 (旧耐震基準で建築した住宅) の無料耐震診断や耐震改修費補助を行っています。あなたはこのことを知っていますか？ また活用したことがありますか (○は 1 つ)

◎ 「両方知っている」が 18.7%に対して、「両方とも知らない」は 15.3%となっている。

○Web 回答のみ「旧耐震基準で建築した住宅に住んでいるか。」の設問があり

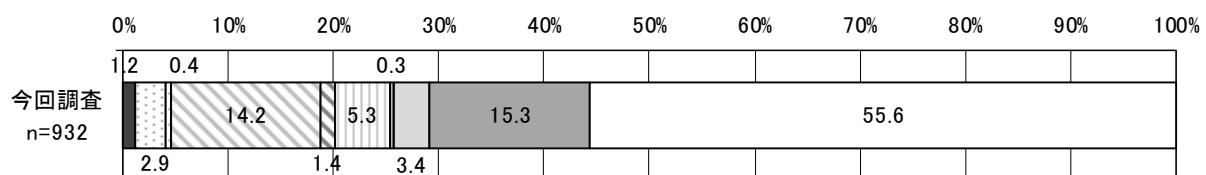
そのうち「住んでいない」と答えた人が 570 人いた為、調査数を n=932 とした。

○無回答を除き「両方とも知らない」が 15.3%と最も多い。

○「無料耐震診断を知っている」(6.7%)、「耐震改修費補助を知っている」(3.7%)であり、双方合わせた『片方のみ知っている』が 10.4%となっている。

○「両方活用したことがある」(1.2%)、「無料耐震診断を活用したことがある」(4.3%)、「耐震改修費補助を活用したことがある」(0.7%)であり、合わせた『活用したことがある』が 6.2%となっている。

図 11. 市町村の無料耐震診断・耐震改修費補助



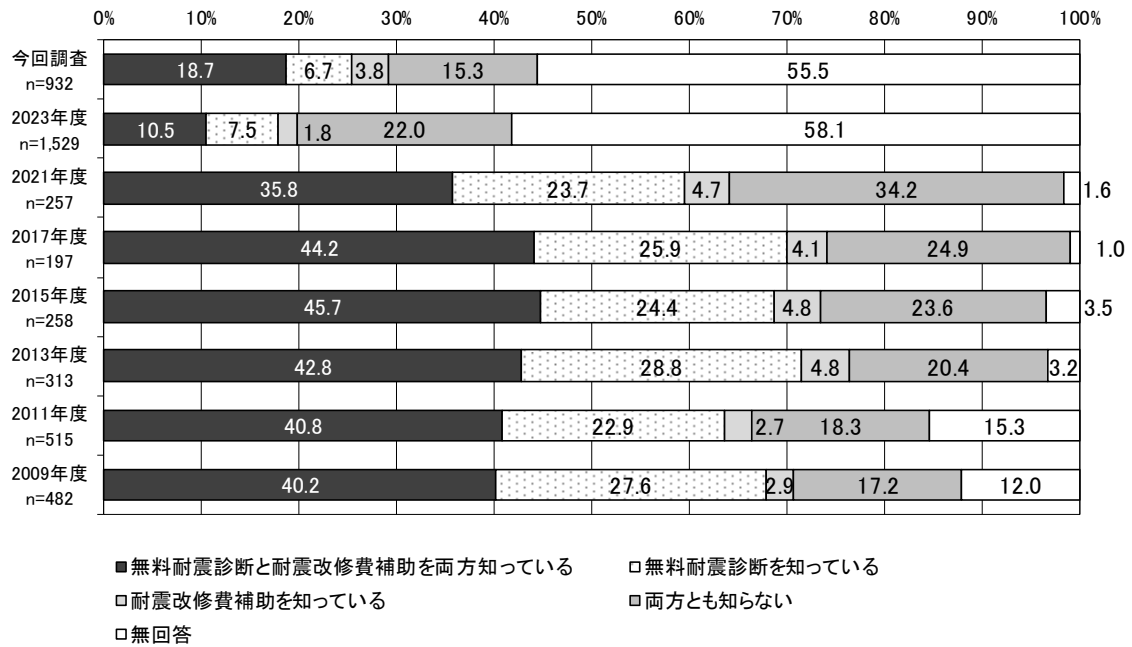
- 無料耐震診断と耐震改修費補助を両方知っており、両方活用したことがある
- 無料耐震診断と耐震改修費補助を両方知っており、無料耐震診断は活用したことがある
- 無料耐震診断と耐震改修費補助を両方知っており、耐震改修費補助は活用したことがある
- 無料耐震診断と耐震改修費補助を両方知っているが、制度を活用したことはない
- 無料耐震診断を知っており、活用したことがある
- 無料耐震診断を知っているが、活用したことはない
- 耐震改修費補助を知っており、活用したことがある
- 耐震改修費補助を知っているが、活用したことはない
- 両方とも知らない
- 無回答

(単位: %)

## ◆市町村の無料耐震診断・耐震改修費補助[経年比較]

- 「無料耐震診断と耐震改修費補助を両方知っている」人の割合は前回調査より、8.2 ポイント高い。
- 「両方とも知らない」人の割合は 2.6 ポイント減少している。

図 12. 市町村の無料耐震診断・耐震改修費補助[経年比較]

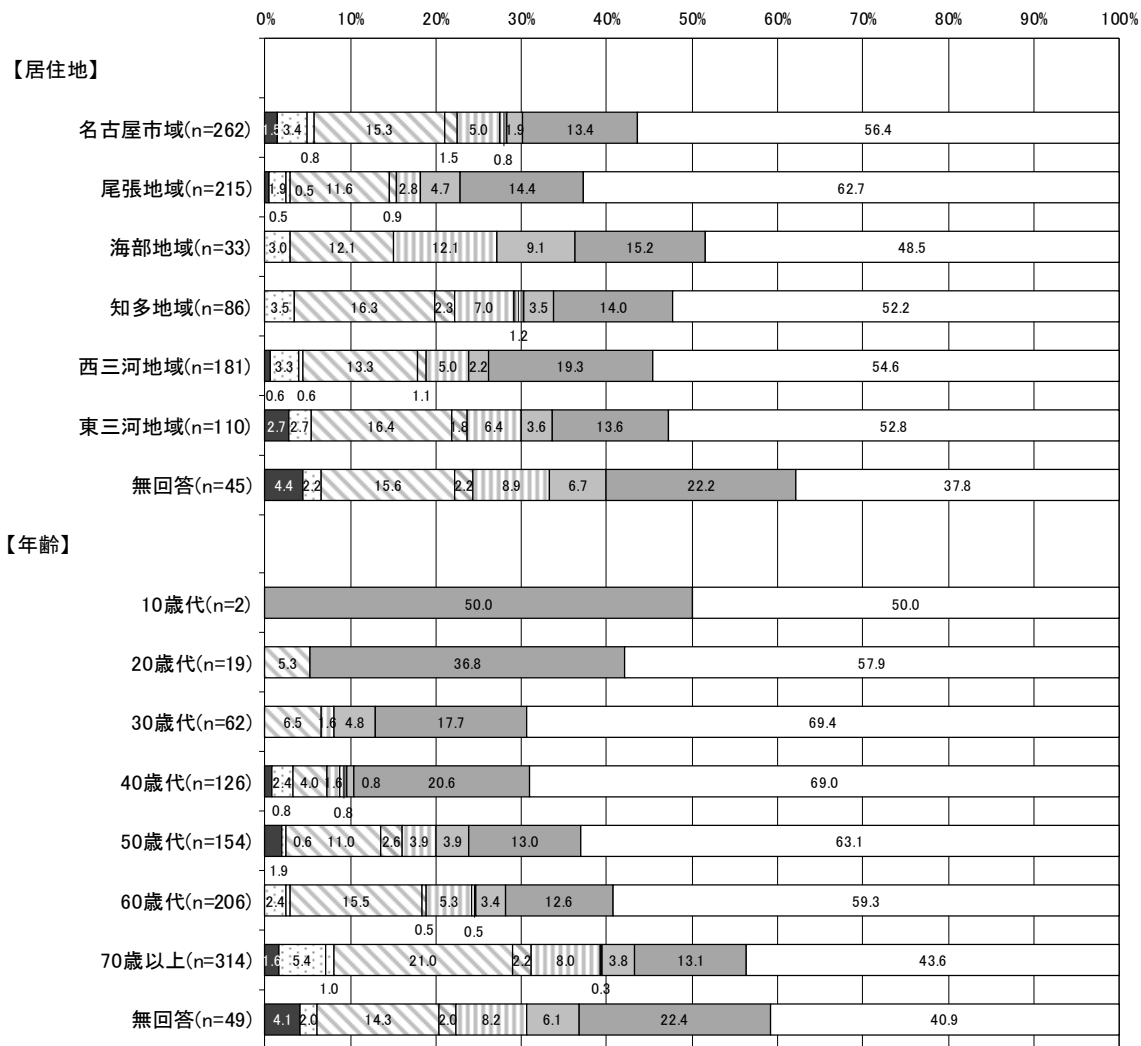


(単位: %)

## ◆市町村の無料耐震診断・耐震改修費補助[居住地別、年齢別]

- 年齢別でみると、年齢が高いほど「無料耐震診断と耐震改修費補助を両方知っている」と「無料耐震診断を知っている」割合が高い傾向にある。また、70歳以上で29.0%の人が「無料耐震診断と耐震改修費補助を両方知っている」と回答している。

図 13. 市町村の無料耐震診断・耐震改修費補助[居住地別、年齢別]



- 無料耐震診断と耐震改修費補助を両方知っており、両方活用したことがある  
 □ 無料耐震診断と耐震改修費補助を両方知っており、無料耐震診断は活用したことがある  
 □ 無料耐震診断と耐震改修費補助を両方知っており、耐震改修費補助は活用したことがある  
 □ 無料耐震診断と耐震改修費補助を両方知っているが、制度を活用したことはない  
 □ 無料耐震診断を知っており、活用したことがある  
 □ 無料耐震診断を知っているが、活用したことはない  
 □ 耐震改修費補助を知っており、活用したことがある  
 □ 耐震改修費補助を知っているが、活用したことはない  
 □ 両方とも知らない  
 □ 無回答

(単位: %)

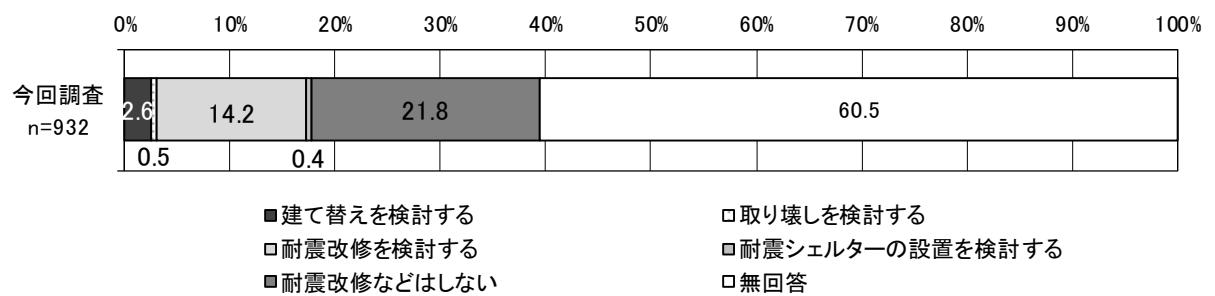
## (2) 耐震診断結果後の対策

・問9 あなたは、もしご自宅の耐震診断を受けて、その結果「耐震改修が必要と判断された」と判定された場合、耐震改修などを行いますか？（○は1つ）

◎ 「耐震改修などはしない」が21.8%と最も多い、一方「耐震改修を検討する」人の割合は14.2%となっている。

○ 「耐震改修などはしない」が21.8%と最も多い。

図 10. 耐震診断結果後の対策



(単位: %)



## (3) 耐震改修をしない理由

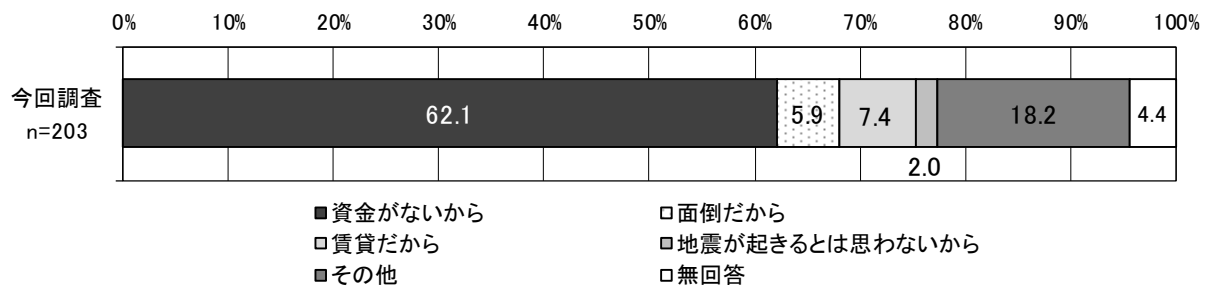
(問9で5を選択した方にうかがいます)

耐震改修しない理由(右から○を1つ)

◎ 「資金がないから」が62.1%と最も多く、次いで「その他」が18.2%となっている。

○ 「資金がないから」が62.1%と最も多い。

図 11. 耐震改修をしない理由



(単位: %)

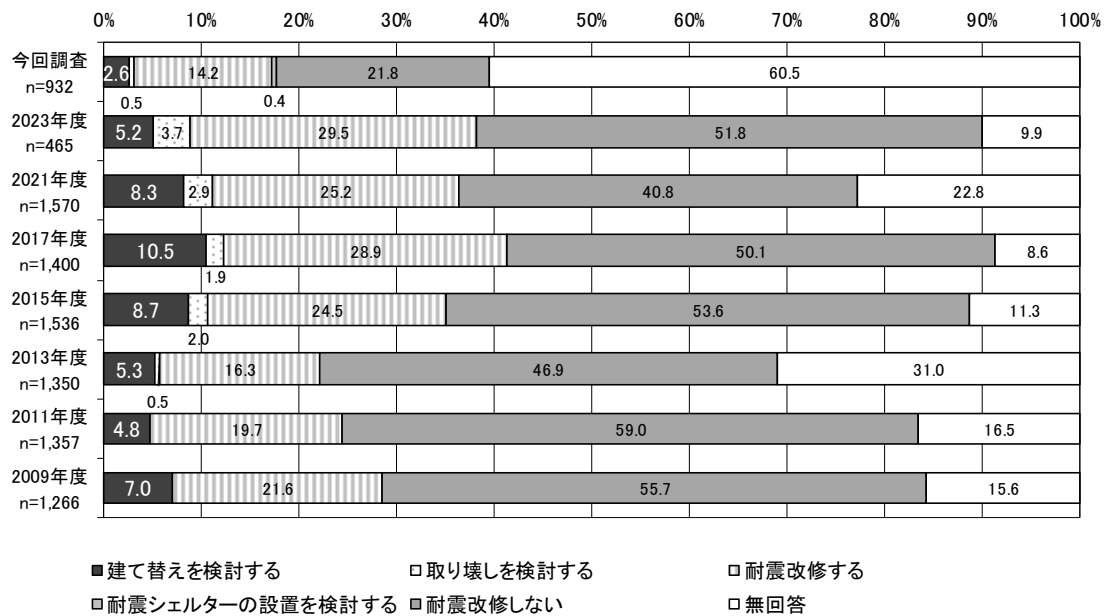
## ▽「その他」の記入内容

高齢のため (3)。	持ち主ではない (2)
2戸所有の内、1戸は住んでいない。	セキスイハイム
その時に考える。	もうすでに耐震対策済み
引越す	家が古いから
家が丈夫	現在80才残りの人生に資金を活用
後継者居住なし	公式診断ではないが、改築の際補強している
自分で耐震工事をした	手続きが面倒だから。補助金を受ける。
住んでから全改築	重量鉄骨
親が建て、頑丈に造ったと言い張るから(柱を多く 使い筋かいを細かく入れ、かわらの重ねを倍にし た)	相談する
増築時に20年前に筋かいを入れたから	地震保険に加入している
比較的新しい家だから (2)	余命少ない
コメントなし (5)	

## ◆耐震診断結果後の対策[経年比較]

- 前回調査より「耐震改修する」人の割合が 15 ポイント減少した。
- 「耐震改修しない」人の割合も、30 ポイント減少した。

図 16. 倒壊の危険ありと判断された場合の耐震改修[経年比較]

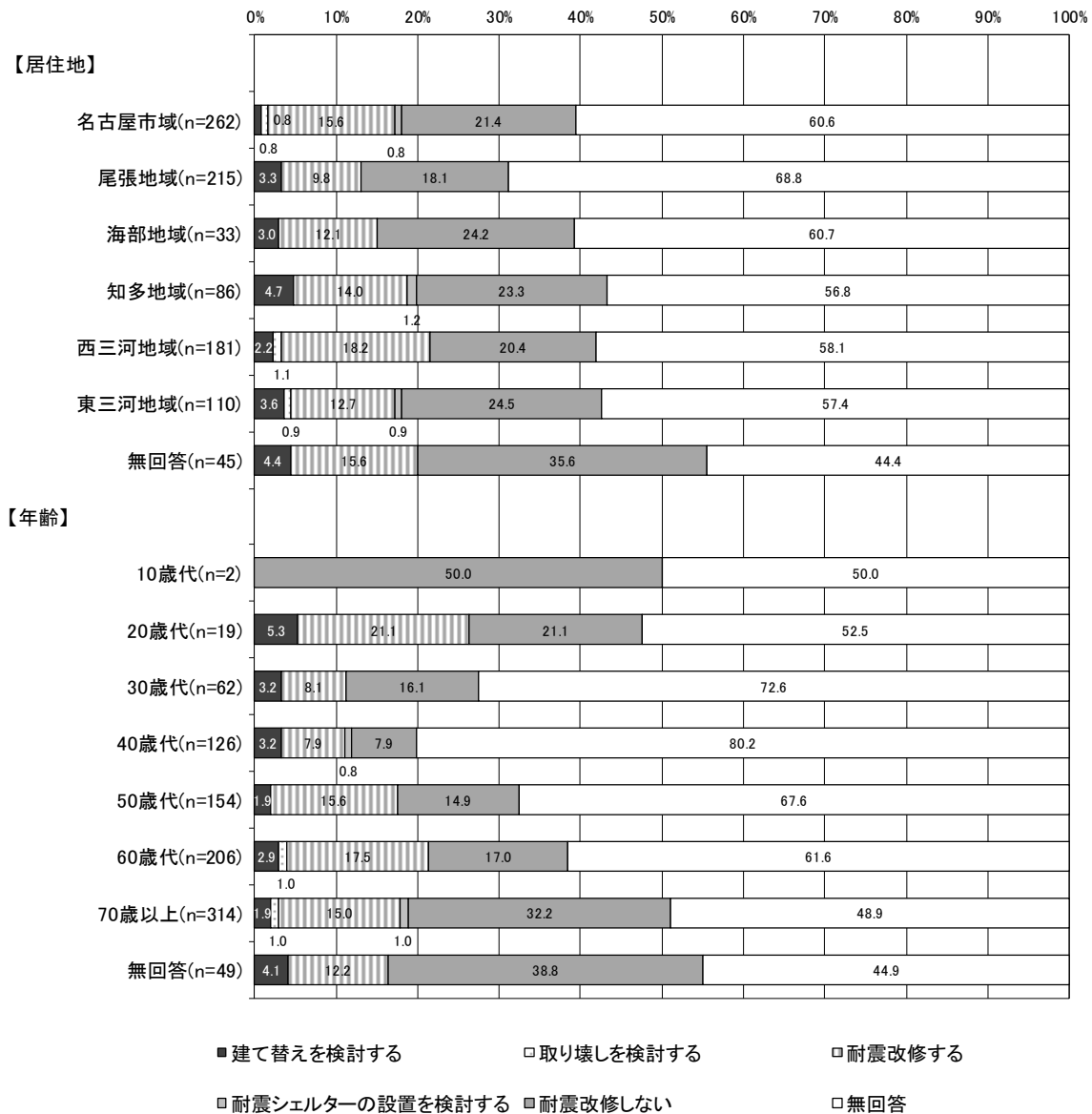


(単位: %)

## ◆耐震診断結果後の対策[居住地別、年齢別]

- 年齢別でみると、年齢が高いほど「建て替えを検討する」が低く「耐震改修しない」割合が高い傾向にある。

図 17. 耐震診断結果後の対策[居住地別、年齢別]



(単位: %)

## (4) 耐震改修する場合の工事費

(問8で3を選択した方にうかがいます)

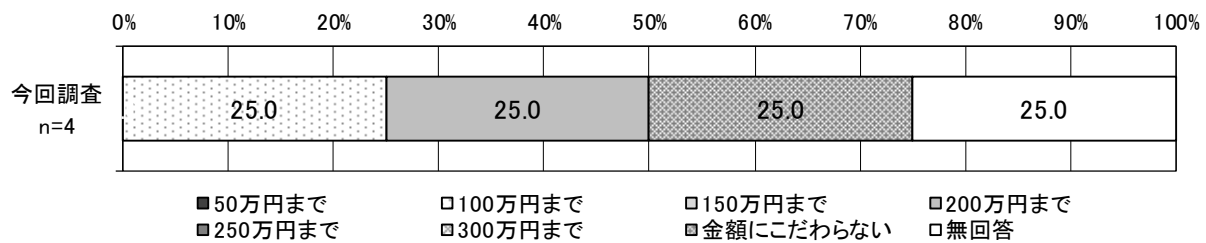
問10 仮にご自宅の耐震改修を行う場合、あなたは工事費として、いくらぐらいまでなら支出してもよいと考えますか？(○は1つ)

(愛知県内で耐震改修費補助を受けた方の平均工事費は、約280万円です)

◎ 「100万円まで」、「200万まで」、「金額にこだわらない」と答えている。

○ 設問8で3と答えた人の数が少なく、それぞれ「100万円まで」、「200万まで」、「金額にこだわらない」、「無回答」と答えている。

図18. 耐震改修する場合の工事費

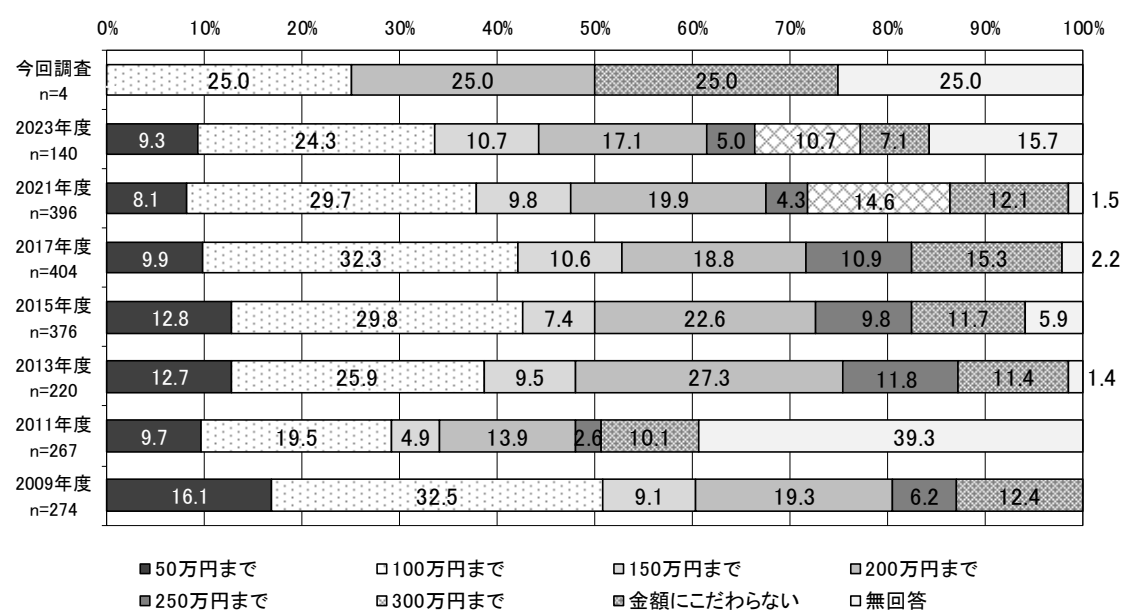


(単位: %)

## ◆耐震改修する場合の工事費[経年比較]

○ 今回調査の回答数が少ないので、参考に記載しています。

図 19. 耐震改修する場合の工事費[経年比較]



(単位: %)

## ◆耐震改修する場合の工事費[地域別、年齢別]

○ 回答数が少ないので、表にて記載しています。

[地域別]

地 域	回答内容
名古屋市域	100 万円まで
名古屋市域	無回答
尾張地域	金額にこだわらない
西三河地域	200 万円まで

[年齢別]

年 齢	回答内容
60 歳代	200 万円まで
70 歳以上	100 万円まで
70 歳以上	金額にこだわらない
70 歳以上	無回答

)

## (5) 住まいの防災対策

(すべての方にうかがいます)

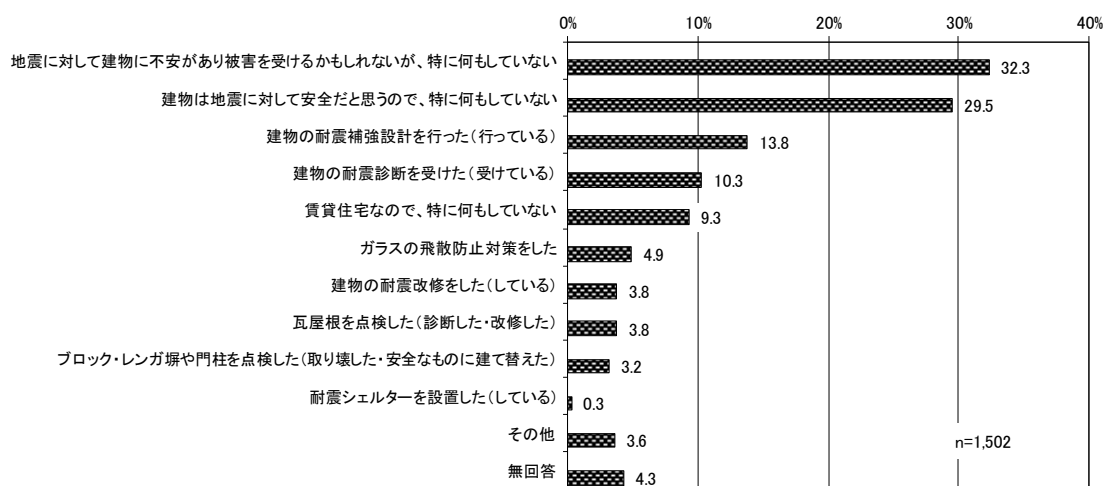
問 11 住まいの防災対策について、ご自宅ではどのような対策をしていますか？（○はいくつでも）

◎ 32.3%の人が「地震に対して建物に不安があり被害を受けるかもしれないが、特に何もしていない」と答えている。

「建物の耐震診断を受けた」と答えた人は、10.3%にとどまっている。

- 住まいの防災対策について、最も多いのは「地震に対して建物に不安があり被害を受けるかもしれないが、特に何もしていない」の 32.3%に次いで多いのは「建物は地震に対して安全だと思うので、特に何もしていない」の 29.5%である。
- それに対し、「建物の耐震改修をした（している）」は 3.8%、「瓦屋根を点検した（診断した・改修した）」は 3.8%、「ブロック・レンガ塀や門柱を点検した（取り壊した・安全なものに建て替えた）」は 3.2%となっている。

図 20. 住まいの防災対策



(単位: %)



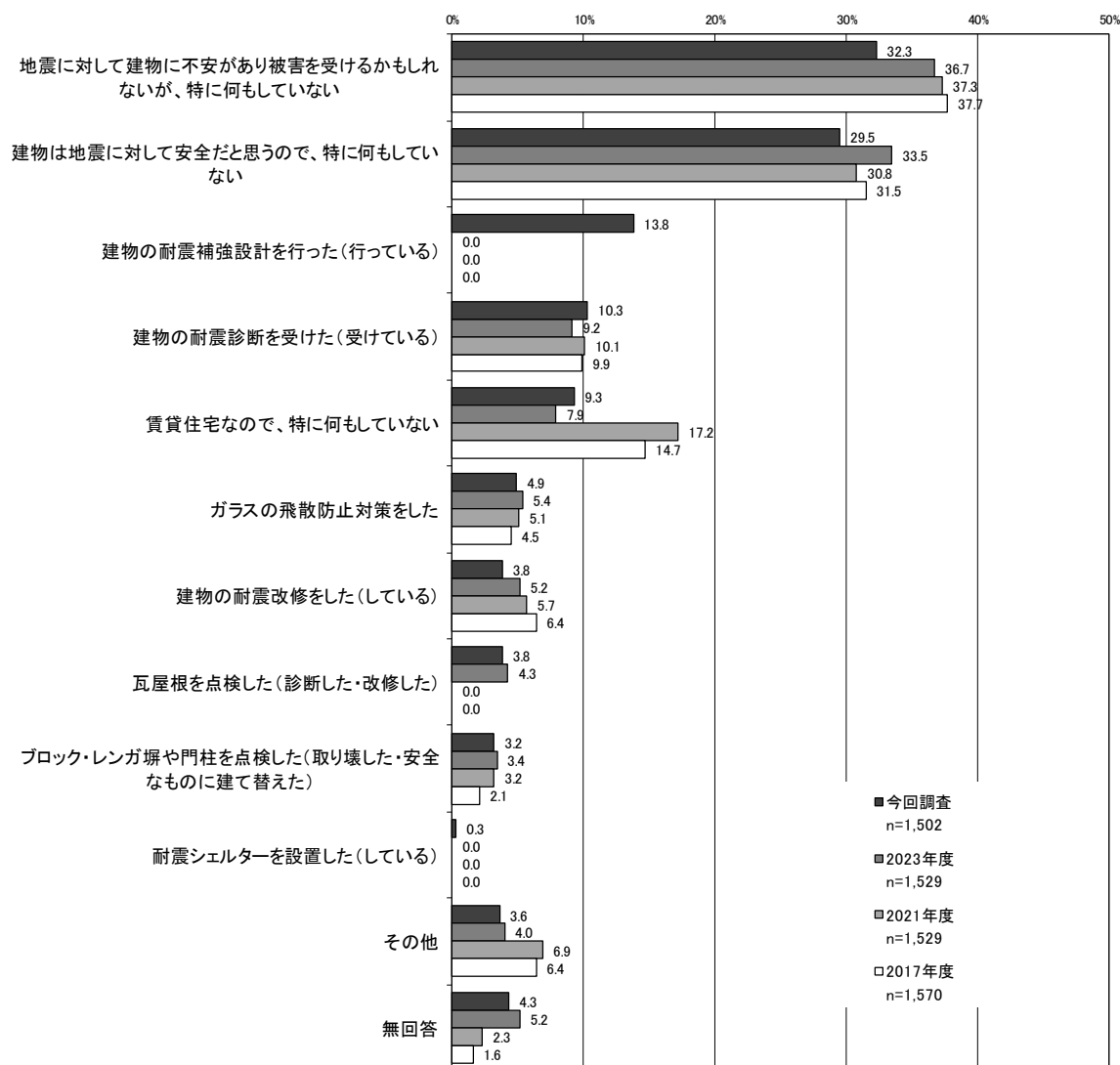
## ▽「その他」の記入内容

コメントなし (20)	特にない (7)
不明 (3)	建替中 (3)
賃貸所有のマンションの為管理組合にお任せしている (3)	家具固定 (4)
建替済み (3)	7 年前に一部リフォーム時に耐震にしていると思う
セキスイ	安全だとは思っていないが、問題がある訳でもない、不安でも特にすべき事がない。
金ない	建築業者には相談したが、特に対策が必要ないとの結論に至った。
建物は免震設計である	盛りさをして周囲より高い場所に家を建てた、浸水被害を防ぐため
大きい家具をなくした	部分 2 階だけとばない様に金具で固定をした。
保険に入る	免震装置を装着した

## ◆住まいの防災対策〔経年比較〕

- 「地震に対して建物に不安があり被害を受けるかもしれないが、特に何もしていない」人の割合は、2017年度調査から年々減少傾向にある。

図 21. 住まいの防災対策〔経年比較〕



(単位: %)

## ◆住まいの防災対策[居住地別、年齢別]

- 居住地別でみると、尾張地域では「賃貸住宅なので、特に何もしていない」(11.8%)が他の地域に比べ多くなっている。

表 14. 住まいの防災対策[居住地別、年齢別]

	回答者数	建物の耐震診断を受けた(受けている)	建物の耐震補強設計を行った(行っている)	建物の耐震改修をした(している)	耐震シェルターを設置した(している)	建物には地震に対して安全だと思わないので、特に何もしていない	地震に対して建物に不安があり被害を受けるかもしれないが、特に何もしていない	地震に耐えられず、安全なものに建て替えた(取り壊した・安全なものを建て替えた)	ブロック・レンガ塀や門柱を点検した(瓦屋根を点検した(診断した・改修した))	ガラスの飛散防止対策をした	賃貸住宅なので、特に何もしていない	その他	無回答
単位：%													
【居住地】													
名古屋地域	422	11.1	14.5	4.0	0.2	32.2	29.9	3.3	3.8	6.2	9.5	4.3	4.0
尾張地域	365	10.7	14.8	3.0	0.3	25.5	34.5	2.7	3.8	4.4	11.8	2.7	3.6
海部地域	51	19.6	5.9	3.9	2.0	29.4	31.4	3.9	7.8	0.0	7.8	7.8	3.9
知多地域	141	9.2	10.6	3.5	0.7	27.7	39.0	5.0	2.1	6.4	6.4	0.7	5.7
西三河地域	313	8.0	14.7	3.2	0.0	32.3	30.4	1.9	3.8	3.2	8.0	3.8	4.8
東三河地域	164	9.8	14.0	4.9	0.0	31.1	31.1	3.7	3.0	3.0	8.5	4.9	4.3
無回答	46	10.9	13.0	8.7	0.0	17.4	34.8	6.5	6.5	15.2	8.7	2.2	6.5
【年齢】													
10歳代	5	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	65	7.7	13.8	3.1	0.0	24.6	24.6	1.5	3.1	4.6	24.6	3.1	3.1
30歳代	174	20.7	18.4	1.7	1.1	31.0	17.8	0.6	0.6	2.9	17.2	3.4	0.6
40歳代	266	13.2	21.8	3.4	0.0	31.2	24.4	1.5	1.5	6.0	10.9	3.8	0.8
50歳代	305	7.5	15.1	2.0	0.0	28.5	36.4	3.0	3.6	4.9	9.8	3.0	3.6
60歳代	288	7.3	9.0	3.1	0.0	34.4	34.0	3.1	2.4	3.1	4.9	3.5	5.9
70歳以上	348	8.6	8.6	6.9	0.6	26.7	42.5	6.0	8.0	5.5	4.3	4.0	7.8
無回答	51	9.8	11.8	7.8	0.0	19.6	27.5	5.9	5.9	11.8	9.8	5.9	9.8

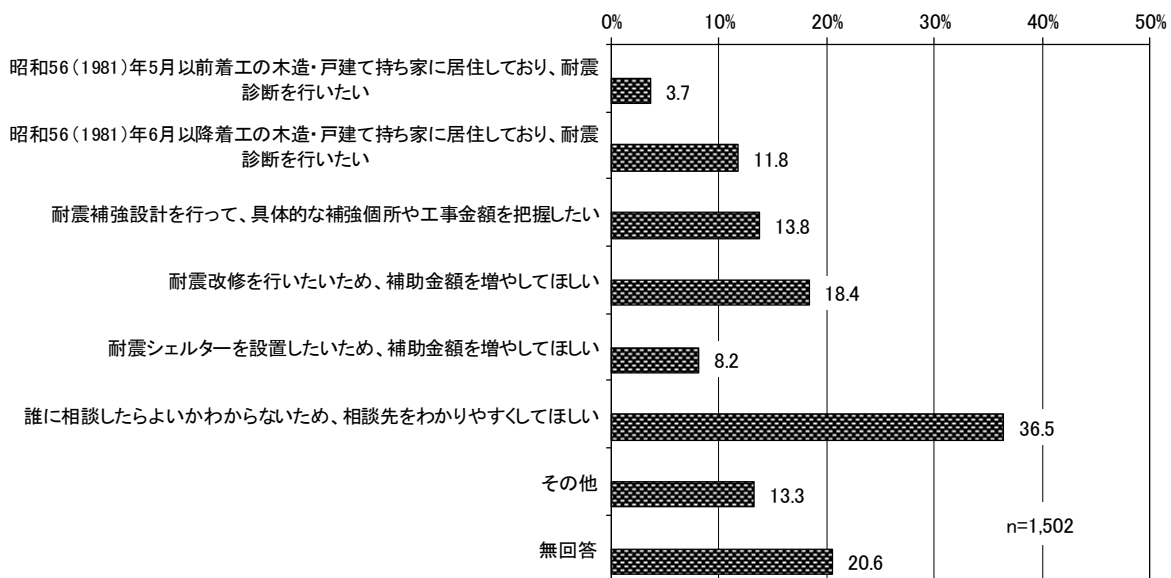
## (6) 住まいの防災対策（要望）

(すべての方にうかがいます)

問 12 住まいの防災対策について、ご自宅にどのような対策が必要と考えますか？（〇はいくつでも）

- ◎ 36.5%の人が「誰に相談したらよいかわからないため、相談先をわかりやすくしてほしい」と答えている。
- 住まいの防災対策についての要望にて、最も多いのは「誰に相談したらよいかわからないため、相談先をわかりやすくしてほしい」の 36.5%。次いで多いのは「耐震改修を行いたいため、補助金額を増やしてほしい」の 18.4%、「耐震補強設計を行って、具体的な補強箇所や工事金額を把握したい」の 13.8%となる。

図 22. 住まいの防災対策（要望）



(単位: %)

## ▽「その他」の記入内容

コメントなし (69)	賃貸なのでわからない (15)
特になし (47)	何をしたら良いかわからない (5)
マンションなので任せている (3)	耐震診断を行い、改修した。(8)
ガラスにフィルムを貼りたいが、猛暑で割れると聞き悩み中。	セキスイ
まだ補強は必要無いと思う (6)	一部だけ 56 年以前有
家以外	家具の転倒予防 (7)
建て替え中 (2)	軽量鉄骨造
建築業者様に相談をしております	高齢の 1 人暮らしの為、今から工事をする気は無いです。
今のまま	今の借家は、宮大工が建てたものなので、その技術を信じたい。
自分に決定権が無い。	住宅メーカーにお伝えしているので良い。
必要ないと考えている (2)	昭和 45 年頃着工の木造・戸建てなので、今年 4 月建物すべてリフォームした。
寝室の家具転倒防止はしているが他の部屋も検討したい	新しい家なので特に対策出来ることは無いと思う
新耐震基準の住居に居住しておりこれでも被災するならやむを得ず	耐震対策はできている。(2)
水や食料の備蓄	太陽光発電や蓄電池など非常用電源装置、雨水の貯水設備設置
耐震基準を満たした住宅なので、とくに必要ないと思う。(4)	築年数が浅いため、特に無い (4)
停電時に備えて、蓄電池の補助金制度があれば嬉しい。	鉄コンクリート住宅
鉄骨 2 階建てですが、雨戸がついてないので窓ガラスの割れが心配	倒壊する時倒壊する
費用がないため、どの対策にも対応できません	別棟があり耐震の必要を感じていない

## ◆住まいの防災対策(要望)[居住地別、年齢別]

- 居住地別でみると、海部地域では「誰に相談したらよいかわからないため、相談先をわかりやすくしてほしい」(43.1%)が他の地域に比べ多くなっている。

表 15. 住まいの防災対策(要望)[居住地別、年齢別]

	回答者数	昭和56年(1981年)以前耐震診断を行い、耐震補強を希望する世帯	昭和56年(1981年)以前耐震診断を行い、耐震補強を希望する世帯	耐震補強を希望する世帯	耐震補強を希望する世帯	耐震補強を希望する世帯	耐震補強を希望する世帯	耐震補強を希望する世帯	耐震補強を希望する世帯	無回答
単位：%										
【居住地】										
名古屋市域	422	2.8	9.5	13.0	15.4	7.1	37.9	16.4	20.9	
尾張地域	365	3.6	11.2	12.9	16.7	6.0	38.4	13.2	20.3	
海部地域	51	5.9	11.8	13.7	41.2	15.7	43.1	5.9	13.7	
知多地域	141	5.7	17.7	13.5	17.0	10.6	37.6	14.2	17.7	
西三河地域	313	2.9	13.4	15.0	20.4	9.3	35.1	13.4	18.8	
東三河地域	164	4.3	13.4	14.6	20.7	11.6	31.1	7.3	25.6	
無回答	46	8.7	2.2	17.4	17.4	0.0	26.1	13.0	30.4	
【年齢】										
10歳代	5	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	
20歳代	65	3.1	13.8	15.4	30.8	21.5	49.2	6.2	4.6	
30歳代	174	0.0	9.8	12.1	18.4	14.9	37.9	10.3	18.4	
40歳代	266	2.6	8.6	13.9	21.1	10.9	41.7	13.9	16.5	
50歳代	305	4.3	13.8	15.4	18.4	7.5	42.3	14.1	16.7	
60歳代	288	2.8	13.9	13.9	17.0	4.5	32.3	13.2	22.2	
70歳以上	348	6.3	12.6	12.4	15.8	4.9	28.7	15.2	28.7	
無回答	51	7.8	3.9	15.7	15.7	0.0	29.4	13.7	29.4	

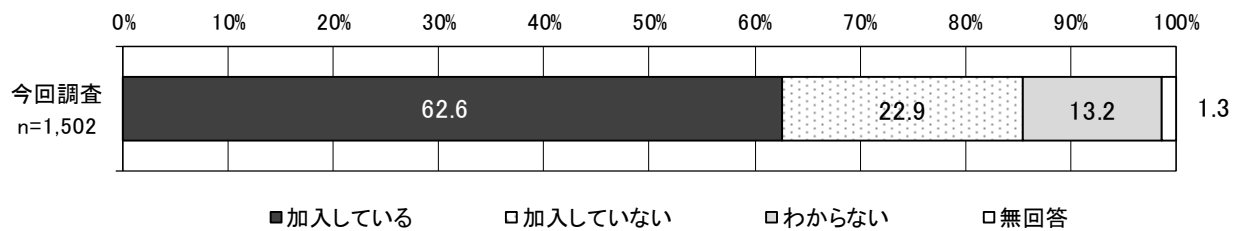
## (7) 地震保険や共済（県民共済、JA 共済、全労災など）

問 13 地震や津波による損害が補償される地震保険や共済保険（県民共済、JA 共済、全労災など）に加入していますか？（○は1つ）

◎ 62.6%の人が「加入している」と答えている。

○ 地震保険や共済について「加入している」（62.6%）が最も多くなっている。次いで「加入していない」（22.9%）となっている。

図 23. 地震保険や共済（県民共済、JA 共済、全労災など）

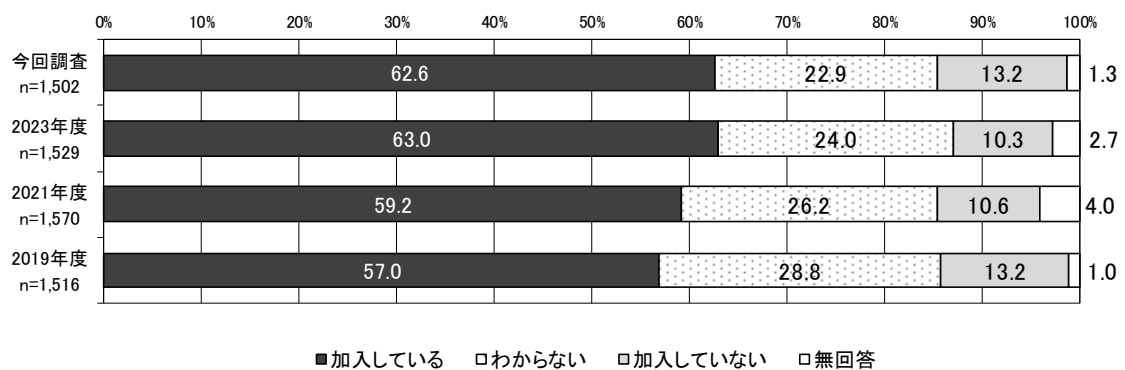


(単位: %)

◆地震保険や共済（県民共済、JA 共済、全労災など）[経年比較]

○ 前回調査に比べ、「加入している」が 0.4 ポイント減少している。

図 24. 地震保険や共済（県民共済、JA 共済、全労災など）[経年比較]

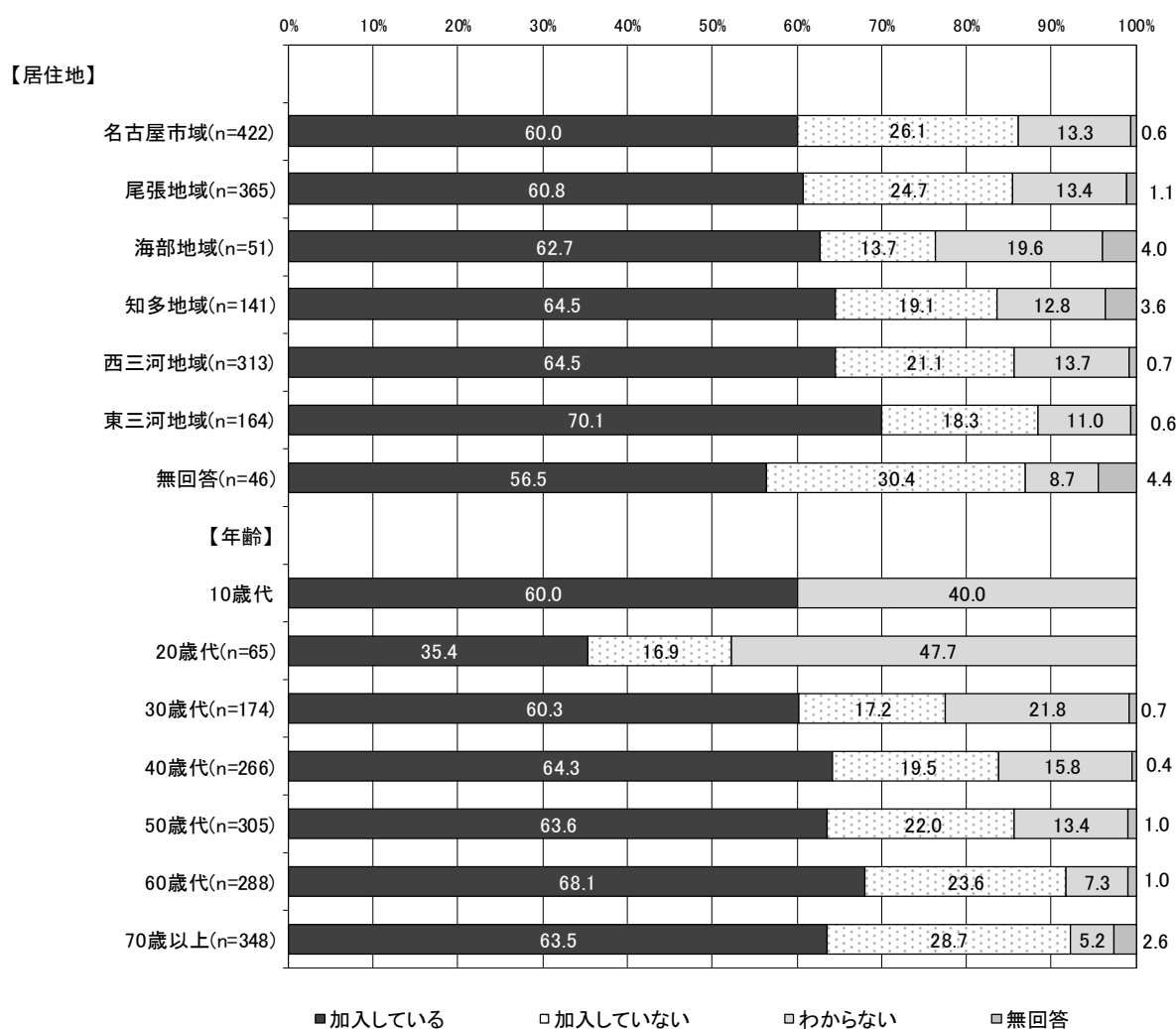


(単位: %)

## ◆地震保険や共済（県民共済、JA共済、全労災など）〔居住地別、年齢別〕

○ 年齢別では、60歳代で「加入していない」割合が68.1%と他の年代に比べ高くなっている。

図 25. 地震保険や共済（県民共済、JA共済、全労災など）〔年齢別、在住期間別〕



(単位: %)



## (8) 保険に加入しない理由

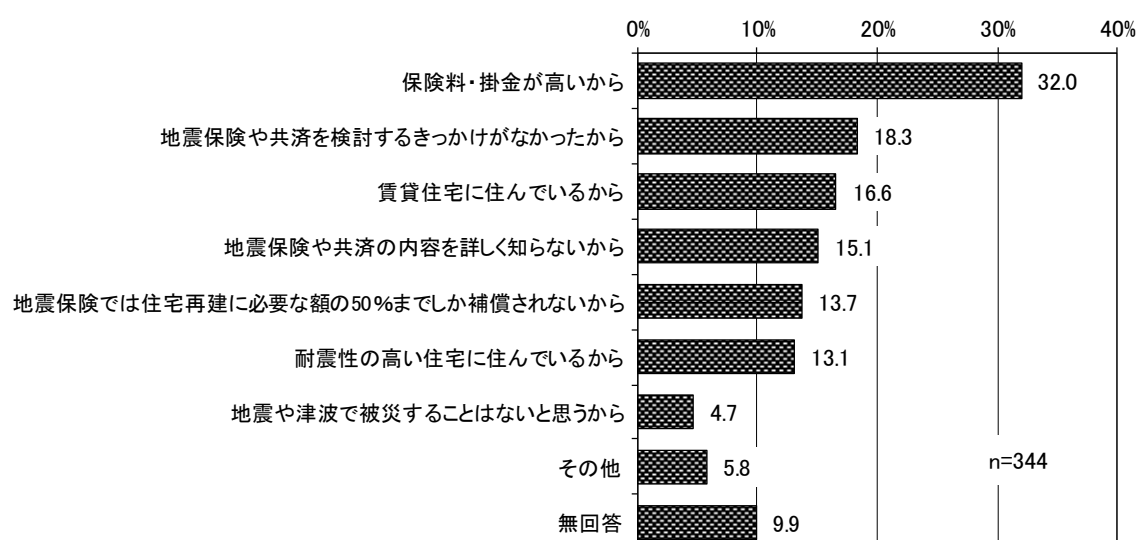
(問 13 で 3 を選択した方にうかがいます)

加入していない理由 (〇はいくつでも)

◎ 保険に加入していない理由について「保険料・掛金が高いから」が 32.0%であった。

○ 保険に加入していない理由について、「保険料・掛金が高いから」が 32.0%と最も多く、次いで「地震保険や共済を検討するきっかけがなかったから」が 18.3%である。

図 26. 保険に加入しない理由



(単位: %)

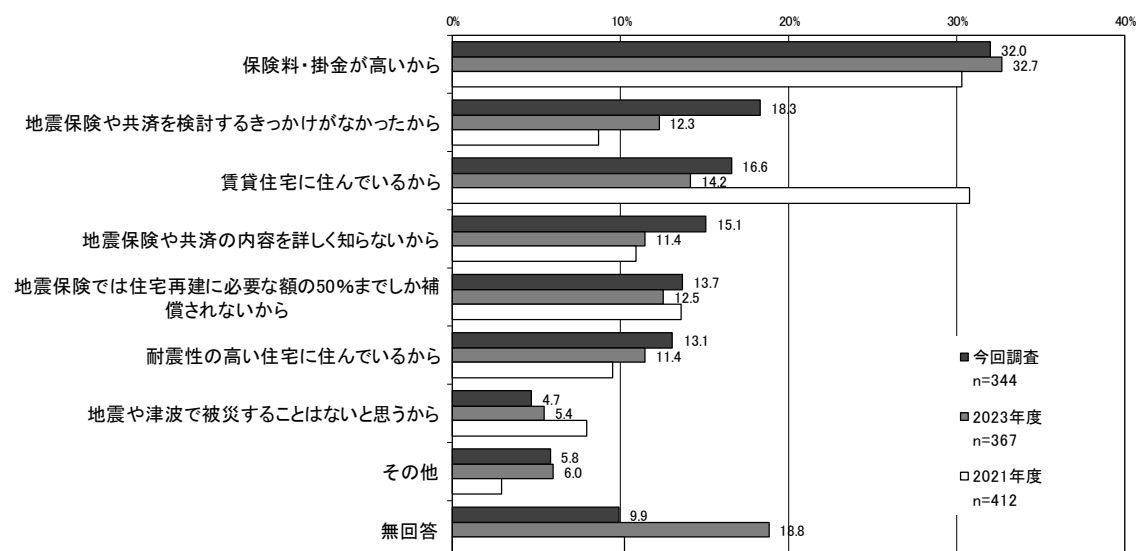
## ▽「その他」の記入内容

コメントなし (5)	賃貸のため (3)
なんとなく	わからない
保険金が高い	加入していたが、高齢のため、やめた
家の築年数かつ古いと保険に入ることができなかった	家屋が古いから
契約が切れてそのまま、これを機会に検討します。	建て替え中の為
建設時には深く考えていなかった為	現在は火災保険のみ加入
次回の保険切り替え時に検討	築 65 年目であるが必要を感じない。三河地震時、町内は一軒も倒壊しなかった。(親より一枚岩の上にあり丈夫という話)

## ◆保険に加入しない理由[経年比較]

- 前回調査と比べ、「保険料・掛金が高いから」(32.0%)が0.7ポイント減少し、「地震保険や共済を検討するきっかけがなかったから」(18.3%)が、6.0ポイント増加した。

図 27. 保険に加入しない理由[経年比較]



(単位: %)

## ◆保険に加入しない理由[居住地別、年齢別]

○ 年齢別にみると、年齢が低いほど「賃貸住宅に住んでいるから」の割合が高くなる傾向。

表 16. 保険に加入しない理由[居住地別、年齢別]

	回答者数	思うから	地震や津波で被災することはないと	耐震性の高い住宅に住んでいるから	賃貸住宅に住んでいるから	保険料・掛金が高いから	50%までは住宅再建に必要から	地震保険や共済の内容を詳しく知ら	地震保険や共済を検討するきっかけ	その他	無回答
単位：％											
【居住地】											
名古屋市域	110	4.5	13.6	14.5	40.9	13.6	14.5	21.8	7.3	6.4	
尾張地域	90	6.7	10.0	24.4	24.4	12.2	16.7	16.7	3.3	10.0	
海部地域	7	14.3	14.3	14.3	42.9	14.3	28.6	28.6	28.6	0.0	
知多地域	27	0.0	11.1	7.4	22.2	18.5	25.9	22.2	3.7	7.4	
西三河地域	66	3.0	21.2	13.6	37.9	16.7	12.1	13.6	4.5	10.6	
東三河地域	30	6.7	6.7	20.0	23.3	10.0	3.3	23.3	10.0	6.7	
無回答	14	0.0	7.1	7.1	14.3	7.1	21.4	0.0	0.0	50.0	
【年齢】											
10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
20歳代	11	0.0	18.2	36.4	36.4	18.2	27.3	27.3	0.0	0.0	
30歳代	30	0.0	6.7	43.3	20.0	3.3	20.0	13.3	3.3	6.7	
40歳代	52	5.8	19.2	28.8	38.5	23.1	13.5	13.5	0.0	1.9	
50歳代	67	1.5	6.0	19.4	35.8	17.9	14.9	14.9	6.0	6.0	
60歳代	68	13.2	16.2	5.9	32.4	7.4	11.8	23.5	10.3	7.4	
70歳以上	100	3.0	15.0	7.0	31.0	14.0	15.0	23.0	14.0	8.0	
無回答	16	0.0	6.3	6.3	18.8	6.3	18.8	0.0	50.0	0.0	

(単位：％)

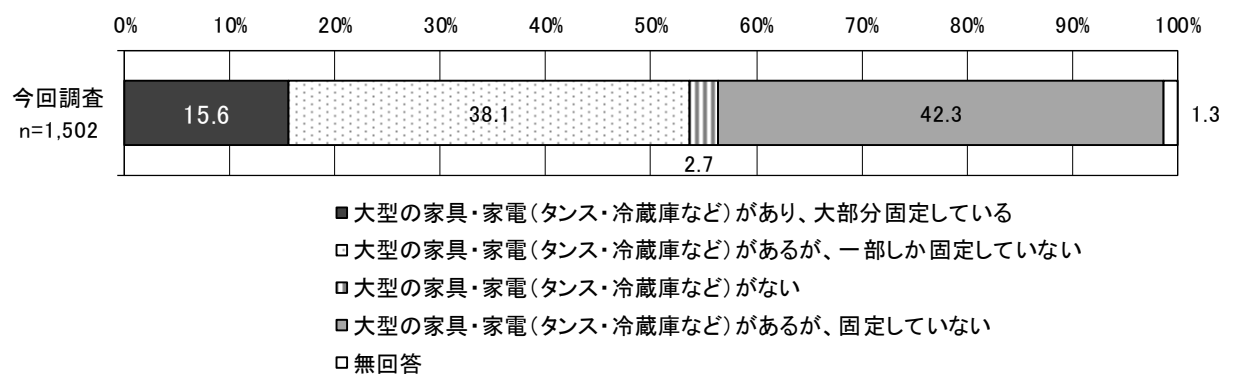
## (9) 家具などの固定

問 14 ご自宅に地震により転倒のおそれがある、大型の家具・家電（タンス・冷蔵庫など）はありますか？また、ある場合、家具や家電を固定するなどの対策をしていますか？（○は1つ）

◎ 家具を「固定していない」が42.3%と最も多くなっている。

○ 自宅の家具などは「固定していない」が42.3%と最も多く、次いで「一部しか固定していない」は38.1%、「大部分固定している」は15.6%となっている。

図 28. 家具などの固定

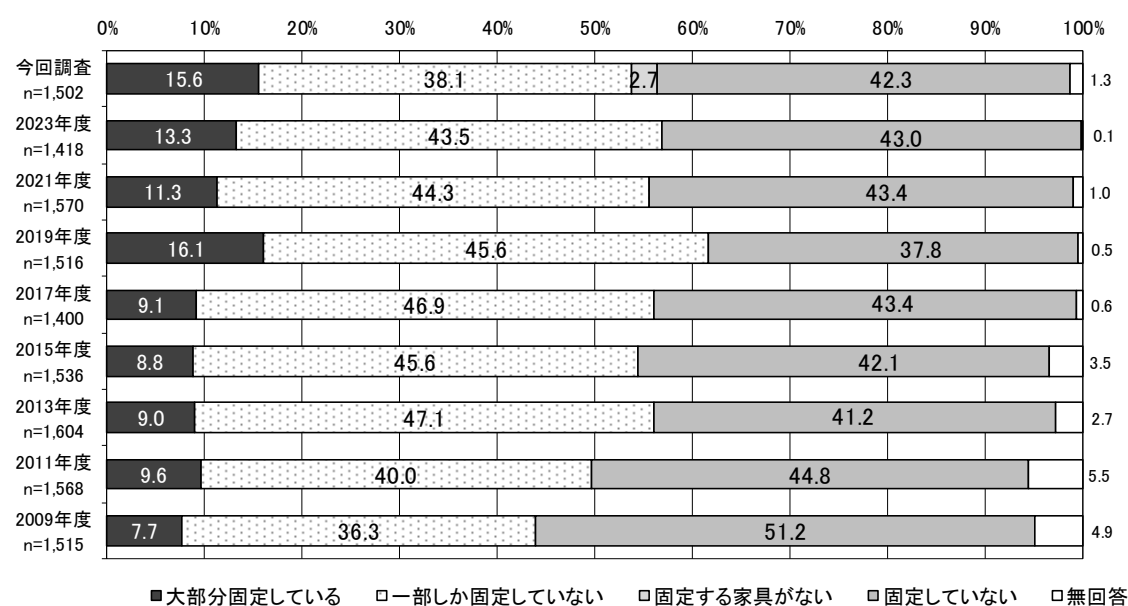


(単位: %)

## ◆家具などの固定[経年比較]

○ 家具など「大部分固定している」人の割合は、前回調査よりも 2.3 ポイント増加している。

図 29. 家具などの固定[経年比較]

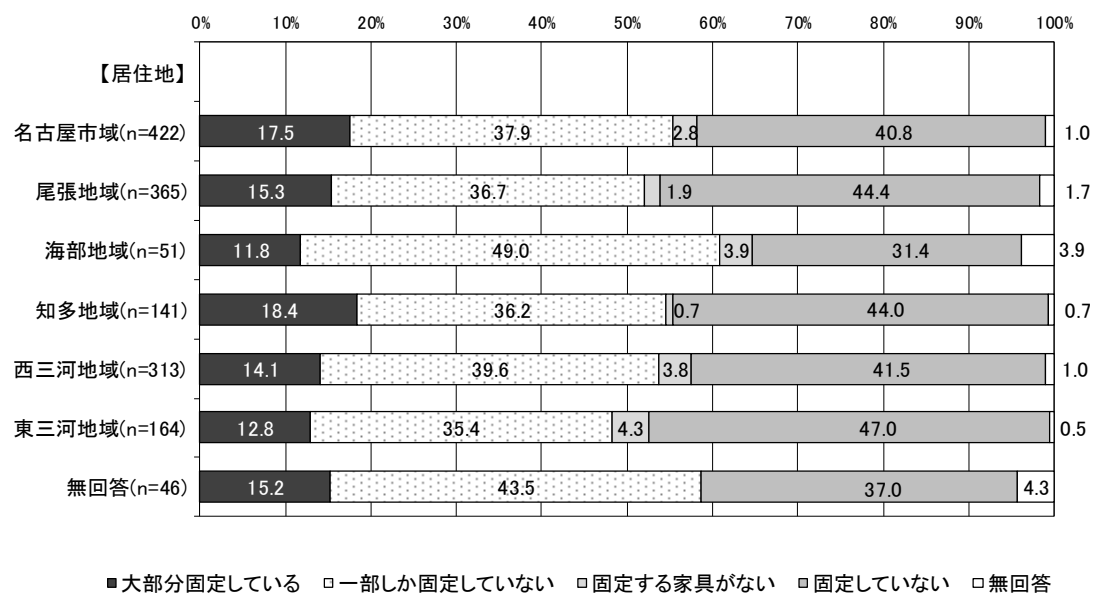


(単位: %)

## ◆家具などの固定[居住地別]

○ 居住地別にみると、海部地域で「一部しか固定していない」人の割合が高くなっている。

図 30. 家具などの固定[居住地別]



(単位: %)

## (10) 家具などを固定しない理由

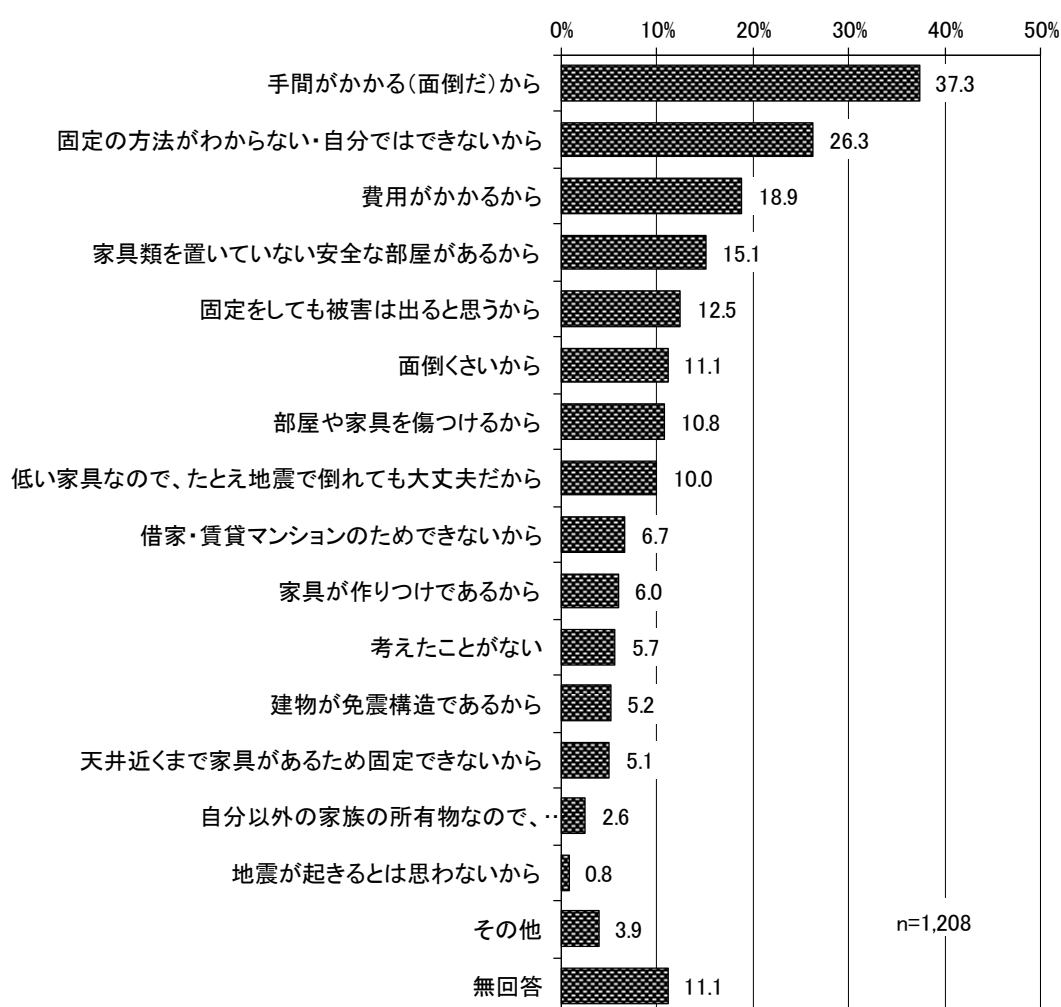
(問 14 で 2 または 3 を選択した方にうかがいます)

問 15 家具・家電を固定していない理由は何ですか？(○は主なものを3つまで)

◎家具などを固定しない理由の多いものは、「手間がかかる(面倒だ)から」が37.3%となっている。

- 家具などを固定しない理由は、「手間がかかる(面倒だ)から」が37.3%と最も多く、次いで「固定の方法がわからない・自分ではできないから」(26.3%)、「費用がかかるから」(18.9%)となっている。

図 31. 家具などを固定しない理由



(単位: %)

## ▽「その他」の記入内容

コメントなし (6)	夫婦で足が不自由
------------	----------

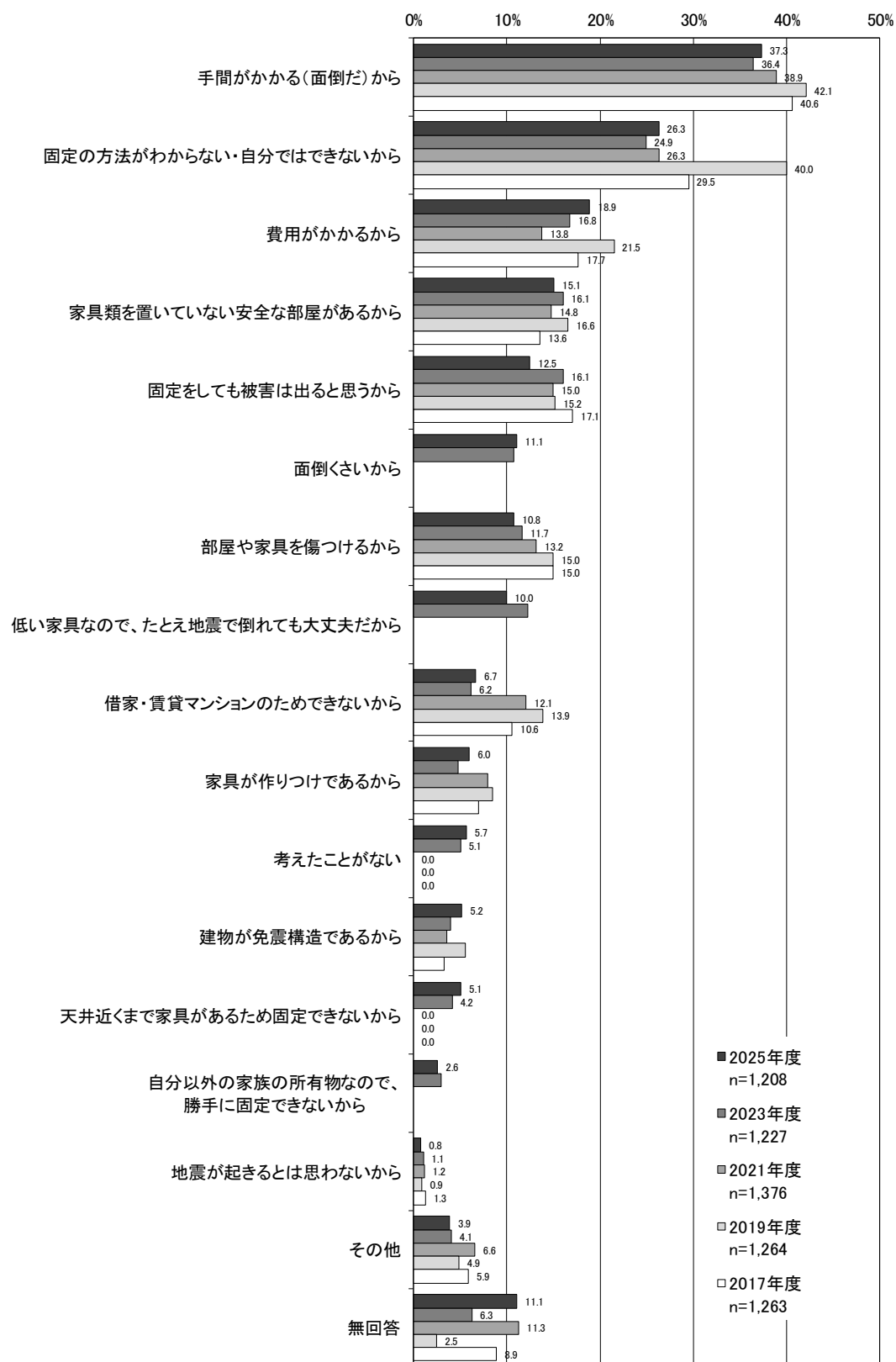
選択肢5に関連して、退去時の修繕費を取り入れる可能性を考えると対策できない	あきらめているから、巨大地震が来たら、何をやっても無理
コロがある家具は固定しない方が倒れないと聞いたため	タンスがあるが天井がゆるく出来ない
タンスはない	ねてる部屋だけしている
ほとんどが手作り棚で固定されている	やらなければいけないとは思ってる (4)
安全な場所に家具が置いてあるから	以前はしていたが移動したため、していない。免震はしている。
一部屋に収納しているから	引っ越したばかりだから
家具など大きなものは使用しないようにしている	家具の無い部屋を寝室にしており、高さのある家具はありません。
見栄えが悪いから (2)	固定するものを買ってない
固定しようと思ったが、天井が上に浮いて固定できなかった	固定できる長さのものが売っていなかったから
高い家具等の有る部屋では寝ていないから	今後、対策する予定。(2)
全部はできない	台所以外大型の家具を置いていないから
大型家具は使用していない部屋にまとめてあるため	地震によってクローゼットが開いて中から物が落ちてくるかもしれないが、それをどう防げばいいかわからないから。
賃貸住宅	低いかつ、固定しづらい家具だから
天井が少し高く、既製品の物ではとどかないので費用がかかってしまう。	倒れると思わなかったから
買ったけどなんだかんだでしてない	必要だとは思いますが生活するだけでいっぱい時間で時間が取れない
夫が関心低いため	冷蔵庫だけだから
冷蔵庫の固定？	冷蔵庫の固定方法がわからない
冷蔵庫は固定を考えていない	冷蔵庫やレンジなど固定する所がないため
冷蔵庫を固定する事を今知った。	



## ◆家具などの固定しない理由[経年比較]

○ 「手間がかかる（面倒だ）から」が、37.3%で最も高い割合を示している。

図 32. 家具などの固定しない理由[経年比較]



(単位: %)

※ 2023 年度から、「天井近くまで家具があるため固定できないから」、「自分以外の家族の所有物なので、勝手に固定できないから」、「低い家具なので、たとえ地震で倒れても大丈夫だから」、「面倒くさいから」、「考えたことがない」の選択肢を設定した。

#### ◆家具などの固定しない理由[居住地別、年齢別]

- 年齢別でみると、高齢者になると「固定をしても被害は出ると思うから」の割合が高くなる。
- 居住地別では、尾張地域の「手間がかかる（面倒だ）から」（40.9%）と最も割合が高い。

表 17. 家具などの固定しない理由[居住地別、年齢別]

	回答者数	部屋や家具を傷つけるから	手間がかかる（面倒だ）から	費用がかかるから	固定の方法がないから	固定できないから	借家・賃貸マンションのため	部屋があるから	家具類を置いていない安全な建物があるから	家具が作りつけであるから	固定をしても被害は出ると思	地震が起きるとは思わないか	天井近くまで家具があるため	自分で勝手に固定できないから	自分以外の家族の所有物なので倒れても大丈夫だから	低い家具なので、たとえ地震で倒れても大丈夫だから	面倒くさいから	考えたことがない	その他	無回答
単位：％																				
【居住地】																				
名古屋市域	332	12.0	33.7	19.9	27.4	6.6	16.9	5.1	4.2	12.3	1.5	6.6	1.5	13.6	9.3	5.4	5.4	4.2		
尾張地域	296	10.1	40.9	20.6	23.3	8.1	13.5	5.4	6.1	11.5	0.7	5.4	3.4	9.5	11.8	6.1	3.4	14.5		
海部地域	41	4.9	36.6	17.1	29.3	7.3	7.3	0.0	7.3	12.2	0.0	2.4	0.0	7.3	17.1	9.8	2.4	0.0		
知多地域	113	11.5	38.9	23.9	31.0	5.3	17.7	0.9	4.4	16.8	0.9	0.9	0.9	4.4	16.8	5.3	1.8	1.8		
西三河地域	254	12.6	39.0	18.1	26.4	5.9	15.0	6.7	7.9	13.4	0.4	4.7	5.1	7.9	10.6	5.9	4.3	13.4		
東三河地域	135	9.6	36.3	11.9	25.9	7.4	17.8	7.4	6.7	9.6	0.0	5.2	1.5	10.4	8.9	4.4	2.2	22.2		
無回答	37	2.7	27.0	13.5	24.3	2.7	2.7	5.4	8.1	13.5	2.7	8.1	0.0	16.2	8.1	5.4	5.4	29.7		
【年齢】																				
10歳代	3	33.3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0		
20歳代	59	11.9	45.8	30.5	25.4	10.2	6.8	0.0	0.0	13.6	0.0	3.4	11.9	8.5	23.7	11.9	3.4	0.0		
30歳代	143	14.0	44.8	26.6	22.4	13.3	10.5	7.0	6.3	9.1	0.7	4.9	4.2	6.3	8.4	10.5	4.2	3.5		
40歳代	218	17.0	41.3	21.1	24.8	9.2	10.6	6.4	6.0	11.5	0.0	2.8	1.8	10.1	12.4	3.7	2.3	5.0		
50歳代	240	12.1	35.4	18.3	24.6	7.5	15.0	2.9	5.8	12.1	1.3	5.0	1.7	8.8	10.8	4.6	2.5	10.4		
60歳代	233	10.3	42.1	18.0	23.2	3.4	15.9	5.2	6.9	9.9	0.9	8.6	2.6	8.6	9.9	6.0	5.2	13.7		
70歳以上	272	4.4	26.8	11.8	34.9	3.3	23.9	6.3	6.3	18.0	0.7	4.4	1.5	14.0	9.2	4.4	5.1	18.4		
無回答	40	2.5	30.0	15.0	22.5	2.5	5.0	7.5	7.5	10.0	5.0	7.5	0.0	15.0	12.5	5.0	5.0	27.5		

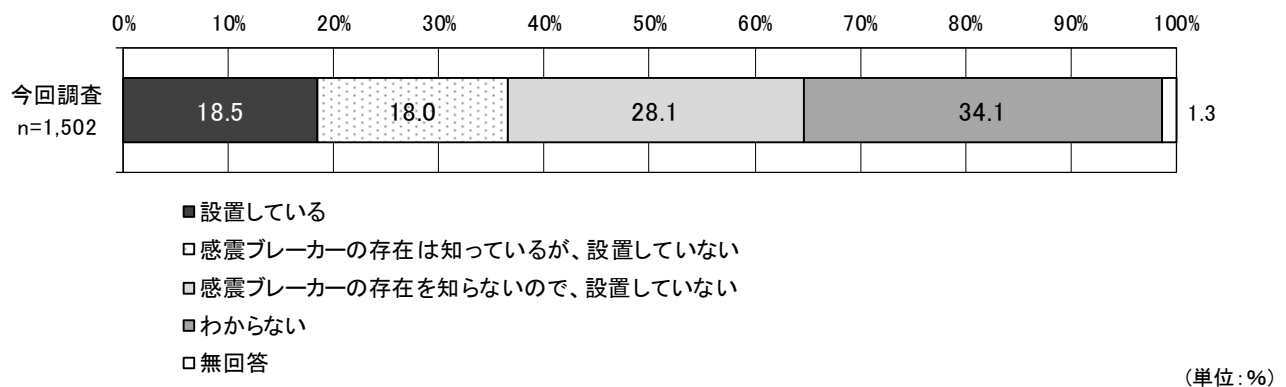
## (11) 感震ブレーカーの設置状況

(すべての方にうかがいます)

問 16 ご自宅では感震ブレーカーを設置していますか？（○は1つ）

- ◎ 「感震ブレーカーの存在を知らないで、設置していない」が、28.1%となっている。
- 「感震ブレーカーの存在を知らないで、設置していない」(28.1%) 及び「感震ブレーカーの存在は知っているが、設置していない」(18.0%) と合わせて、『感震ブレーカーを設置していない』は46.1%となっている。
- 「設置している」は、18.5%となっている。

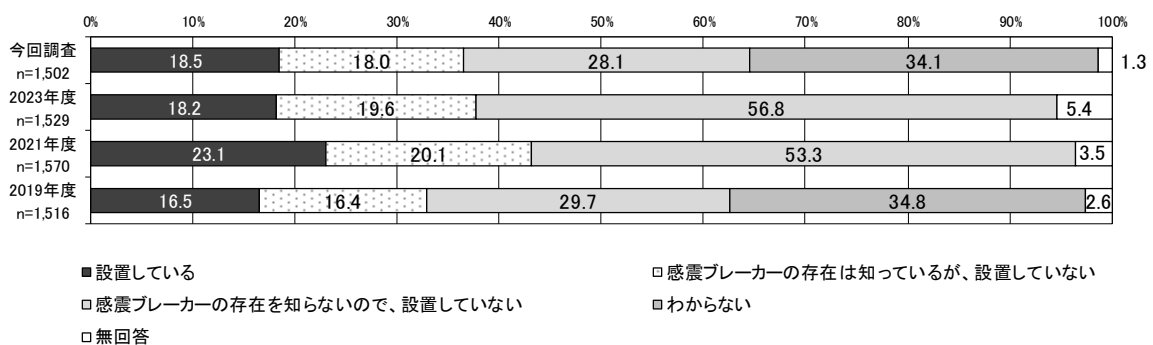
図 33. 感震ブレーカーの設置状況



## ◆ 感震ブレーカーの設置状況[経年比較]

- 「設置している」人の割合は前回調査より、0.3 ポイント高い。

図 34. 感震ブレーカーの設置状況[経年比較]

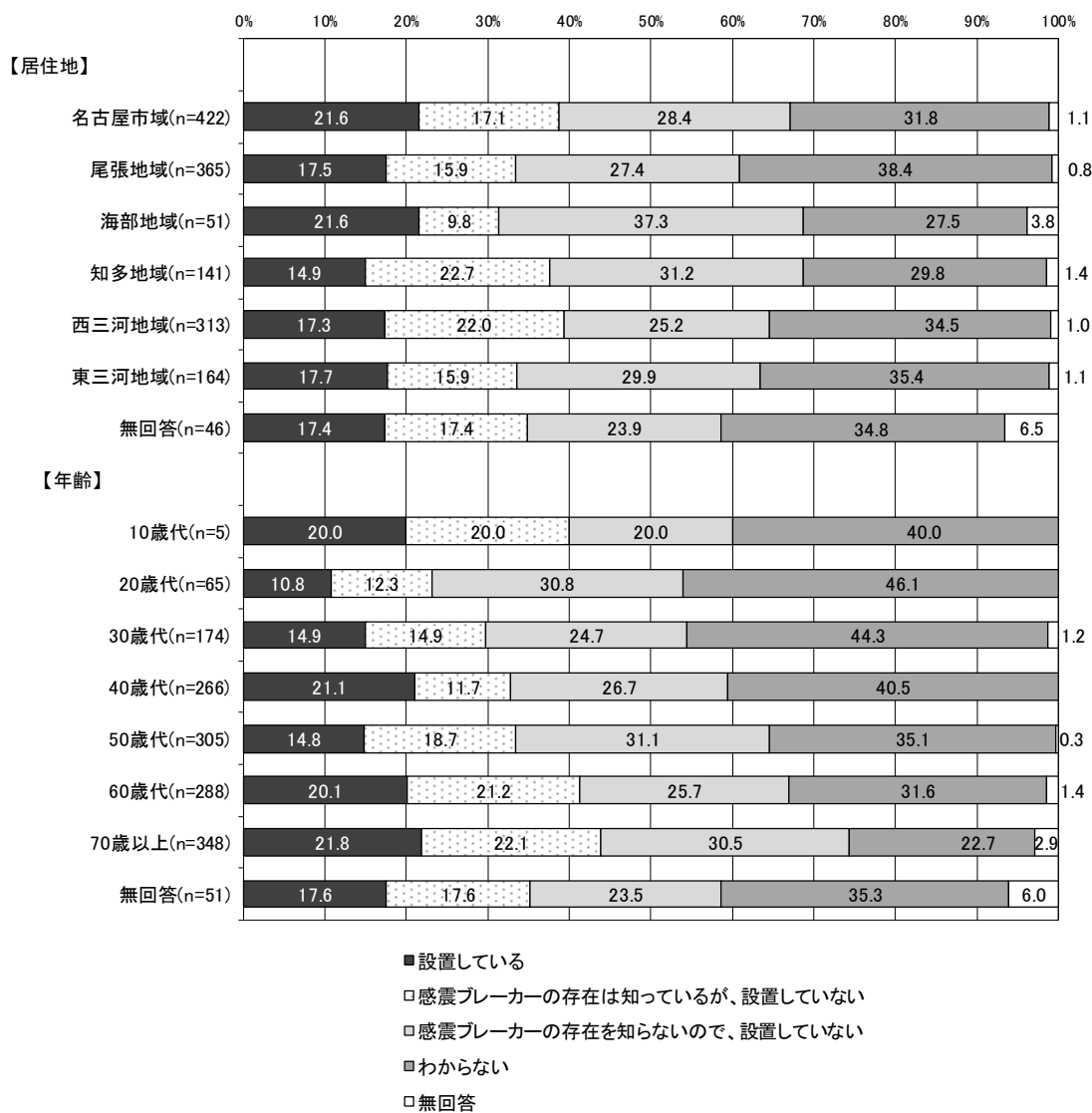


※ 2019 年度および今回調査のみ、「わからない」の選択肢を設定した。

## ◆設置状況クロス集計結果(居住地別、年齢別)

- 居住別では、海部地域が「感震ブレイカーの存在を知らないので、設置していない」(37.3%)が高い割合となっている。
- 年齢別では、70歳以上で「設置している」(21.8%)が高い割合となっている。

図 35. 設置状況クロス集計結果(居住地別、年齢別)



(単位: %)

### 3. 大規模災害に対しての備えについて

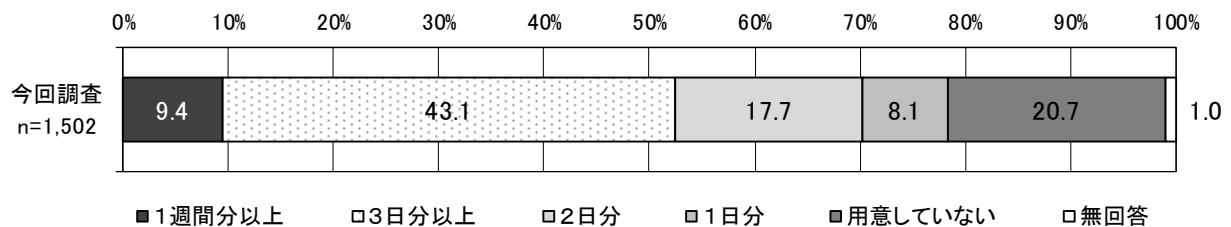
#### (1) 食料の準備

問 17 大規模災害の発生に備えて、非常用の食料は、可能な限り 1 週間程度、最低でも 3 日分程度が必要だといわれています。ご自宅では、大規模災害の発生に備えて食料を何日分備蓄していますか？（○は 1 つ）

◎ 食料を「3 日以上」用意している人は 52.5%、一方「用意していない」人の割合は 20.7% となっている。

○ 最低必要だといわれている「1 週間分以上」と「3 日以上」を合わせた『3 日以上用意している』人は 52.5%である。

図 36. 食料の準備

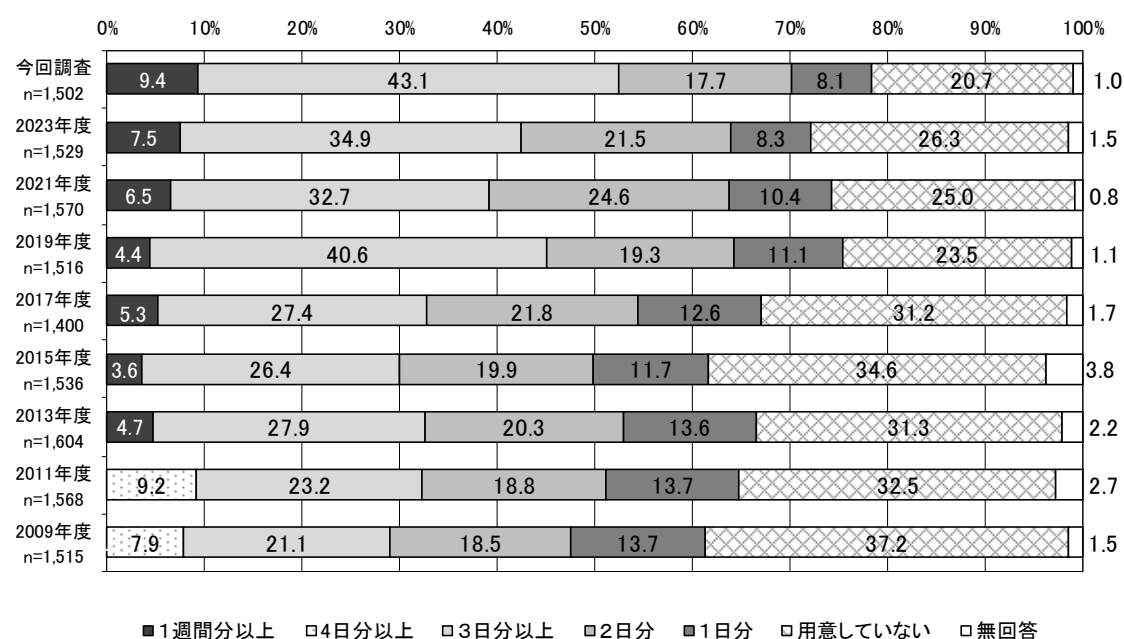


(単位: %)

## ◆食料の準備[経年比較]

○ 「用意していない」と答えた人は前回調査より 5.6 ポイント減少している。

図 37. 食料の準備[経年比較]



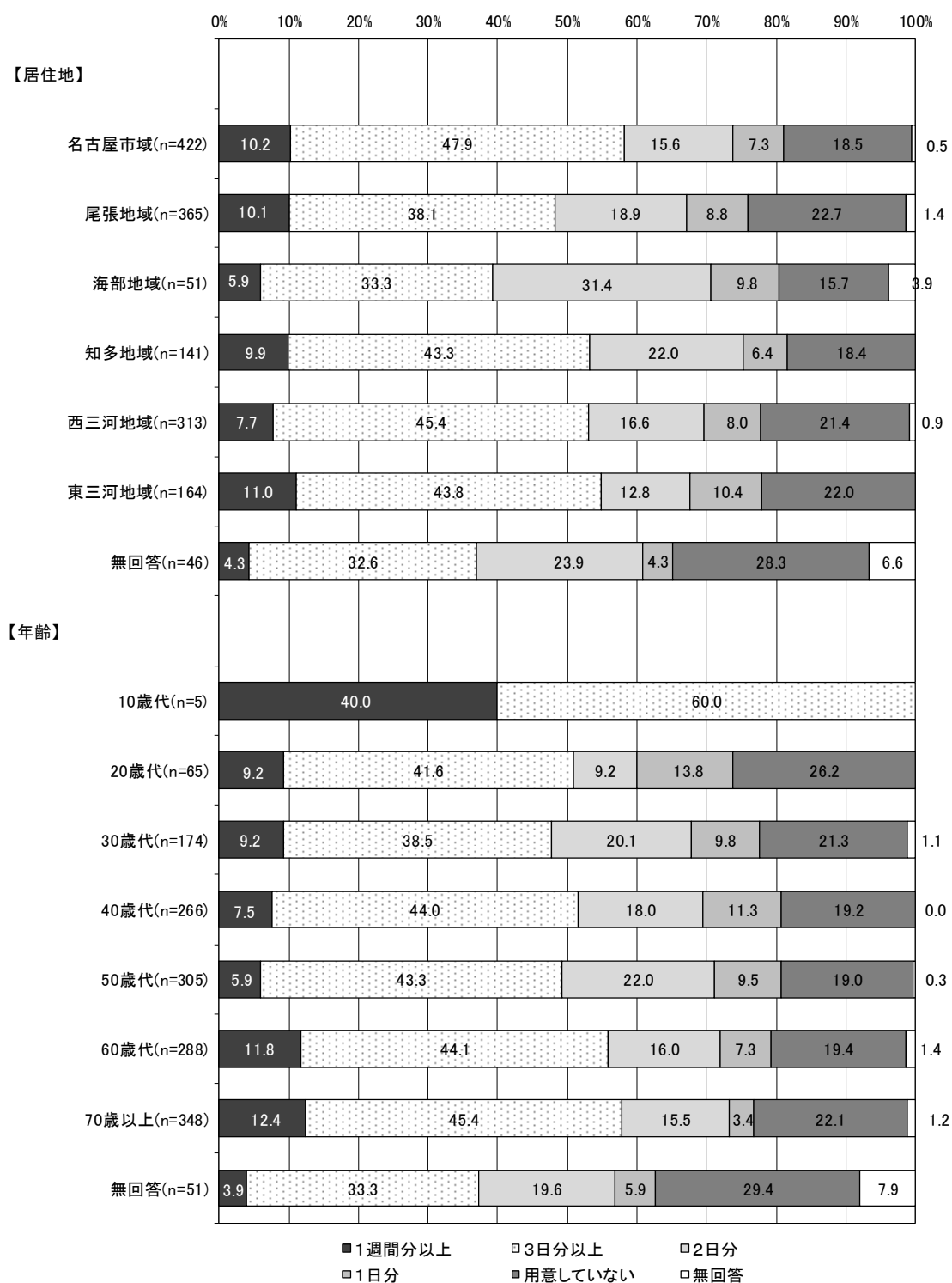
(単位: %)

※ 2013 年度調査より、選択肢「3 日分」を「3 日分以上」、選択肢「4 日分以上」を「1 週間分以上」に変更した。

## ◆食料の準備[居住地別、年齢別、同居家族別]

- 居住地別では、海部地域が「1週間分以上」と「3日以上」を合わせた『3日以上用意している』人の割合が少なくなっている。

図 38. 食料の準備[居住地別、年齢別]



(単位: %)

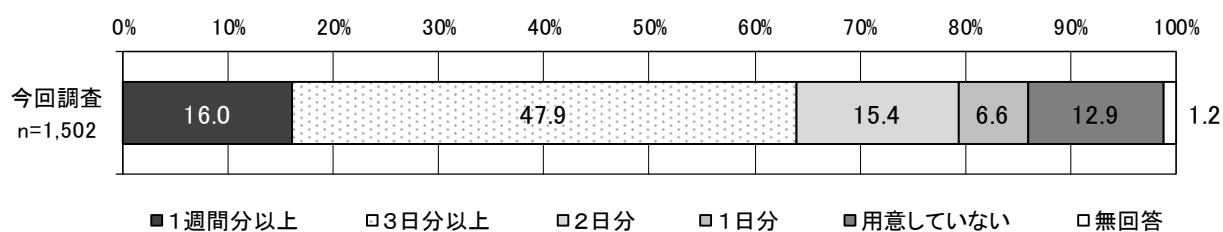
## (2) 飲料水の準備

問 18 食料と同様に、非常用の飲料水も、可能な限り 1 週間程度、最低でも 3 日分程度が必要だといわれています。ご自宅では、飲料水を何日分備蓄していますか？（○は 1 つ）

◎ 飲料水を「3 日分以上」用意している人は 63.9%、一方「用意していない」人の割合は 12.9%となっている。

○ 最低必要だといわれている「1 週間分以上」と「3 日分以上」を合わせた『3 日分以上用意している』人は 63.9%である。

図 39. 飲料水の準備



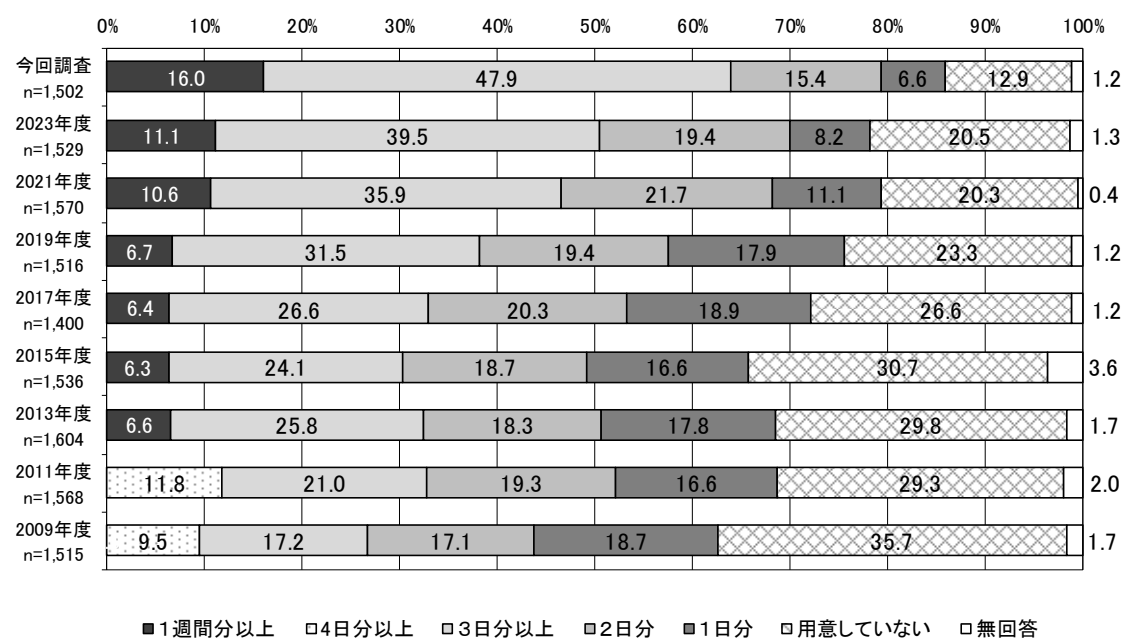
(単位: %)



## ◆飲料水の準備[経年比較]

○ 『3日分以上用意している』人は、63.9%と増加傾向となった。

図 40. 飲料水の準備[経年比較]



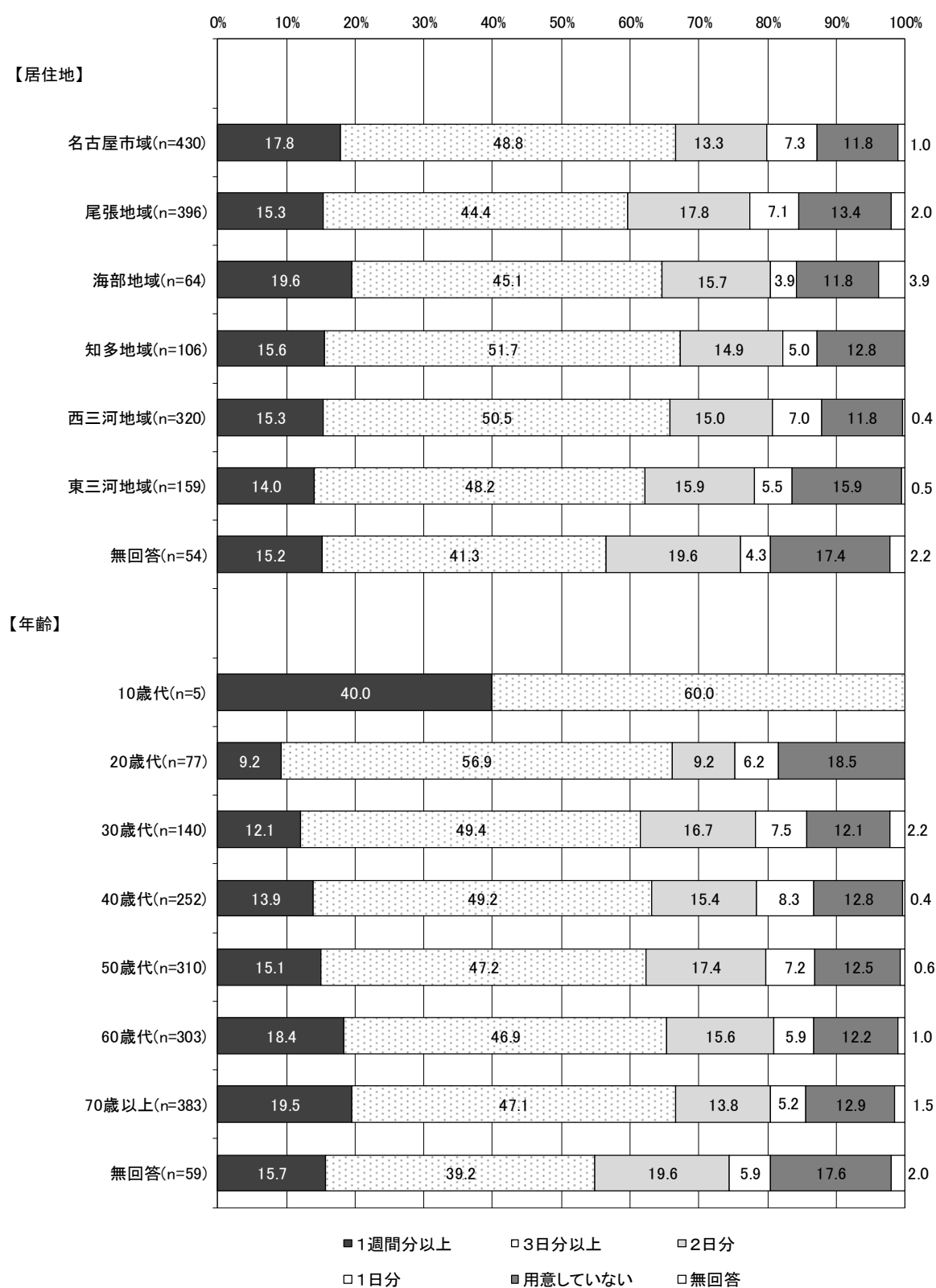
(単位: %)

※ 2013年度調査より、選択肢「3日分」を「3日分以上」、選択肢「4日分以上」を「1週間分以上」に変更した。

## ※ ◆飲料水の準備[居住地別、年齢別、同居家族別]

○ 年齢別では、20歳代が「用意していない」人の割合が他の年代に比べ、高い。

図 41. 飲料水の準備[居住地別、年齢別、同居家族別]



(単位: %)

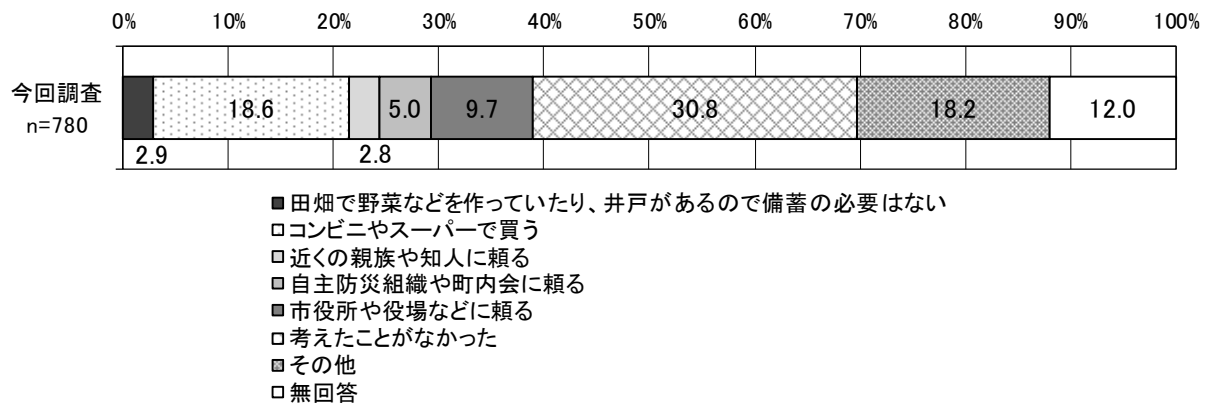
## (3) 3日分以上の備蓄をしていない理由

(問 17 または問 18 で 3、4、5 を選択した方にうかがいます)

問 19 3日分以上の備蓄をしていない理由は何ですか？(○は1つ)

- ◎ 30.8%の人が「考えたことがなかった」と答えている。
- 3日分以上の備蓄をしていない理由は、「考えたことがなかった」が30.8%と最も多く、次いで「その他」(18.2%)、「コンビニやスーパーで買う」(18.6%)となっている。
- 「近くの親族や知人に頼る」(2.8%)、「自主防災組織や町内会に頼る」(5.0%)、「市役所や役場などに頼る」(9.7%)の他者に頼る人が、17.5%となっている。

図 42. 3日分以上の備蓄をしていない理由



(単位: %)

## ◆3日分以上の備蓄をしていない理由[居住地別、年齢別]

○ 年齢別では、20歳代で「考えたことがなかった」(56.0%)が高い割合となっている。

表 18. 3日分以上の備蓄をしていない理由[居住地別、年齢別]

	回答者数	が田 あ畑 るで の野 で菜 備な 蓄ど のを 必要 は作 ないつ たり、 井戸	コン ビニ ヤス ーパ ーで 買う	近 く の 親 族 や 知 人 に 頼 る	自 主 防 災 組 織 や 町 内 会 に 頼 る	市 役 所 や 役 場 な ど に 頼 る	考 え た こ と が な か っ た	そ の 他	無 回 答
単位：%									
【居住地】									
名古屋市域	199	1.0	21.1	2.0	4.5	14.6	28.6	15.6	12.6
尾張地域	203	1.0	18.7	2.5	4.9	10.3	36.0	17.7	8.9
海部地域	30	3.3	16.7	10.0	0.0	10.0	36.7	16.7	6.6
知多地域	72	4.2	12.5	1.4	4.2	11.1	36.1	19.4	11.1
西三河地域	159	5.0	17.0	3.8	6.3	5.7	27.0	21.4	13.8
東三河地域	88	4.5	18.2	2.3	8.0	5.7	28.4	19.3	13.6
無回答	29	10.3	27.6	3.4	0.0	3.4	17.2	17.2	20.9
【年齢】									
10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	34	0.0	17.6	0.0	5.9	2.9	56.0	17.6	0.0
30歳代	102	0.0	16.7	5.9	9.8	6.9	33.3	20.6	6.8
40歳代	141	2.1	13.5	3.5	3.5	9.9	34.8	27.7	5.0
50歳代	169	3.0	17.8	2.4	4.7	10.1	32.0	21.3	8.7
60歳代	140	3.6	17.9	2.1	4.3	11.4	32.9	12.1	15.7
70歳以上	163	4.3	23.3	1.8	4.9	12.3	19.6	11.0	22.8
無回答	31	9.7	32.3	3.2	0.0	3.2	19.4	16.1	16.1

## ▽「その他」の記入内容

コメントなし (9)	大津波がきたら持ち出しができない
避難所に備蓄があると甘い考えがある水を家族の3日分持って逃げられない	3日以上以上の食料の置き場もない。年配者がいるので運べない気がするので市役所等に頼るしかないと思っている。
40年以上、住んでいるが大規模災害にあっていないため。	5人分なのでかさばる
いいお値段だから	おいておく場所がない
お水の備えをしているから、家にある食べ物でとりあえずは過ごせるかと思って。	これからと考えていた
したいと思っている。実行していないだけ。	していないではなく期限切れで入れかえていないだけ
スペースがない	その時何とかなるかな？
どこに置いておけば持ち出せるか？玄関上置くと狭くなる限りがある	そんなに置き場がないし、期限切れになることが続いたため
つい日常生活に追われ、買い物の時忘れてしまう	どんな食料を用意したら十分なのかがよくわからない。価格が高い。
その場その場で生きていく	賞味期限の問題 (23)
まだそこまで考えていなかった (4)	めんどうだから
やろうと思っているがまだ準備できていない (2)	ローリング備蓄をしているつもりですがうまく備蓄できている気がしなしです
以前は用意していたが賞味期限が切れた為今はない。(4)	引っ越したばかりだから
飲料水の確保は考えるが食料までは管理が難しい	何を準備するべきかよくわからない (2)
家が狭いので備蓄できない (2)	家族が多いのでストックする場所がない (7)
家族分の非常食を備えるお金が用意できないから。	火災がおきない限り持ちだしができるから
管理が難しいから。	管理場所、使わなかったときの負担額が気になる
起きた場合に自宅にいるとは限らない	今後用意したい (3)

金銭的理由 (3)	県外に移動する
後回しにしている (4)	高齢なので考えていない
思いつつ完璧ではない	手間がかかる
準備途中	常備があってもまとめてはいない
状況による	食べた まだ補充していない
食糧は2日分で何とかなんとかなるか	置き場がない (11)
店をしているので備蓄品がある	日々の生活に追われそこまでは
年寄り2人なので	年金生活の為
費用	備えても期限切れになりそう
備える予定だが実行できていない (3)	備蓄してあるが期限が切れたままになっている (2)
備蓄した方がよいとは思っているが、非常用食料は値段も高く余裕がない	備蓄している途中のため、おいしい非常食が見つからない
備蓄しても使用してその後補充していない	備蓄しても物価高ですぐ使用してしまいます
備蓄スペースがない (6)	備蓄できるカップラーメンを買っても子供が食べてしまう為
備蓄ではなく在庫としてあるものが多いため	備蓄に回す費用がない
備蓄品の交換が手間	備蓄品の賞味期限が切れてからの補充が出来ていない
備蓄品の量が分からないのと私一人では管理しきれない為	普段の飲食のためのストックが多いため (缶詰、パスタ)
有事の際には家にある備蓄食料をかき集めようと考えている。	用意していたが賞味期限が切れ、その後用意をしていない。
用意していないだけ	用意して期限が切れて、そのままになってしまった。
用意して忘れてゴミになるから	用意するつもりでいるけど、つい忘れてしまう
用意をしようと思っているけどなかなかできていない	冷蔵庫がいっぱい。置く場所がない。

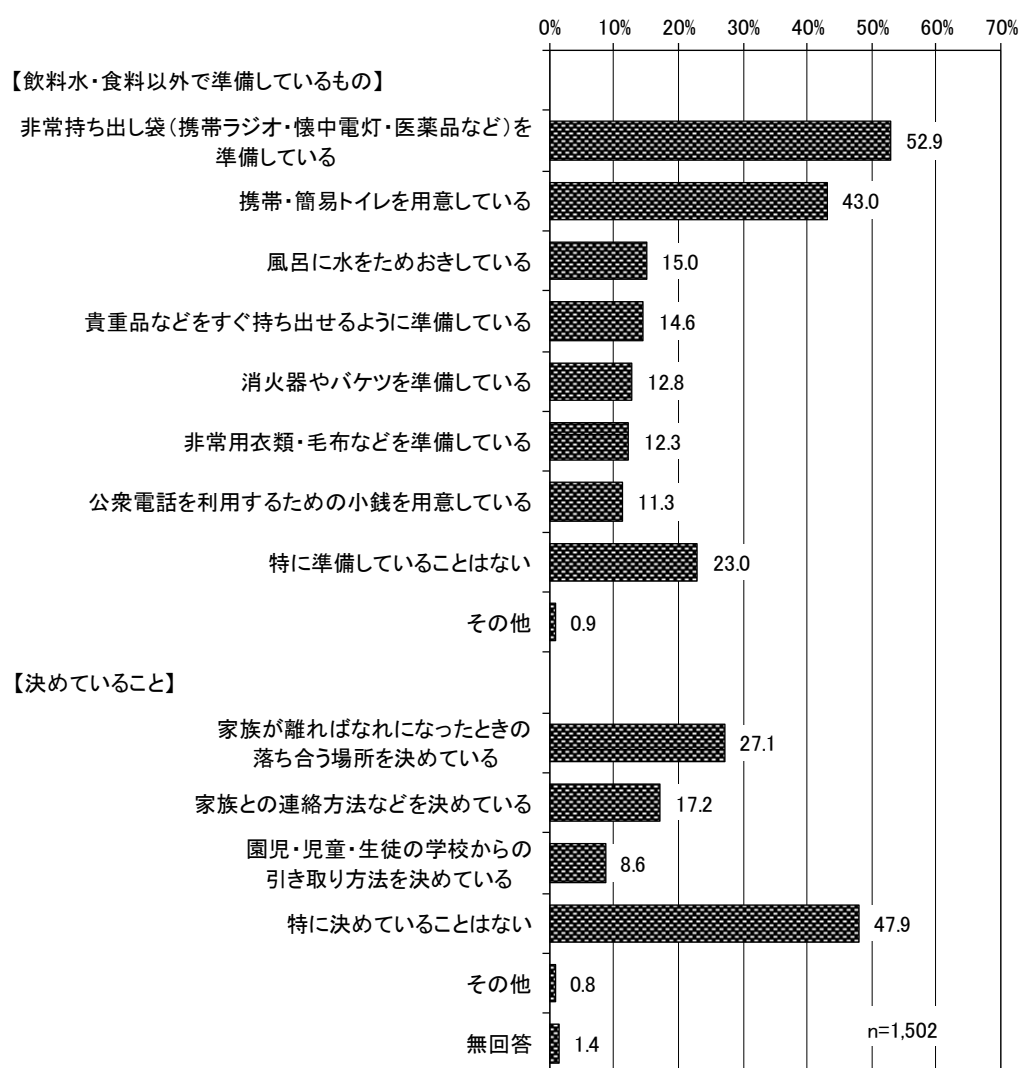
## (4) 家庭での災害対策

(すべての方にうかがいます)

問 20 ご家族では、南海トラフ地震や豪雨などによる大規模災害が発生した場合に備えて、次の対策のうち日頃から行っていることはありますか？（〇はいくつでも）

- ◎ 飲料水・食料以外では、52.9%の人が「非常持ち出し袋（携帯ラジオ・懐中電灯・医薬品など）」を準備し、27.1%の人が「家族が離ればなれになったときの落ち合う場所」を決めている。
- 飲料水・食料以外で準備しているものは、「非常持ち出し袋（携帯ラジオ・懐中電灯・医薬品など）」（52.9%）が最も多く、次いで「携帯・簡易トイレを用意している」（43.0%）の順である。「特に準備しているものはない」は23.0%である。
- 家族で決めていることは、「特に決めていることはない」（47.9%）以外では、「家族が離ればなれになったときの落ち合う場所を決めている」が27.1%と最も多くなっている。

図 43. 家庭での災害対策



(単位: %)

## ▽「9 その他」の記入内容

コメントなし	お薬手帳
カイロを準備している	キャンプ道具等準備している
非常用電源確保 (3)	ポリタンクに水をためおきしている (2)
まだ途中で歯ブラシタオル水食料少々	もし、家族がいた場合
軍手、スリッパ、給水パック、乾パン、ビスケット、マスク、ドリンク剤等、犬用フード、リード、小さい毛布等はリュック 2 つに入れてある	特になし
避難場所の確認	

## ▽「14 その他」の記入内容

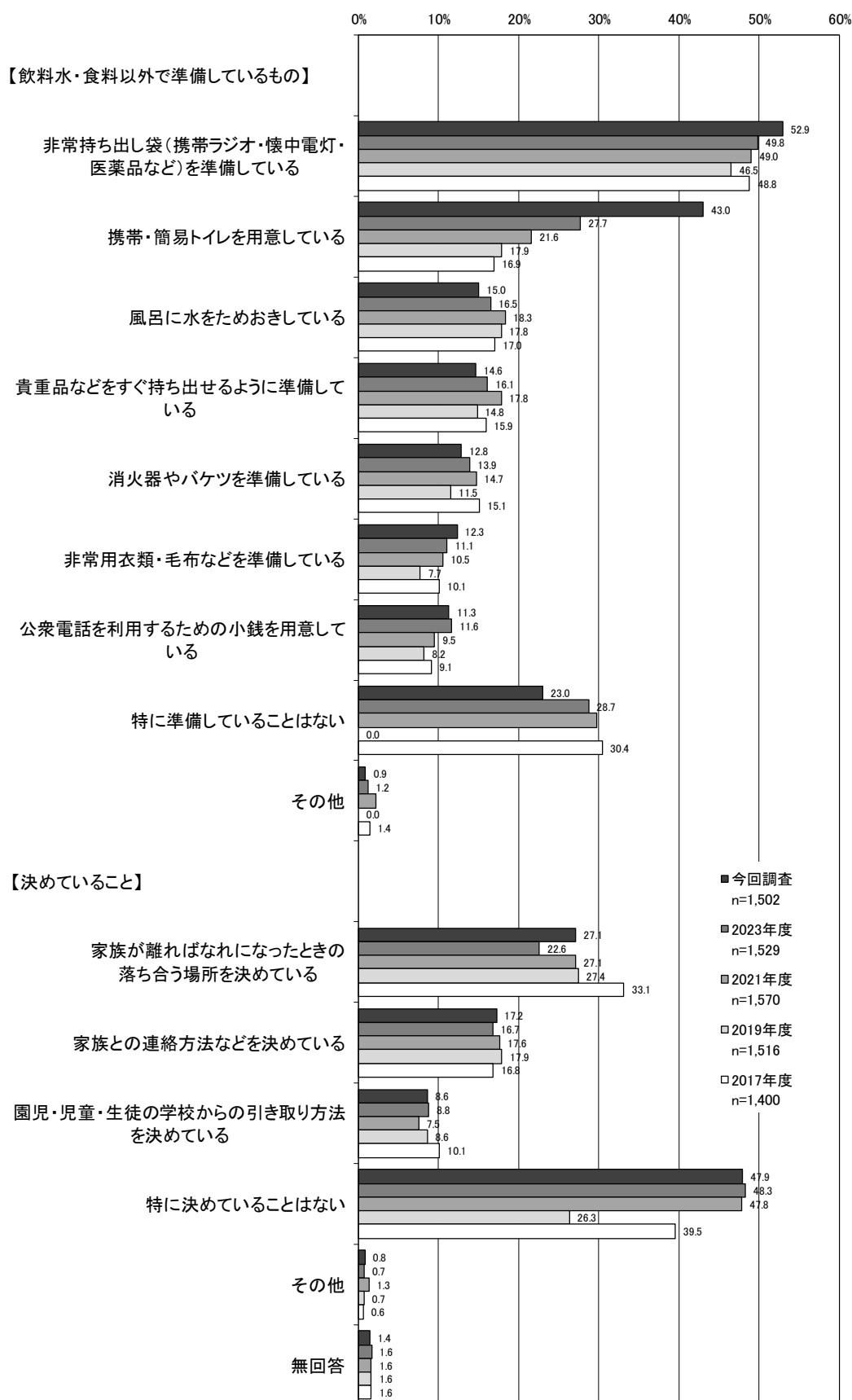
ほとんど家にいる (2 人共)	まずは自分自身の安全を守ることを考えて行動し辛いことがあっても諦めない。
一人暮らしゆえに、、、。	家から避難場所の小学校
家族は 2 人のため	今後決めたいと思う (2)
公衆電話からでも電話出来るように夫の電話番号を覚えている。	自治会指定の避難所は確認している
医療機器の予備バッテリーのチェック	特になし
落ちついての行動	

## ◆家庭での災害対策[経年比較]

- 「非常持ち出し袋 (携帯ラジオ・懐中電灯・医薬品など) を準備している」については、前回調査より 3.1 ポイント増加している。
- 「家族が離ればなれになったときの落ち合う場所を決めている」が 4.5 ポイント増加している。



図 44. 家庭での災害対策[経年比較]



(単位: %)

- ※ 2015 年度調査より、選択肢「簡易トイレを用意している」を設定した。
- ※ 2019 年度調査は、【飲料水・食料以外で準備しているもの】について、「特に準備していることはない」及び「その他」の選択肢を設定していない。
- ※ 2019 年度は、南海トラフ地震のような大規模地震が発生した場合に備えての対策である。
- ※ 2021 年調査より、選択肢「携帯・簡易トイレを用意している」に変更した。

## ◆家庭での災害対策[居住地別、年齢別]

○ 年齢別にみると、60歳代以上で「特に決めていることはない」が他の年代に比べ、高くなっている。

表 19. 家庭での災害対策[居住地別、年齢別]

	回答者数	電灯・医薬品など）を準備している	非常持ち出し袋（携帯ラジオ・懐中電機）を準備している	非常用衣類・毛布などを準備している	消火器やバケツを準備している	貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している	風呂に水をためおきしている	意図して利用する小銭を用意している	特に準備していることはない	その他	家族との連絡方法などを決めている	家族が離ればなれになったときの落ち合い場所を決めている	園児・児童・生徒の学校からの引き取り方法を決めている	特に決めていることはない	その他	無回答
単位：%																
【居住地】																
名古屋市域	422	51.4	45.3	12.3	16.8	19.7	16.6	13.7	22.0	0.7	17.8	27.3	7.6	48.6	1.4	0.7
尾張地域	365	53.7	40.5	12.1	9.3	11.8	13.4	12.9	24.7	0.8	18.6	26.3	10.4	47.9	0.5	1.1
海部地域	51	64.7	39.2	5.9	13.7	5.9	15.7	7.8	17.6	0.0	13.7	17.6	7.8	54.9	0.0	0.0
知多地域	141	55.3	48.9	11.3	8.5	14.2	14.2	10.6	22.7	1.4	17.7	32.6	5.7	48.9	0.0	1.4
西三河地域	313	55.6	45.0	15.3	12.1	10.9	15.7	9.6	21.7	1.0	15.0	30.0	10.9	46.0	1.0	1.6
東三河地域	164	48.2	40.2	10.4	14.6	17.1	14.6	7.3	24.4	1.2	16.5	23.8	7.3	50.6	0.6	2.4
無回答	46	39.1	23.9	8.7	13.0	19.6	10.9	8.7	30.4	2.2	21.7	17.4	2.2	32.6	0.0	6.5
【年齢】																
10歳代	5	80.0	80.0	20.0	20.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0
20歳代	65	55.4	40.0	7.7	4.6	16.9	13.8	15.4	24.6	0.0	26.2	30.8	4.6	47.7	0.0	0.0
30歳代	174	56.3	52.9	14.9	11.5	14.9	10.3	19.0	23.0	0.0	19.0	31.0	25.3	43.1	0.6	0.6
40歳代	266	56.8	47.0	14.7	9.0	10.5	6.8	8.3	21.8	1.1	14.7	42.5	22.6	38.0	0.4	0.8
50歳代	305	56.4	46.9	12.8	9.8	13.8	11.8	9.5	19.3	0.7	17.4	33.1	5.6	51.1	1.0	0.7
60歳代	288	51.4	42.0	9.4	14.6	11.1	16.3	11.1	26.0	1.4	17.0	22.6	1.4	54.2	0.7	0.7
70歳以上	348	48.0	35.6	12.1	18.4	19.5	25.9	11.5	23.6	1.1	15.8	12.9	0.0	52.0	1.4	3.4
無回答	51	37.3	21.6	9.8	15.7	21.6	9.8	7.8	31.4	2.0	19.6	15.7	2.0	33.3	0.0	3.9

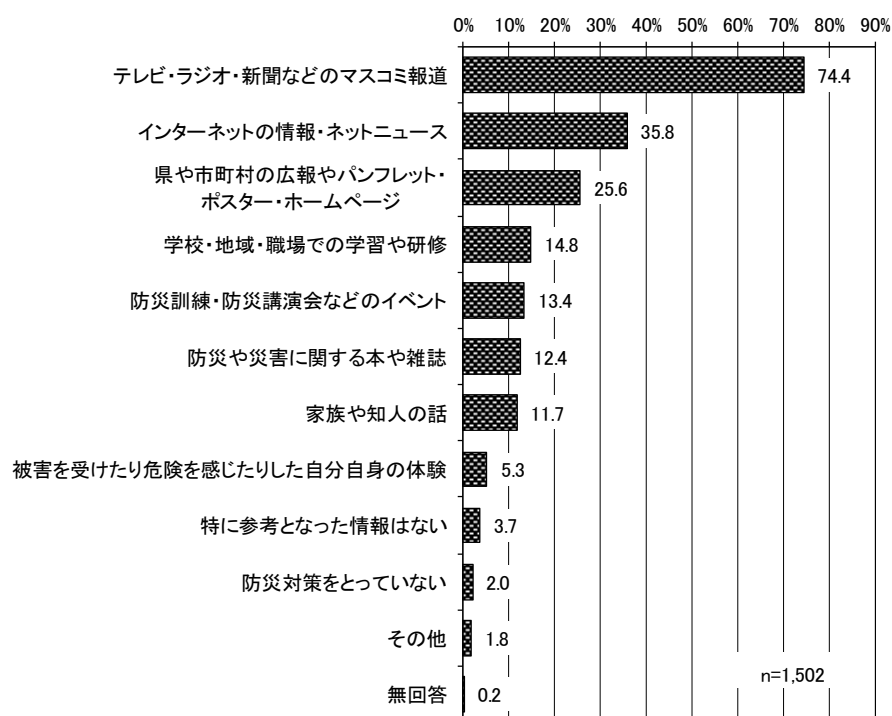
## (4) 防災対策の情報源

問 21 あなたが防災対策をとるために参考になった情報は、次のどれですか？  
(○はいくつでも)

◎ 情報源は、「テレビ・ラジオ・新聞などのマスコミ報道」が74.4%となっている。

- 防災対策の情報源としては、「テレビ・ラジオ・新聞などのマスコミ報道」が74.4%と圧倒的に多く、次いで「インターネットの情報・ネットニュース」が35.8%、「県や市町村の広報やパンフレット・ポスター・ホームページ」が25.6%となっている。

図 45. 防災対策の情報源



(単位: %)

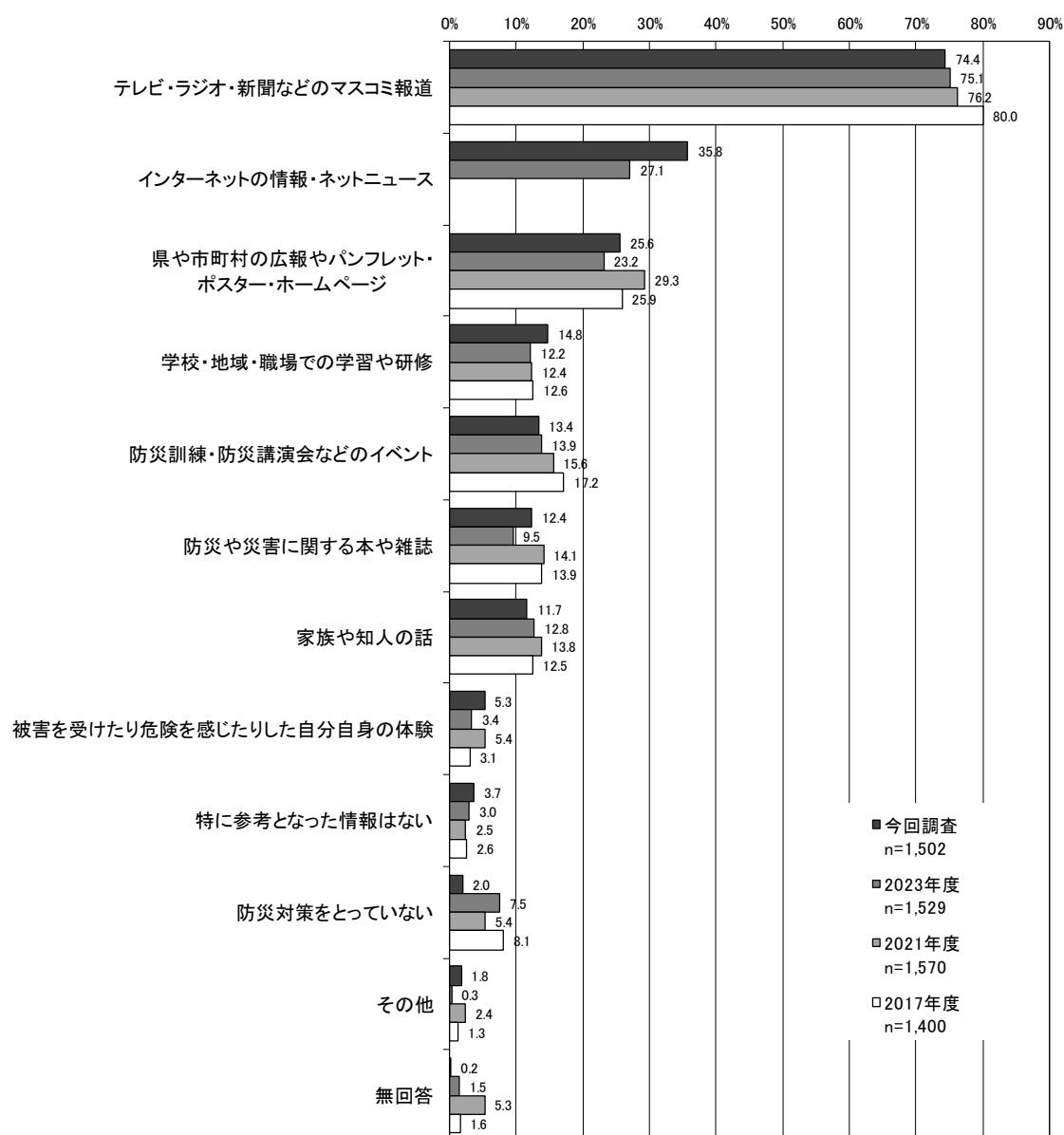
▽「その他」の記入内容

SNS	You tube
実際に被害に遭われた方の SNS 情報発信	能登半島地震が起きた珠洲市でのボランティア活動
分かっているが動けなくて、不安。	

## ◆防災対策の情報源[経年比較]

○ 防災対策の情報源としては、「防災対策をとっていない」が前回調査より 5.5 ポイント減少した。

図 46. 防災対策の情報源[経年比較]



(単位: %)

※ 2021 年調査より、選択肢「地震対策をとっていない」を「防災対策をとっていない」に変更した。

※ 今回調査より、選択肢「インターネットの情報・ネットニュース」追加した。

## ◆防災対策の情報源[居住地別、年齢別]

- 年齢別にみると、各年代とも「テレビ・ラジオ・新聞などのマスコミ報道」が圧倒的に多く、次いで「インターネットの情報・ネットニュース」の割合が高くなっている。70歳以上では「県や市町村の広報やパンフレット・ポスター・ホームページ」が高くなっている。

表 20. 防災対策の情報源[居住地別、年齢別]

	回答者数	テレビ・ラジオ・新聞などのマスコミ報道	防災や災害に関する本や雑誌	県・市町村の広報やパンフレット	家族や知人の話	学校・地域・職場での学習や研修	防災訓練・防災講演会などのイベント	被災者自身の実験	特に参考となった情報はない	防災対策をとっていない	インターネットの情報・ネット	その他	無回答
単位：％													
【居住地】													
名古屋市域	422	75.8	14.0	29.1	11.4	14.7	10.4	3.8	0.9	2.8	34.8	0.0	1.7
尾張地域	365	74.2	13.7	26.6	11.5	12.6	13.2	4.1	1.6	6.6	37.5	0.0	1.9
海部地域	51	76.5	9.8	15.7	25.5	17.6	15.7	3.9	0.0	3.9	45.1	0.0	0.0
知多地域	141	72.3	11.3	24.1	12.1	12.8	9.9	1.4	2.8	7.8	36.9	0.0	1.4
西三河地域	313	72.2	10.2	23.0	11.2	18.8	16.9	2.6	2.9	5.4	39.9	1.0	1.9
東三河地域	164	76.2	13.4	26.2	10.4	14.0	15.9	6.1	1.8	6.7	27.4	0.0	1.8
無回答	46	73.9	4.3	17.4	8.7	10.9	17.4	4.3	8.7	4.3	19.6	0.0	4.3
【年齢】													
10歳代	5	60.0	20.0	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	65	58.5	10.8	23.1	23.1	35.4	15.4	1.5	1.5	4.6	50.8	1.5	0.0
30歳代	174	52.9	15.5	24.1	11.5	23.6	8.6	2.3	4.6	2.9	54.6	0.0	1.1
40歳代	266	69.9	10.5	19.5	15.0	20.3	9.0	3.4	1.9	3.8	44.4	0.8	0.8
50歳代	305	71.1	16.4	24.3	14.4	15.4	12.8	4.6	0.3	5.2	39.7	0.0	0.7
60歳代	288	86.8	11.5	25.7	7.3	9.4	13.9	4.2	2.1	5.9	37.2	0.0	1.4
70歳以上	348	83.6	10.9	33.9	9.5	6.3	17.8	3.7	1.4	7.5	15.8	0.0	4.3
無回答	51	78.4	3.9	19.6	5.9	9.8	17.6	3.9	7.8	3.9	17.6	0.0	3.9

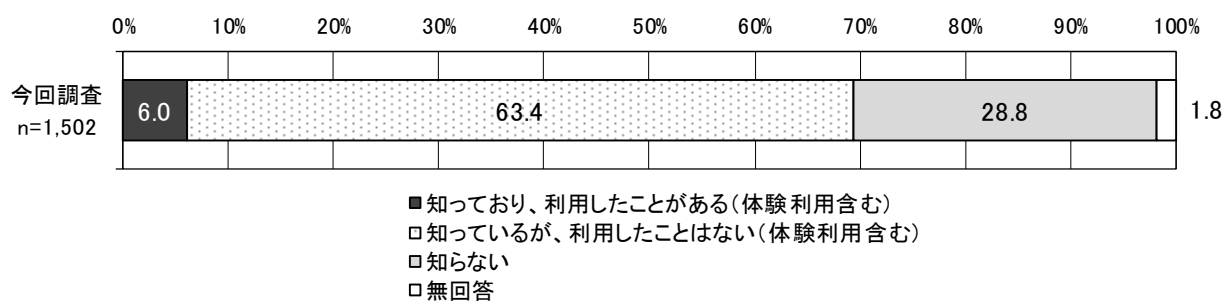
## (5) 災害用伝言ダイヤルおよび災害用伝言板

問 22 安否等の情報を音声で登録・確認できる災害用伝言ダイヤル171および災害用伝言板を知っていますか？（○は1つ）

◎ 69.4%の人が災害用伝言ダイヤルおよび災害用伝言板を『知っている』と答えている。

- 災害用伝言ダイヤルおよび災害用伝言板を「知っており、利用したことがある（体験利用含む）」（6.0%）と「知っているが、利用したことはない（体験利用含む）」（63.4%）を合わせた『知っている』人は69.4%となっている。これに対して、「知らない」人は28.8%である。

図 47. 災害用伝言ダイヤルおよび災害用伝言板

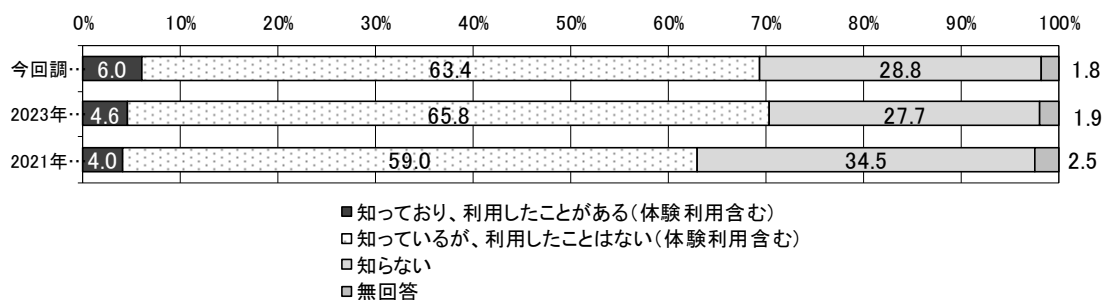


(単位: %)

◆災害用伝言ダイヤルおよび災害用伝言板[経年比較]

- 『知っている』人の割合は前回調査より、1.0 ポイント低い。  
○ 「知らない」人の割合は 1.1 ポイント増加している。

図 48. 災害用伝言ダイヤルおよび災害用伝言板[経年比較]

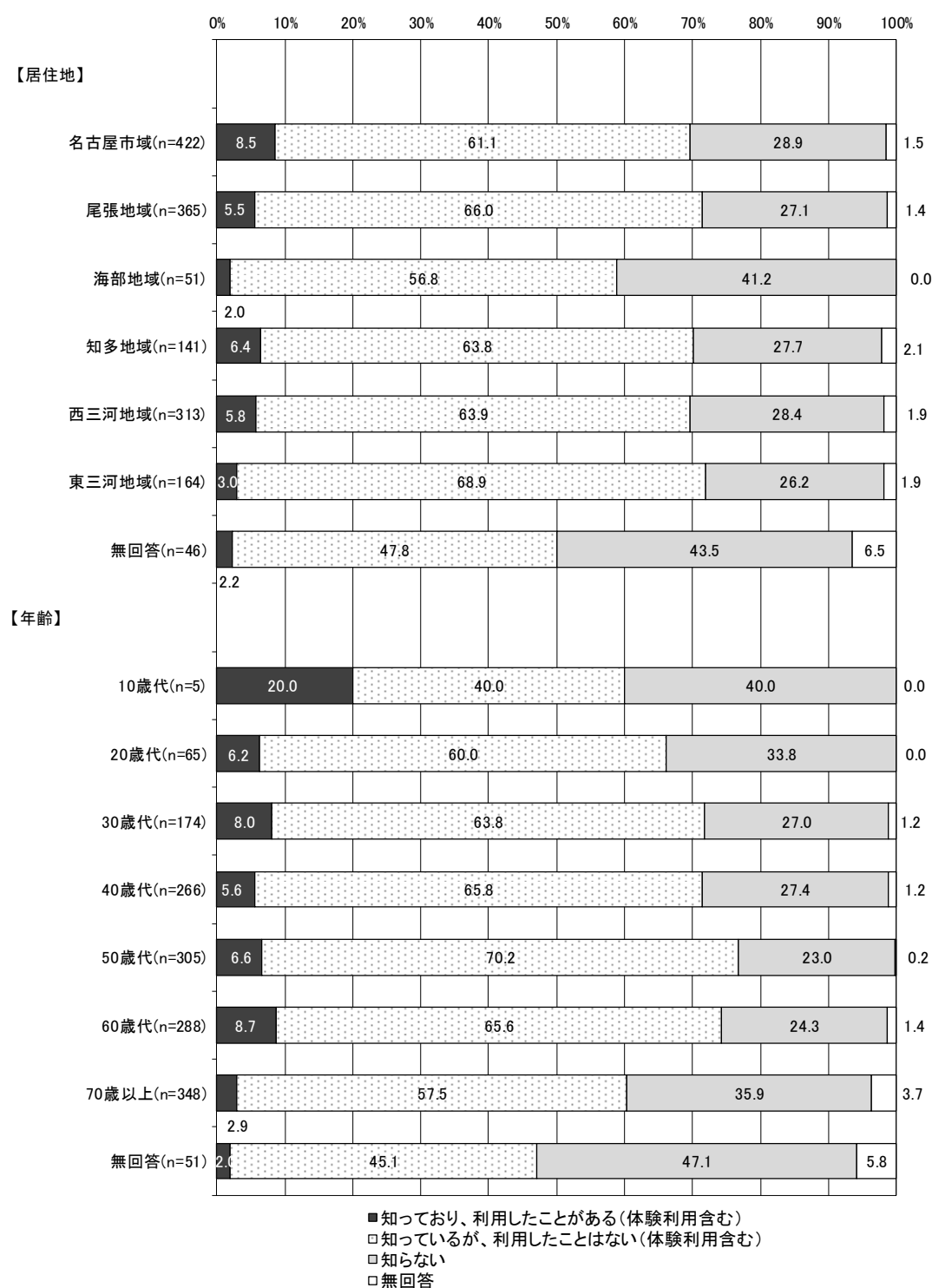


(単位: %)

## ◆災害用伝言ダイヤルおよび災害用伝言板[居住地別、年齢別]

- 年齢別にみると、「50 歳代」で『知っている』人の割合が高くなっている。
- 一方、「70 歳以上」で「知らない」人の割合が高くなっている。

図 49. 災害用伝言ダイヤルおよび災害用伝言板[居住地別、年齢別]



(単位: %)



#### 4. 避難場所などについて

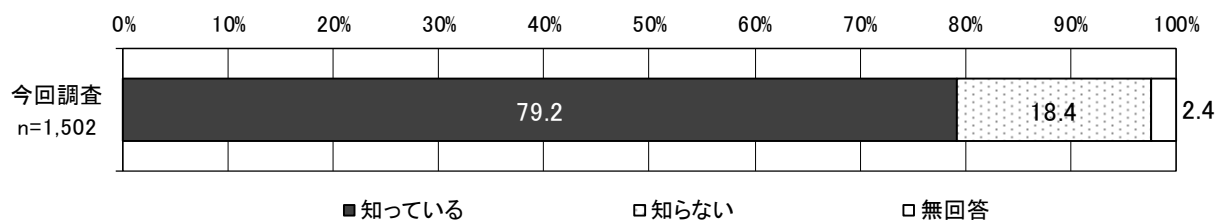
##### (1) 市町村で指定された避難場所

問 23 大規模災害などに備えて、市町村ではあらかじめ避難場所を指定しています。あなたは、指定された避難場所を知っていますか？（○は1つ）

◎ 市町村で指定された避難場所を「知っている」人は79.2%となっている。

○ 市町村で指定された避難場所を「知っている」人は79.2%、「知らない」人は18.4%である。

図 50. 市町村で指定された避難場所

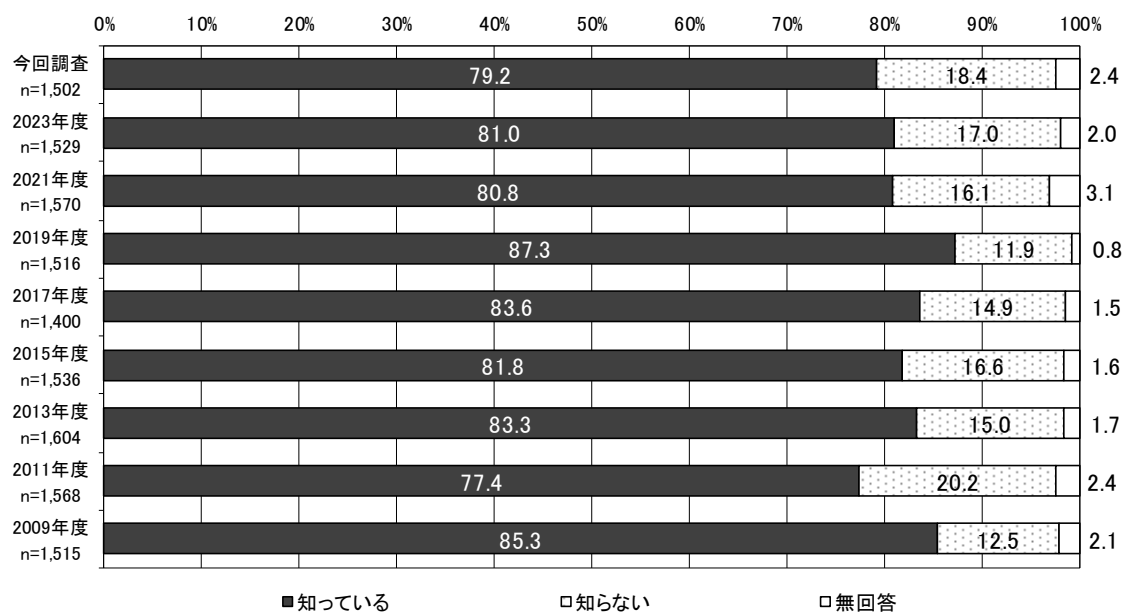


(単位: %)

#### ◆市町村で指定された避難場所[経年比較]

○ 前回調査に比べ、「知っている」の割合は1.8ポイント減少している。

図 51. 市町村で指定された避難場所[経年比較]

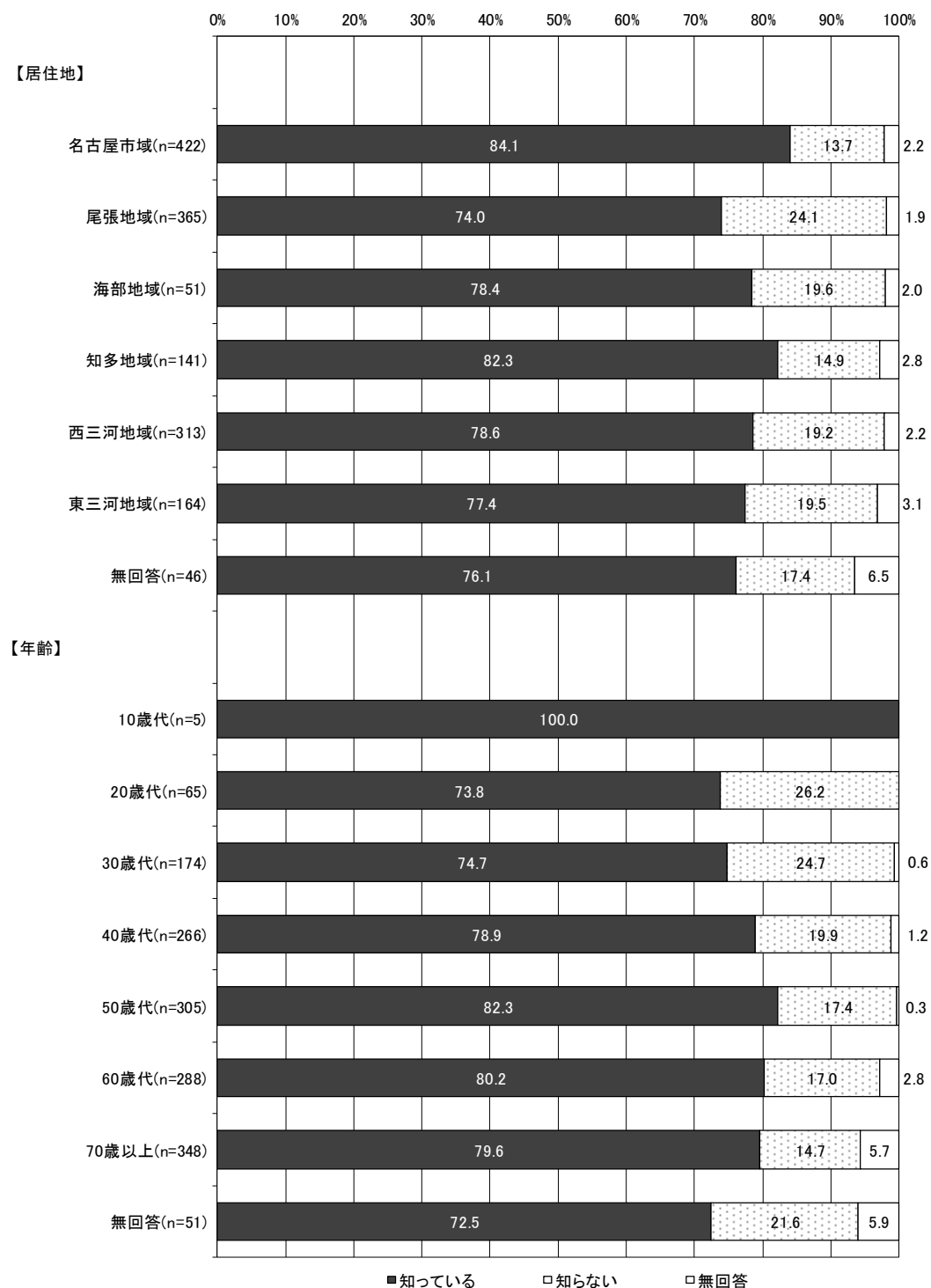


(単位: %)

## ◆市町村で指定された避難場所[居住地別、性別、年齢別]

- 居住地別では「知多地域」が「知っている」割合が最も高い。
- 年齢別では 50 歳代が「知っている」割合が最も高い。

図 52. 市町村で指定された避難場所[居住地別、年齢別]



(単位: %)

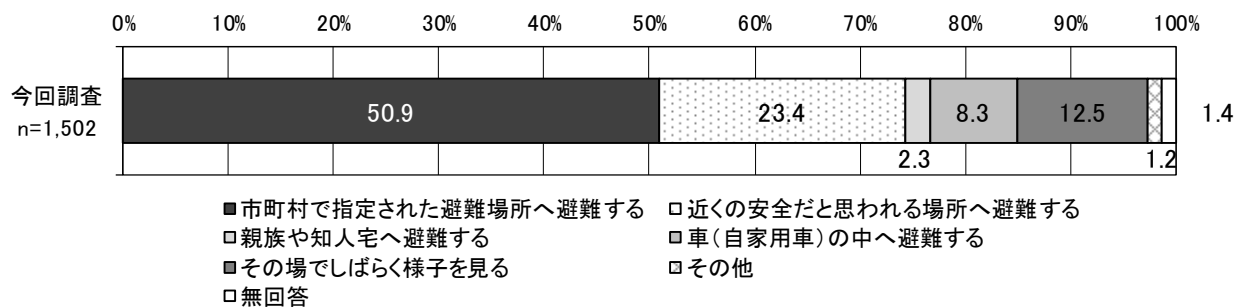
## (2) (自宅から) 避難する予定の場所

問 24 あなたやあなたのご家族が自宅にいるとき、もしも大規模地震などの災害が発生して自宅が危険な状態になったら、どのような場所に避難する予定ですか？（○は1つ）

◎ 指定避難場所へ避難する人は、50.9%となっている。

○ 自宅から避難する予定の場所は、「市町村で指定された避難場所へ避難する」が 50.9%と最も多く、次いで「近くの安全だと思われる場所へ避難する」が 23.4%となっている。

図 12. (自宅から) 避難する予定の場所



(単位: %)

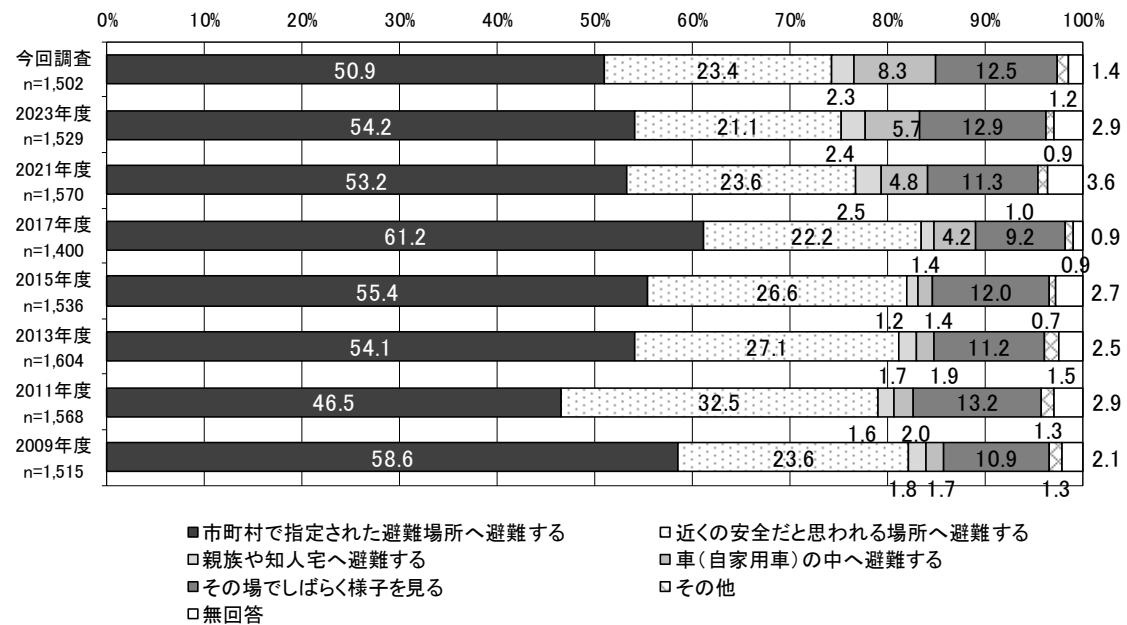
## ▽「その他」の記入内容

コメントなし	連区内の小学校が避難場所だがとてもじゃない大勢はいりきれない。
ひなん場所がわからない	ペットがいるので車が安全そうなら車へ。危険なら避難所方面へ。
ペットと行ける場所に避難する	ペット犬が居るから
わからない	家に残っています。どこにいても不安。一度の一生
学校 (3)	公務員なので指定避難場所にて住人の受け入れ
自宅が近所の方の避難所になる可能性がある	震度7程度であれば通常の構造であるため、避難はおそらく不要と思っている
倉庫シェルター	庭が広いので、テントを張って過ごす。
庭にテントを張る	庭のもの置き場
電源の確保できる所をチェックする	

## ◆（自宅から）避難する予定の場所[経年比較]

- 前回の調査に比較して、「市町村で指定された避難場所へ避難する」の割合が減少し、「近くの安全だと思われる場所へ避難する」が増加している。

図 54. （自宅から）避難する予定の場所（経年比較）

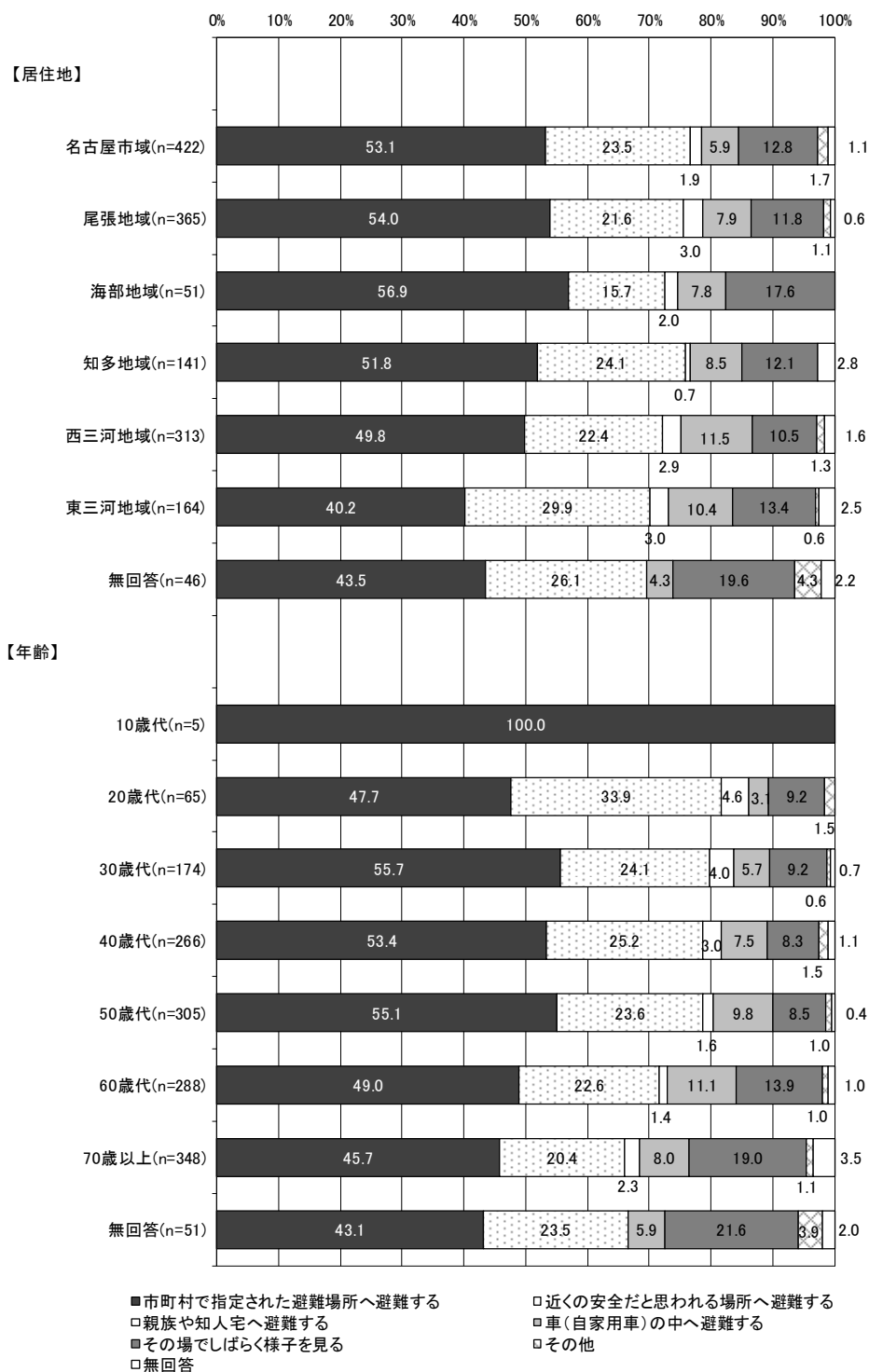


(単位: %)

## ◆(自宅から)避難する予定の場所[居住地別、年齢別]

- 地域別では「海部地域」が「市町村で指定された避難場所へ避難する」の割合が最も高い。
- 年齢別では10歳代を除いて、30歳代が「市町村で指定された避難場所へ避難する」の割合が最も高い。

図 55. (自宅から)避難する予定の場所[居住地別、年齢別]



(単位:%)

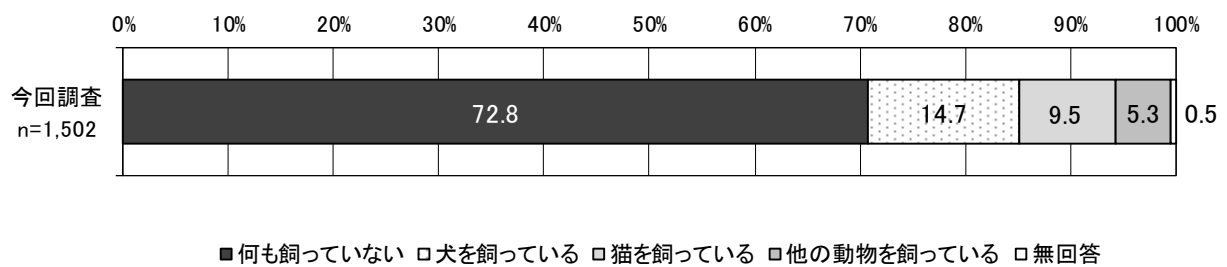
## (3) ペットの飼育状況

問 25 あなたは、ペットを飼っていますか？（〇はいくつでも）

◎ ペットを飼っている人の割合は全体の 29.5%になる。

○ 「犬を飼っている」人は 14.7%、「猫を飼っている」人は 9.5%、「その他の動物を飼っている」人は 5.3%になっている。

図 56. ペットの飼育状況



(単位: %)

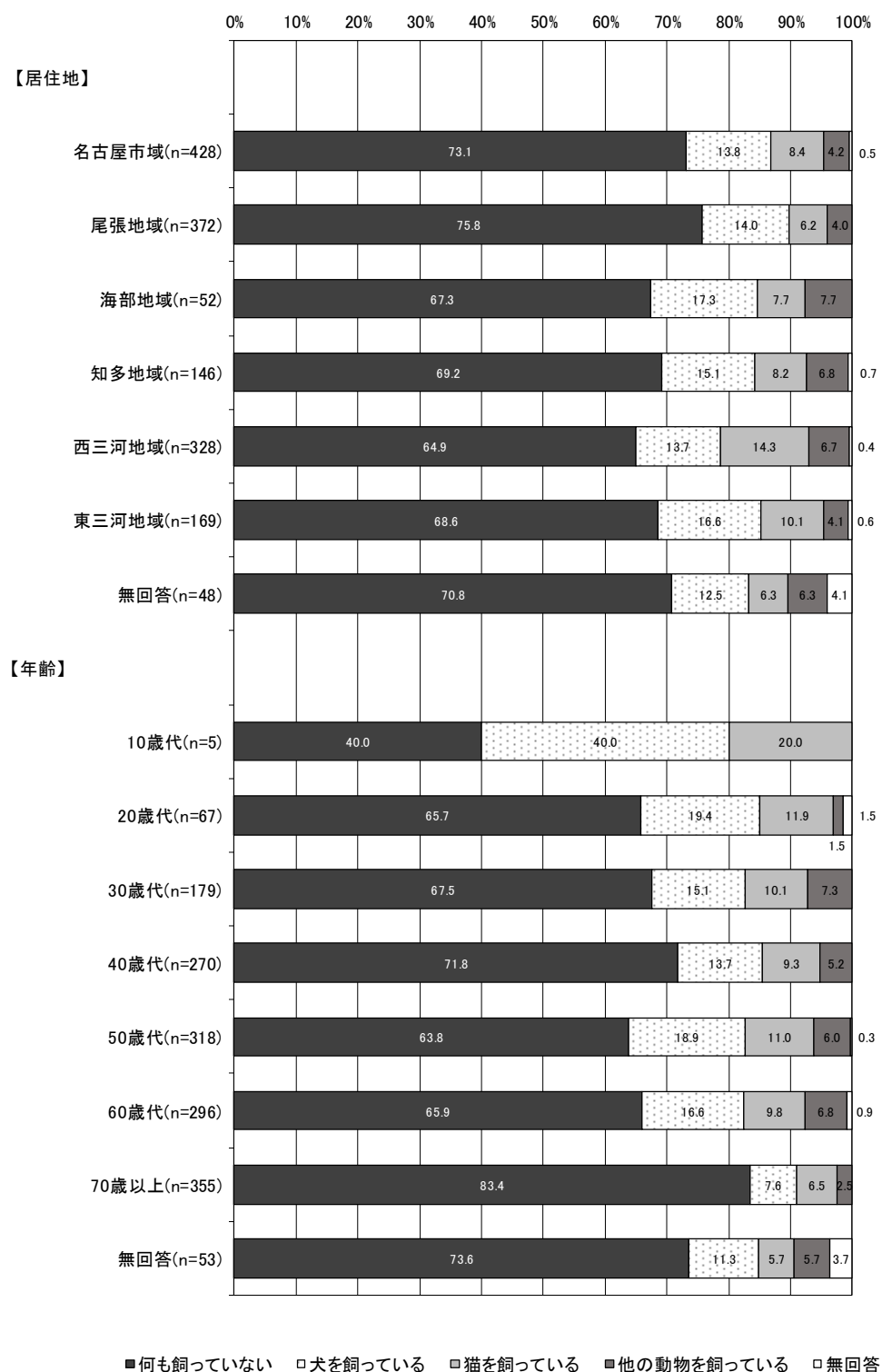
## ▽「その他」の記入内容

コメントなし (2)	野良ネコにごはんをあげて保護活動
インコ (5)	うさぎ (2)
魚 (金魚・熱帯魚等) (21)	亀 (8)
鳥・小鳥 (13)	小動物 (4)
爬虫類 (ヘビ・イモリ) (3)	カブトムシ、クワガタムシ
愛玩豚	馬

## ◆ペットの飼育状況【居住地別、年齢別】

○ 地域別では「西三河地域」がペットを飼育している人の割合が最も高い。

図 57. ペットの飼育状況【居住地別、年齢別】



(単位: %)

## (4) ペットの避難

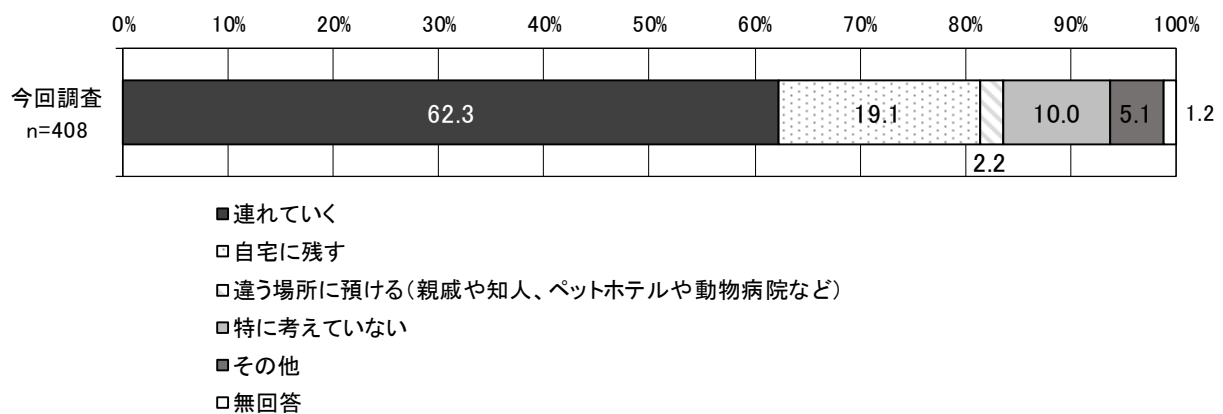
(問25で2、3、4を選択した方にうかがいます)

問 26 問 24 で避難する予定の場所へペットを連れていきますか？ (○はいくつでも)

◎ 「連れていく」人の割合は全体の62.3%になる。

○ 「連れていく」人が62.3%で最も高く、次いで「自宅に残す」人が19.1%になっている。

図 58. ペットの避難



(単位: %)

▽「その他」の記入内容

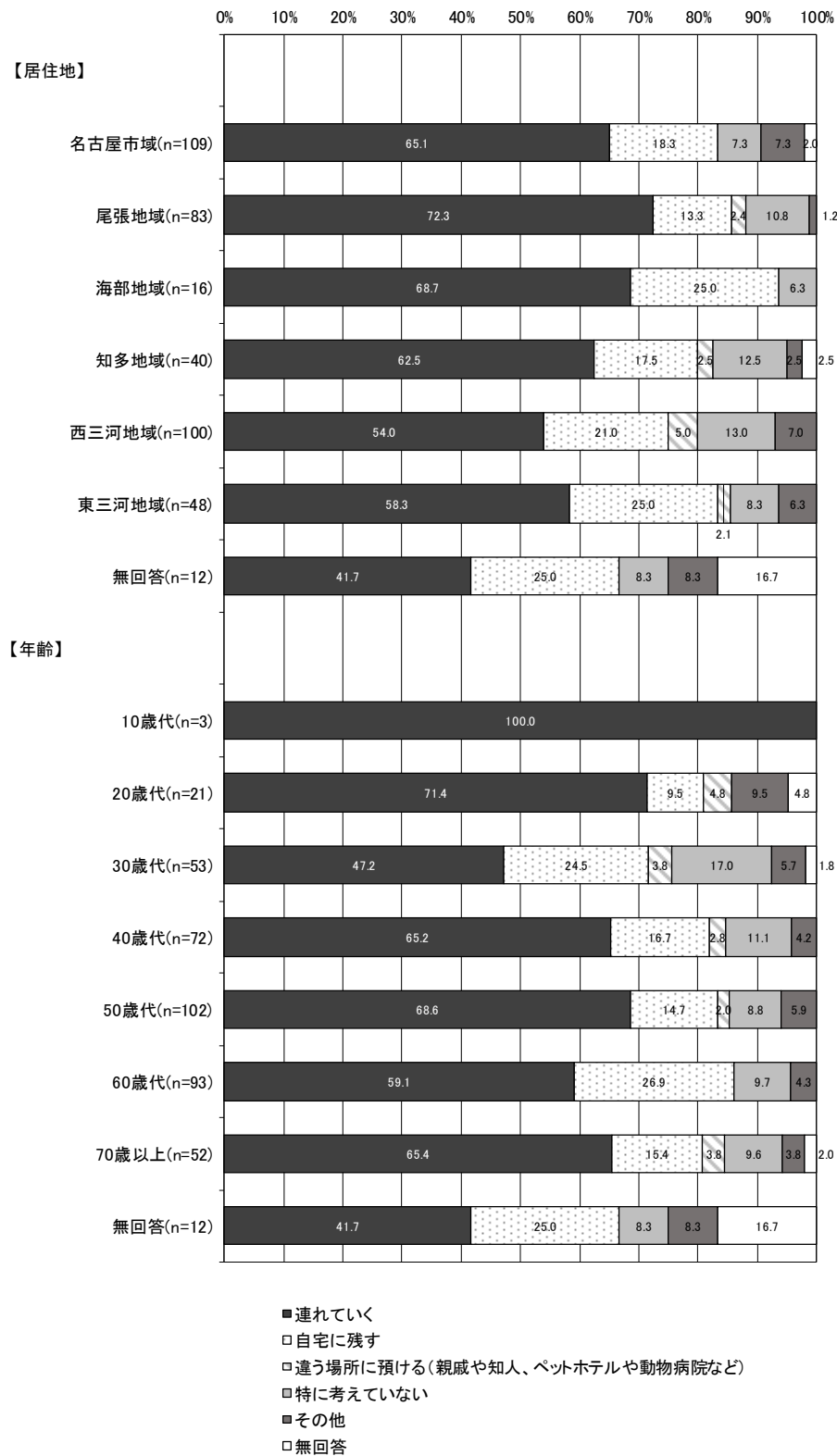
(選択肢1) あたり前	ペットと自宅にのこる (11)
車で一緒に過ごす (4)	主な世話を他の家族がしており、どうするのか不明。
庭が広いので、自由にしておく。	避難しない
野外へ放す(猫) 去勢終了している	連れて行きたいけど悩めます
連れて行く車中泊	



## ◆ペットの避難[居住地別、年齢別]

○ 地域別では「尾張地域」が「連れていく」人の割合が最も高い。

図 59. ペットの飼育状況[居住地別、年齢別]



(単位: %)

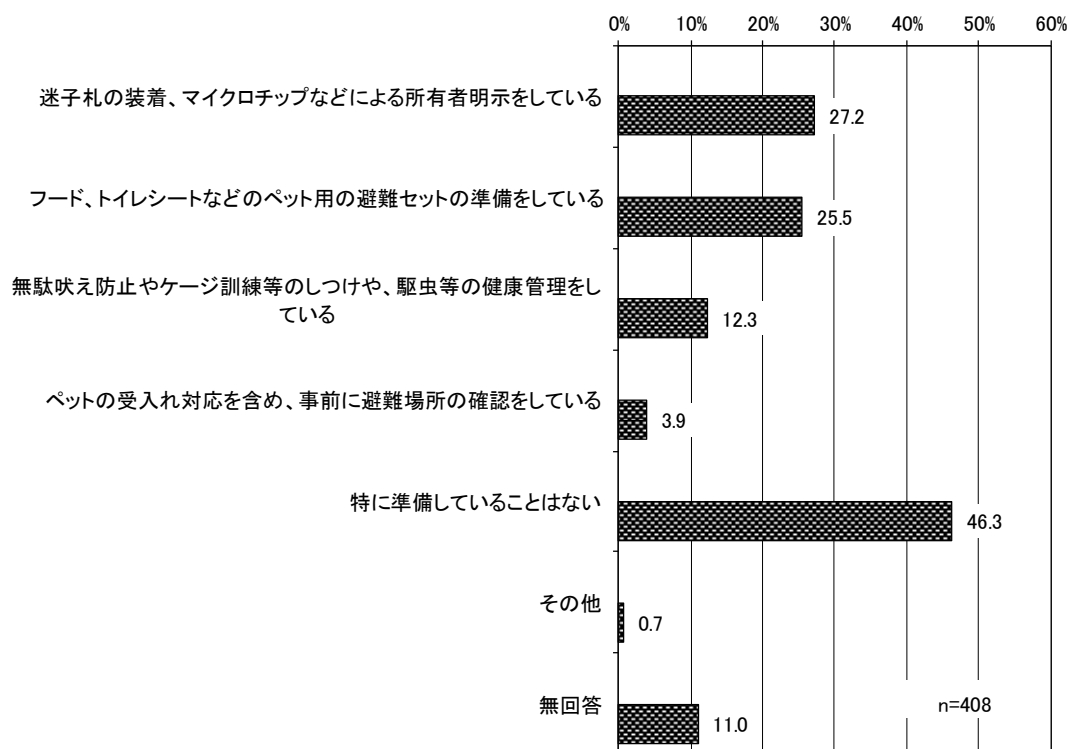
## (5) ペットの災害対策

(問25で2、3、4を選択した方にうかがいます)

問 27 ペットの災害対策として次のうち日頃から行っていることはありますか？  
(○はいくつでも)

- ◎ 対策をしている人の中では、「迷子札の装着、マイクロチップなどによる所有者明示をしている」人の割合が最も多い。
- 「迷子札の装着、マイクロチップなどによる所有者明示をしている」人が 27.2%で最も高く、次いで「フード、トイレシートなどのペット用の避難セットの準備をしている」人が 25.5%になっている。

図 60. ペットの災害対策



(単位: %)

▽「その他」の記入内容

コメントなし	ゲージの準備はあり
講習会に参加した	

## ◆ペットの災害対策[居住地別、年齢別]

- ペットの災害対策としては「尾張地域」にて「迷子札の装着、マイクロチップなどによる所有者明示をしている」(38.6%)の割合が最も高くなっている。

表 21. ペットの災害対策[居住地別、年齢別]

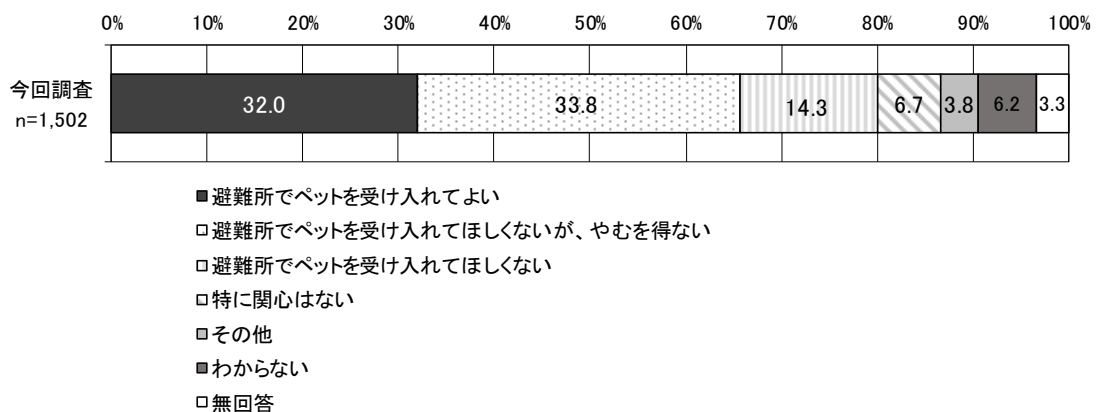
	回答者数	迷子札の装着、マイクロチップなどに	フールド、セットの準備をしているペット用	や、駆虫等の健康管理をしている	無駄吠え防止やケージ訓練等のしつけ	前に避難場所の確認をしている	ペットの受入れ対応を含め、事前に準備していることはない	その他	無回答
単位：%									
【居住地】									
名古屋市域	109	27.5	31.2	12.8	2.8	45.0	0.9	8.3	
尾張地域	83	38.6	24.1	10.8	7.2	39.8	1.2	12.0	
海部地域	16	18.8	18.8	12.5	0.0	68.8	0.0	0.0	
知多地域	40	7.5	12.5	7.5	5.0	67.5	0.0	10.0	
西三河地域	100	27.0	28.0	12.0	5.0	42.0	1.0	15.0	
東三河地域	48	27.1	22.9	14.6	0.0	45.8	0.0	8.3	
無回答	12	25.0	25.0	25.0	0.0	41.7	0.0	25.0	
【年齢】									
10歳代	3	66.7	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	
20歳代	21	33.3	28.6	4.8	4.8	33.3	0.0	19.0	
30歳代	53	24.5	20.8	13.2	5.7	54.7	0.0	5.7	
40歳代	72	27.8	27.8	9.7	5.6	48.6	0.0	8.3	
50歳代	102	34.3	24.5	16.7	2.9	41.2	2.0	11.8	
60歳代	93	21.5	28.0	8.6	2.2	49.5	1.1	8.6	
70歳以上	52	21.2	25.0	13.5	3.8	46.2	0.0	17.3	
無回答	12	25.0	25.0	25.0	0.0	41.7	0.0	25.0	

## (6) 避難所でのペットの受け入れ

問 28 あなたは、飼い主がペットを連れて避難所へ避難することについて、  
どのように感じますか。(〇は1つ)

- ◎ 「避難所でペットを受け入れてほしくないが、やむを得ない」人の割合が最も多い。
- 「避難所でペットを受け入れてほしくないが、やむを得ない」人が 33.8%で最も高く、次いで「避難所でペットを受け入れてよい」人が 32.0%になっている。

図 61. 避難所でのペットの受け入れ



(単位: %)

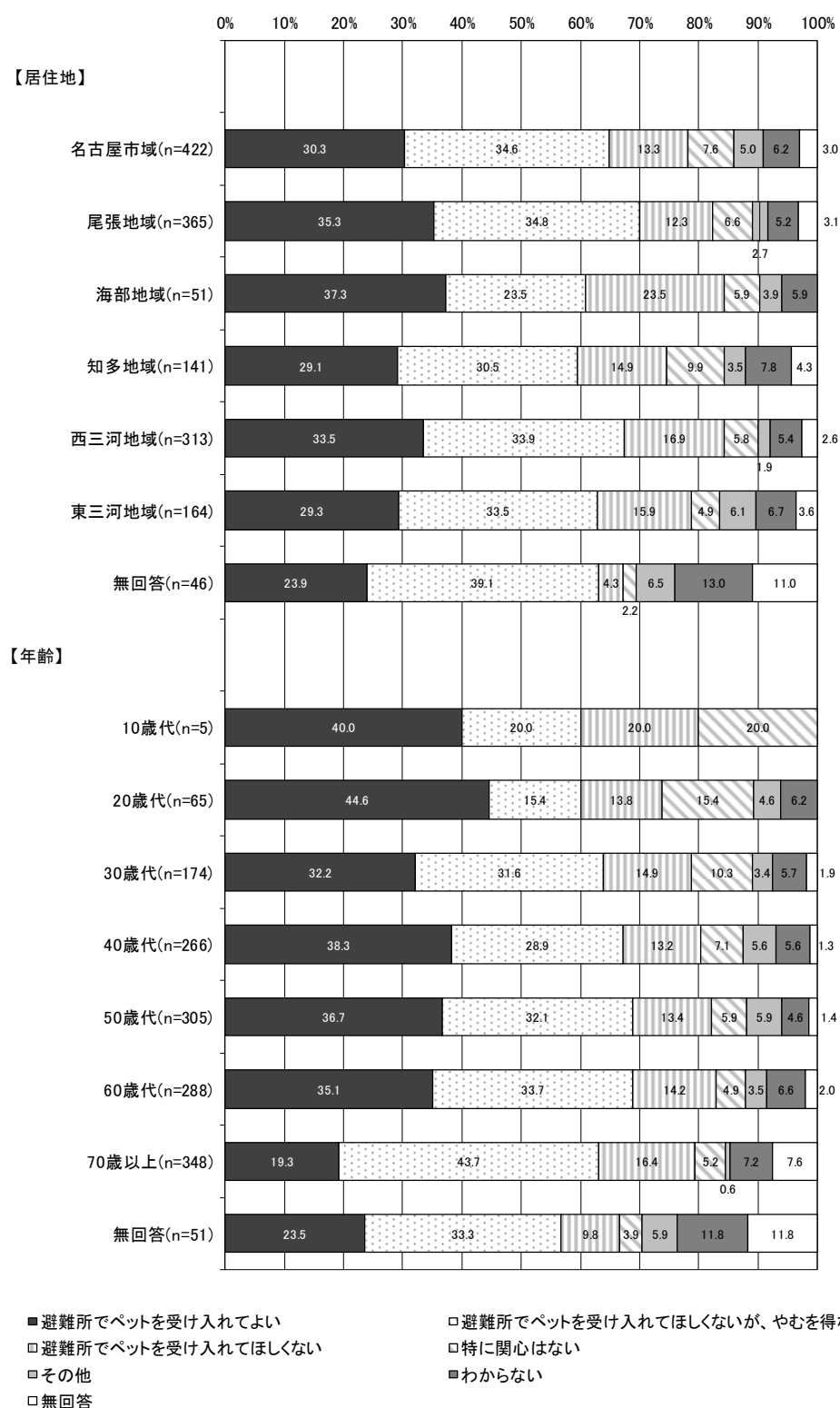
## ▽「その他」の記入内容

コメントなし (3)	(選択肢 1) 必ず連れていきたいので、対策を今からしておいてほしい
ペットがいる人と避難所を分けて欲しい (32)	ペットと飼い主が過ごせる別の場所を避難所内に設ける (2)
他に迷惑がかかるので車・自宅に残る (3)	ペットの種類、大きさによる (4)
全部の避難所ではなくペット可能な避難所を設置	飼い主がちゃんと管理できるなら受け入可
ペットと飼い主が過ごせる別の場所を避難所内に設ける (4)	規制をつくる
受け入れても良いが、受け入れ方には課題があると思う (3)	状況による
動物が、リードにつながれていたとしても怖い体質なのでとても苦痛に感じると思う。	避難所には原則行かない
避難所に赤ちゃんがいた場合、赤ちゃんが起きるほどの音を立てるペットは遠慮してほしい。	避難所へ連れてきてもらうのは致し方ないと思うが、緊急避難時にどう思うかはわからない。
不衛生なので別の場所に行ってほしい	今は居ないので良いですが、息子が動物のアレルギーがあったので、子供と居た時は否でした。

## ◆避難所でのペットの受け入れ[居住地別、年齢別]

○ 年齢別では 20 歳代が「避難所でペットを受け入れてよい」人の割合が最も高くなっている。

図 62. 避難所でのペットの受け入れ[居住地別、年齢別]



(単位: %)

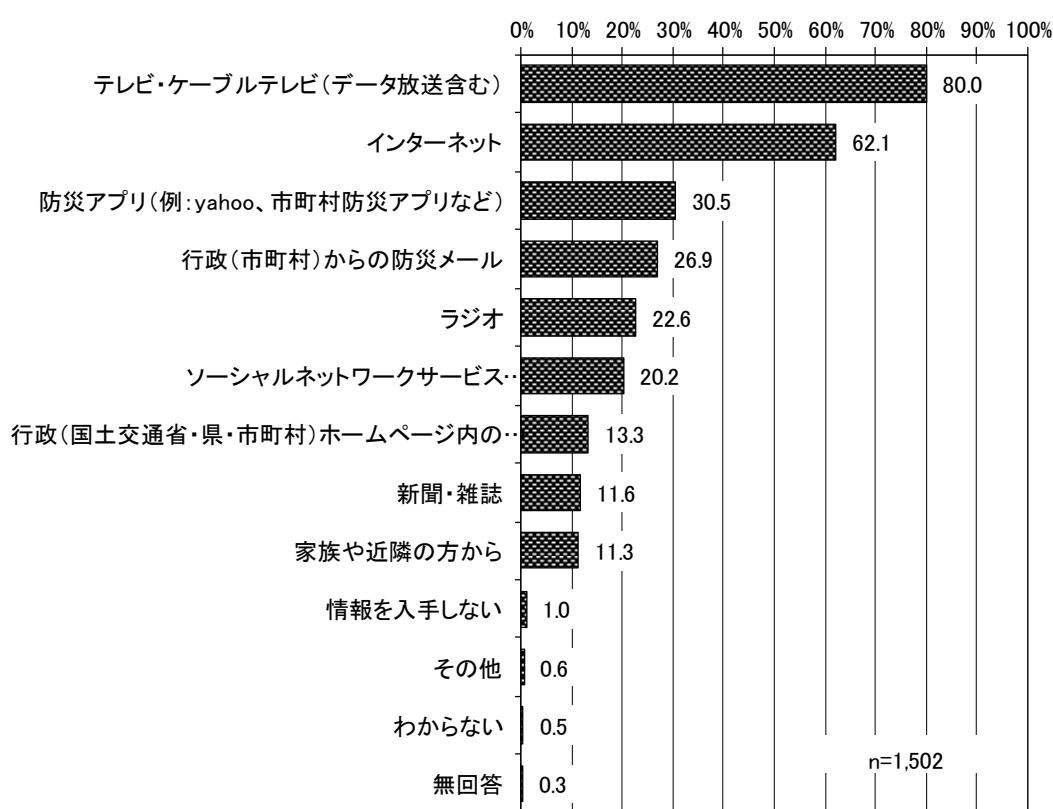
## (7) 豪雨時などの雨や河川の情報入手先

問 29 あなたは豪雨などの時に雨や河川の情報はどこで入手しますか？（○はいくつでも）

◎ 豪雨時などの雨や河川の情報入手先は、「テレビ・ケーブルテレビ（データ放送含む）」が80.0%となっている。

○ 豪雨時などの雨や河川の情報入手先としては、「テレビ・ケーブルテレビ（データ放送含む）」が80.0%と圧倒的に多く、次いで「インターネット」が62.1%、「防災アプリ（例：yahoo、市町村防災アプリなど）」が30.5%となっている。

図 63. 豪雨時などの雨や河川の情報入手先



(単位: %)

▽「その他」の記入内容

オクレンジャー	スマホ (2)
リアルタイムカメラ情報	近くの川の様子を見に行く
高台に居住しているので水の心配はないと思っている	消防団？からのアナウンス
町内放送	防災無線

## ◆豪雨時などの雨や河川の情報入手先[居住地別、年齢別]

○ 年齢別でみると、10 歳代から 60 歳代では、「インターネット」割合が高くなる。

表 22. 豪雨時などの雨や河川の情報入手先[居住地別、年齢別]

	回答者数	含む） テレビ・ケーブルテレビ（データ放送	ラジオ	新聞・雑誌	インターネット	F a c e b o o k など） （X（旧 Twitter）、LINE、	ソーシャルネットワークサービス	防災アプリ（例：Yahoo、市町村防災	行政（市町村）からの防災メール	ムページ内の「川の防災情報」ページ	行政（国土交通省・県・市町村）ホームページ	家族や近隣の方から	情報入手しない	その他	わからない	無回答
単位：%																
【居住地】																
名古屋市域	422	82.0	25.4	18.2	64.9	17.5	28.9	21.1	10.7	11.4	0.0	0.9	0.5	0.5		
尾張地域	365	82.5	23.3	13.4	66.6	23.3	27.4	24.7	11.2	14.0	0.3	0.3	0.8	0.3		
海部地域	51	74.5	19.6	13.7	60.8	25.5	31.4	25.5	13.7	13.7	2.0	0.0	2.0	0.0		
知多地域	141	77.3	23.4	11.3	60.3	25.5	27.7	22.0	7.1	10.6	0.7	0.0	2.8	0.7		
西三河地域	313	77.3	19.5	9.9	57.2	19.5	35.1	37.4	14.4	10.5	0.3	0.6	1.3	0.6		
東三河地域	164	79.3	19.5	9.1	64.6	17.7	35.4	36.0	11.0	10.4	0.6	0.6	0.0	0.0		
無回答	46	78.3	26.1	10.9	30.4	13.0	28.3	10.9	8.7	6.5	0.0	2.2	2.2	2.2		
【年齢】																
10歳代	5	80.0	40.0	0.0	80.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
20歳代	65	72.3	6.2	7.7	76.9	35.4	38.5	23.1	16.9	18.5	0.0	0.0	1.5	0.0		
30歳代	174	71.3	12.6	3.4	69.5	40.2	31.6	24.7	8.6	7.5	1.1	0.0	0.6	1.1		
40歳代	266	73.3	16.9	5.3	75.9	26.7	31.2	30.5	9.4	9.4	0.4	1.5	0.8	0.0		
50歳代	305	78.0	22.3	8.9	71.1	21.0	32.1	25.2	12.5	9.8	0.0	0.7	1.0	0.0		
60歳代	288	85.1	25.0	16.0	69.8	16.3	34.4	29.5	14.9	7.6	0.3	0.0	0.7	0.3		
70歳以上	348	88.8	31.9	27.6	35.3	6.3	23.9	27.6	9.8	19.5	0.3	0.6	1.4	0.9		
無回答	51	78.4	31.4	11.8	27.5	11.8	25.5	13.7	7.8	5.9	0.0	2.0	2.0	2.0		

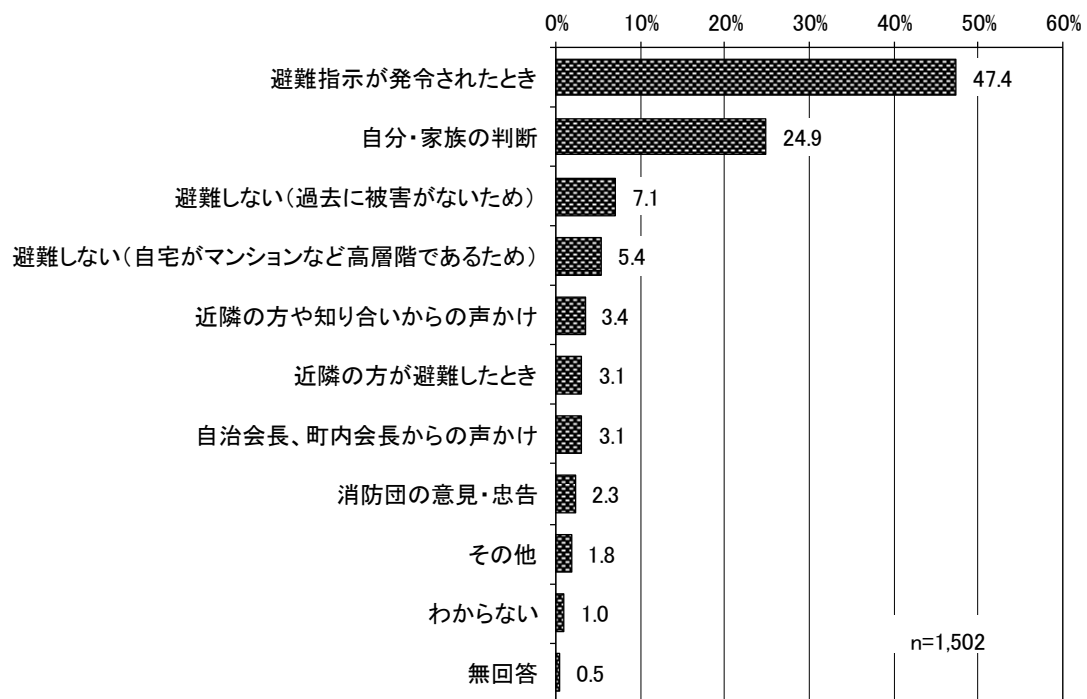


## (8) 水災害時の避難する状況判断

問 30 あなたは台風等の水災害時にどのような状況になったら避難しますか？（○は1つ）

- ◎ 水災害時の避難する状況判断は、「避難指示が発令されたとき」が 47.4%となっている。
- 水災害時の避難する状況判断としては、「避難指示が発令されたとき」が 47.4%と最も多く、次いで「自分・家族の判断」が 24.9%、「避難しない（過去に被害がないため）」が 7.1%となっている。

図 64. 水災害時の避難する状況判断



(単位: %)

## ▽「その他」の記入内容

高い台地に住んでいる為(4)	家に残る
1 階床上までを想定している	2F に避難する
ペットが居るため車での移動となるので動けるかわからない	まず近くの長男の住むマンションに避難の予定
河川なし、山なし	過去に被害があり程度を認知
会社・上司の指示に従う	近所に川は無いし、崩れるような山もないし、よっぽど のことがないと避難しないと思う。
自宅が三階建てであり、泥棒が来るのが嫌なので避難しない。	自分の判断で行動する
逃げ遅れる	避難できない 理由: 妻寝たきり故
避難指示が出たが状況でも判断し、近くの避難所に行く	要介護5の人がいるからわからない

## ◆水災害時の避難する状況判断[居住地別、年齢別]

- 年齢別でも、すべての年代で「避難指示が発令されたとき」の割合が高い。
- 一方、70歳以上では、「避難しない（過去に被害がないため）」の割合が高い。

表 23. 水災害時の避難する状況判断[居住地別、年齢別]

	回答者数	避難指示が発令されたとき	自分・家族の判断	近隣の方が避難したとき	かけ近隣の方や知り合いからの声	かけ自治会長、町内会長からの声	消防団の意見・忠告	シなど高層階であるため	避難しない（自宅がマンション）	いため	避難しない（過去に被害がない）	その他	わからない	無回答
単位：％														
【居住地】														
名古屋市域	422	46.7	25.4	1.7	4.0	2.4	1.7	8.3	5.5	1.2	2.8	0.3		
尾張地域	365	58.1	18.9	3.3	3.3	1.9	1.6	3.6	6.3	0.0	2.5	0.5		
海部地域	51	43.0	41.2	0.0	2.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	9.8	0.0		
知多地域	141	43.3	23.4	2.1	1.4	0.7	1.4	7.1	12.1	1.4	6.4	0.7		
西三河地域	313	43.5	25.6	4.2	5.1	3.5	1.6	5.4	7.7	1.0	1.9	0.5		
東三河地域	164	39.8	31.1	4.9	1.2	3.0	3.7	2.4	9.1	2.4	2.4	0.0		
無回答	46	41.3	28.3	6.5	2.2	2.2	2.2	2.2	6.5	2.2	4.3	2.1		
【年齢】														
10歳代	5	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0		
20歳代	65	60.1	26.2	1.5	0.0	0.0	4.6	1.5	3.1	1.5	1.5	0.0		
30歳代	174	55.2	21.3	4.0	2.3	1.1	0.6	4.6	7.5	0.0	2.9	0.5		
40歳代	266	48.9	27.4	3.4	3.4	1.5	1.9	4.9	4.5	1.1	3.0	0.0		
50歳代	305	48.9	23.6	3.0	4.3	0.7	2.0	5.6	6.6	0.7	4.3	0.3		
60歳代	288	48.3	23.3	3.5	1.7	2.8	1.7	8.0	7.3	1.0	1.7	0.7		
70歳以上	348	39.1	27.0	1.7	5.5	5.2	1.7	4.9	9.5	1.4	3.4	0.6		
無回答	51	37.3	25.5	7.8	2.0	2.0	2.0	3.9	9.8	2.0	5.9	1.8		

## 5. 地域の防災体制について

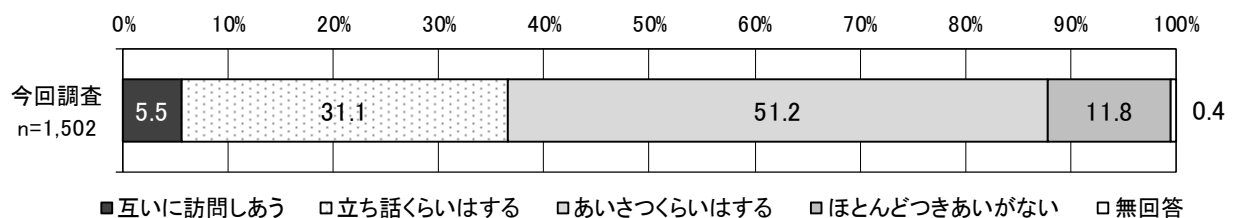
### (1) 普段の近所づきあい

問31 大規模災害の際の対応には、地域住民どうしの助け合いが重要であるといわれています。あなたは、普段近所とのおつきあいをどの程度していますか？（○は1つ）

◎ 「あいさつくらいはする」が51.2%と最も多い。

- 普段の近所づきあいは、「あいさつくらいはする」が 51.2%と最も多く、次いで「立ち話くらいはする」が 31.1%となっている。
- 「お互いに訪問し合う」は、5.5%であるのに対し、「ほとんどつきあいが無い」が 11.8%である。

図 65. 普段の近所づきあい

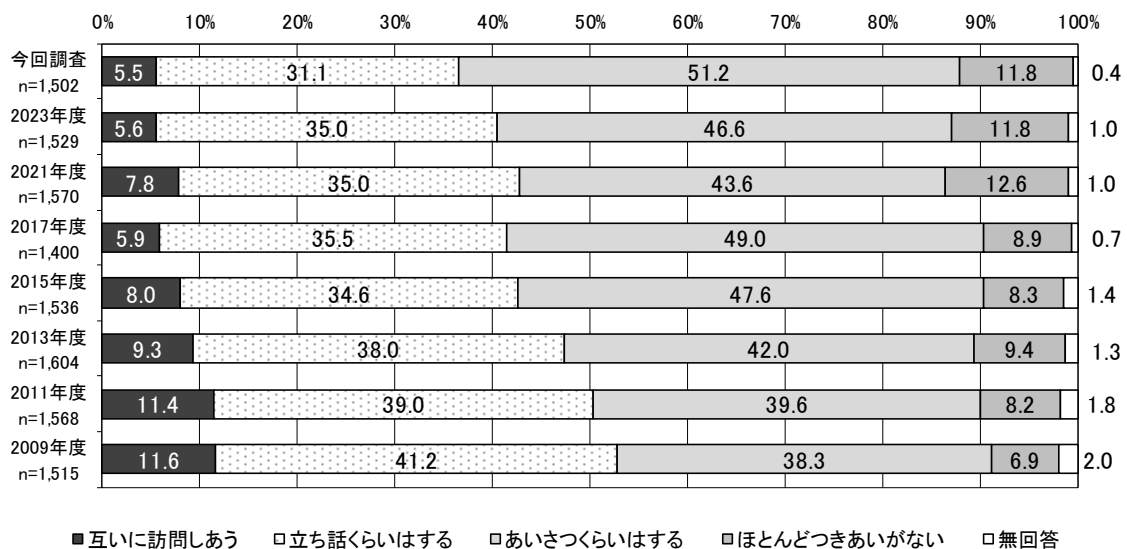


(単位: %)

### ◆ 普段の近所づきあい [経年比較]

- 前回調査と比べ、「互いに訪問しあう」が 0.1 ポイント減少した一方、「ほとんどつきあいが無い」は 4.6 ポイント増加している。

図 66. 普段の近所づきあい (経年比較)



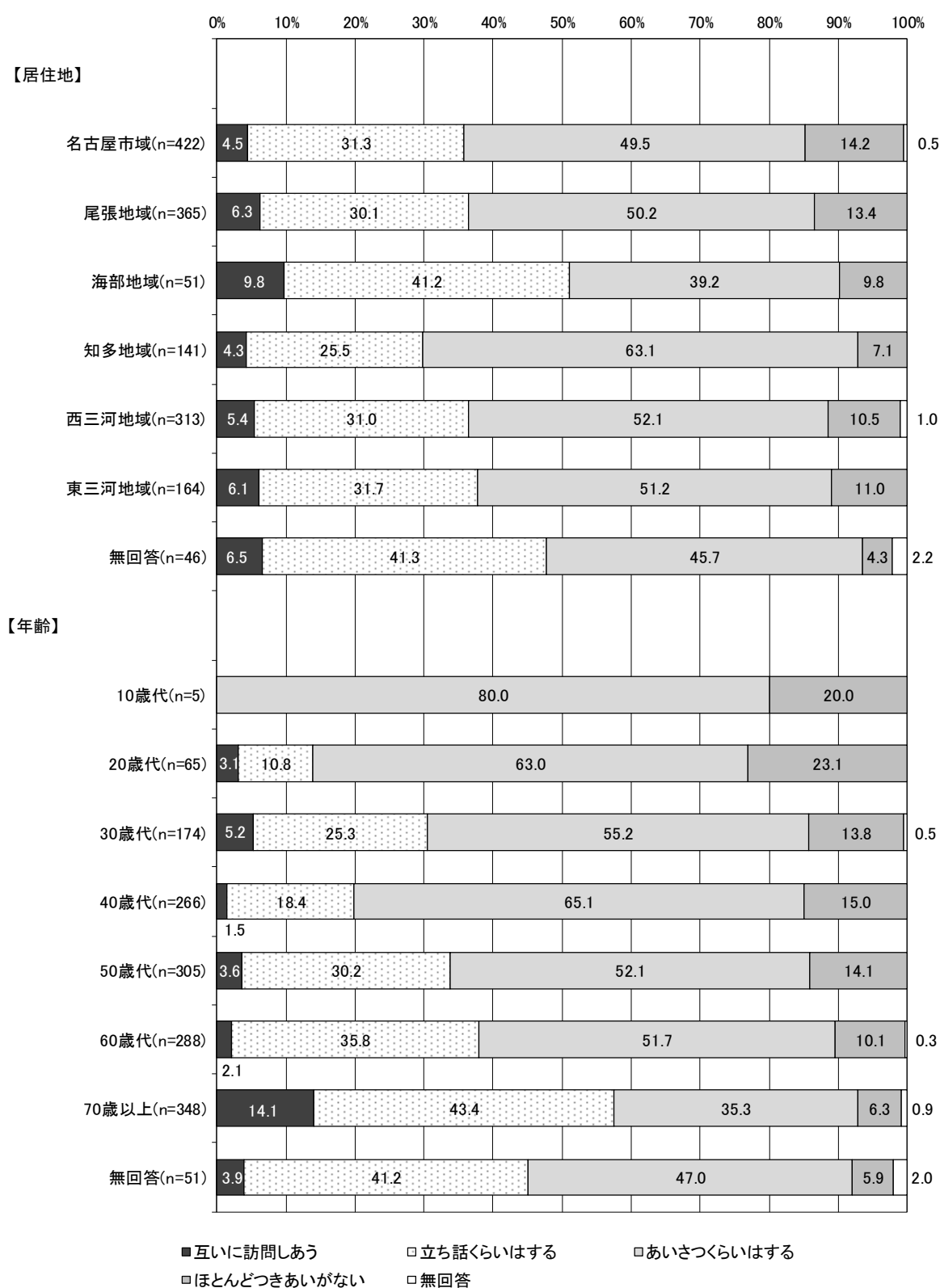
(単位: %)

※ 2009 年度調査より、選択肢「困ったときに助け合える」を削除した。

## ◆ 普段の近所づきあい【居住地別、年齢別】

○ 年齢が低いほど「ほとんどつきあいがいい」人の割合が高くなっている。

図 67 普段の近所づきあい【居住地別、年齢別】



(単位: %)

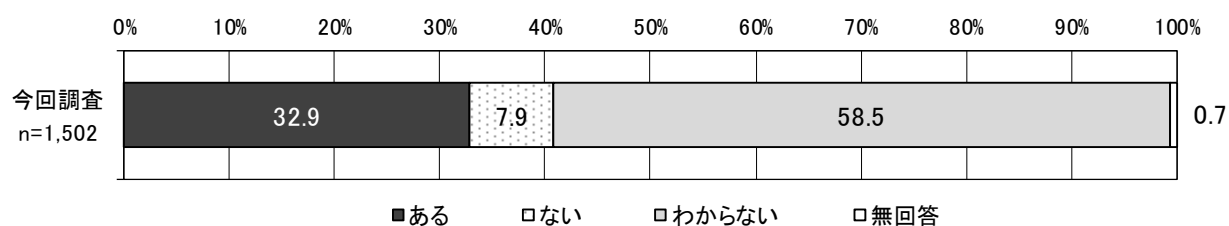
## (2) 地域の自主防災組織

問 32 あなたがお住まいの地域には自主防災組織はありますか？（○は1つ）

◎ 58.5%の人が自主防災組織があるかどうかを「わからない」と答えている。

○ 地域の自主防災組織が「わからない」58.5%と最も多い。

図 68. 地域の自主防災組織

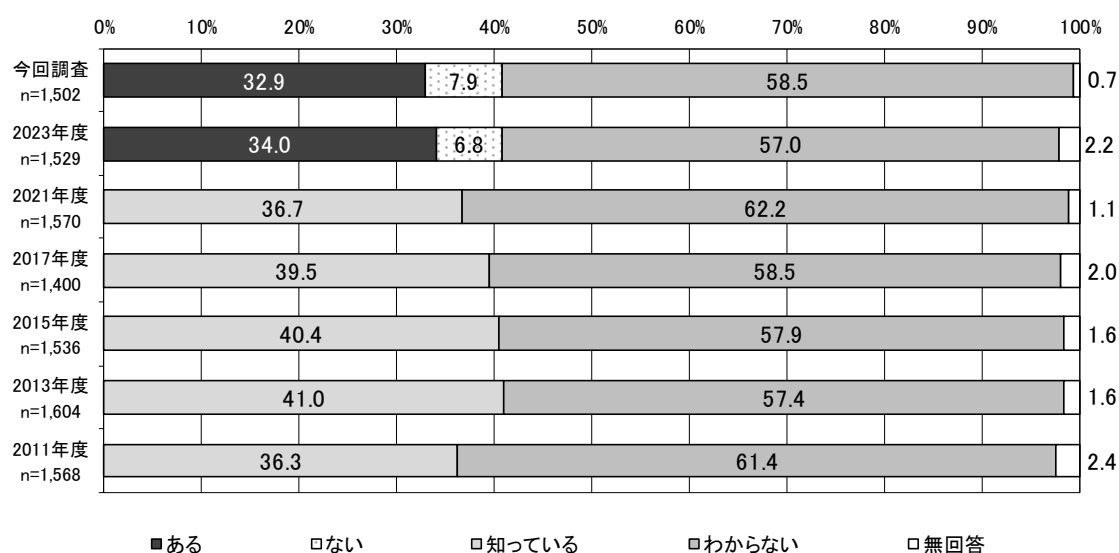


(単位: %)

◆地域の自主防災組織[経年比較]

○ 前回調査と比べ、「わからない」が 1.5 ポイント増加している。

図 69. 地域の自主防災組織（経年比較）



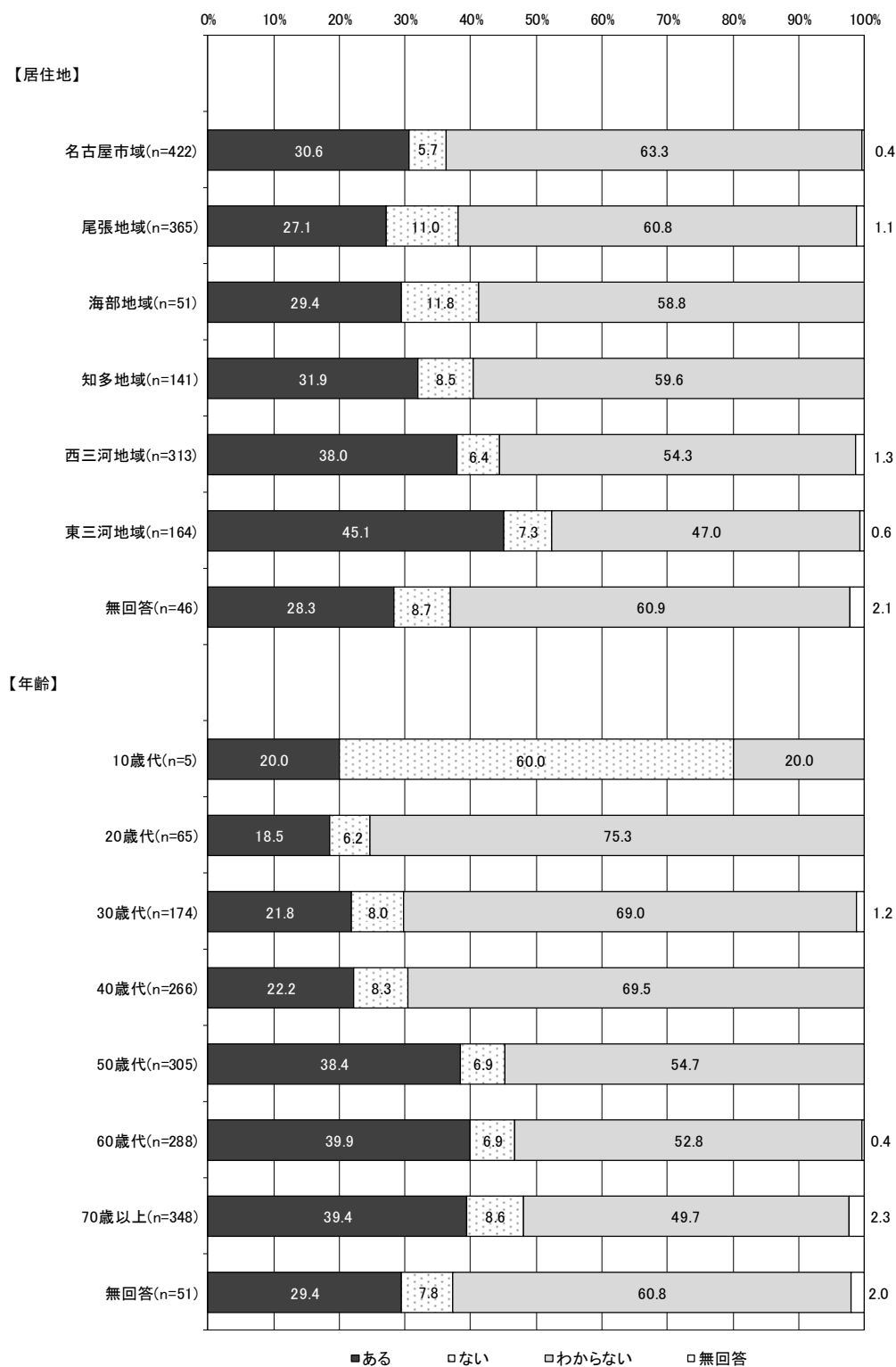
(単位: %)

※ 2023 年度より、選択肢「知っている」を「ある」「ない」に変更した。

## ◆地域の自主防災組織[居住地別、年齢別]

- 名古屋市域で他の地域に比べ、「わからない」人の割合が高い傾向にある。
- 年齢が高いほど、「わからない」人の割合が低くなっている。

図 70. 地域の自主防災組織[居住地別、年齢別]



(単位: %)

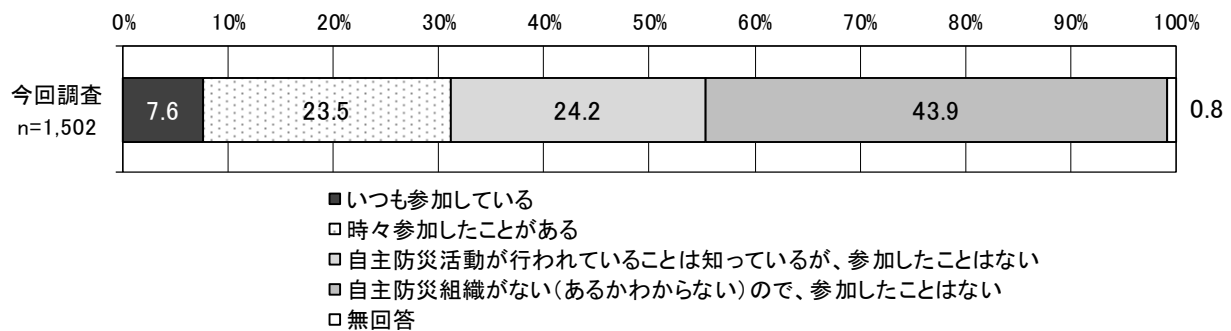
## (3) 地域の自主防災活動への参加経験

問 33 町内会や自治会、自主防災組織などにおいて、地域での防災訓練や防災活動（防災機材の点検、防災知識の普及など）が行われていた場合、あなたは、こうした自主防災活動に参加したことがありますか？（○は1つ）

◎ 『参加したことがある』人は31.1%となっている。

- 地域の自主防災訓練に「いつでも参加している」7.6%と、「時々参加したことがある」23.5%を合わせた『参加したことがある』人は、31.1%である。
- 「自主防災活動が行われていることは知っているが、参加したことがない」24.2%と、「自主防災組織がない（あるかわからない）ので、参加したことがない」43.9%を合わせた『参加したことがない』人は68.1%である。

図 71. 地域の自主防災活動への参加経験



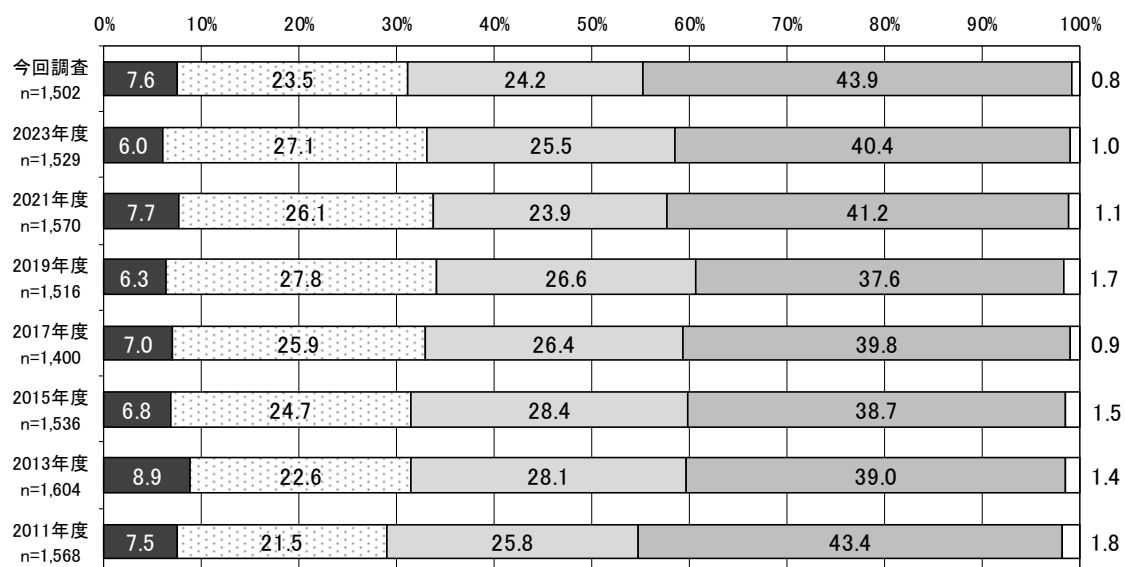
(単位: %)



## ◆地域の自主防災活動への参加経験[経年比較]

○ 前回調査と比べ、「参加したことがある」人の割合は 2.0 ポイント減少している。

図 72. 地域の自主防災活動への参加経験[経年比較]



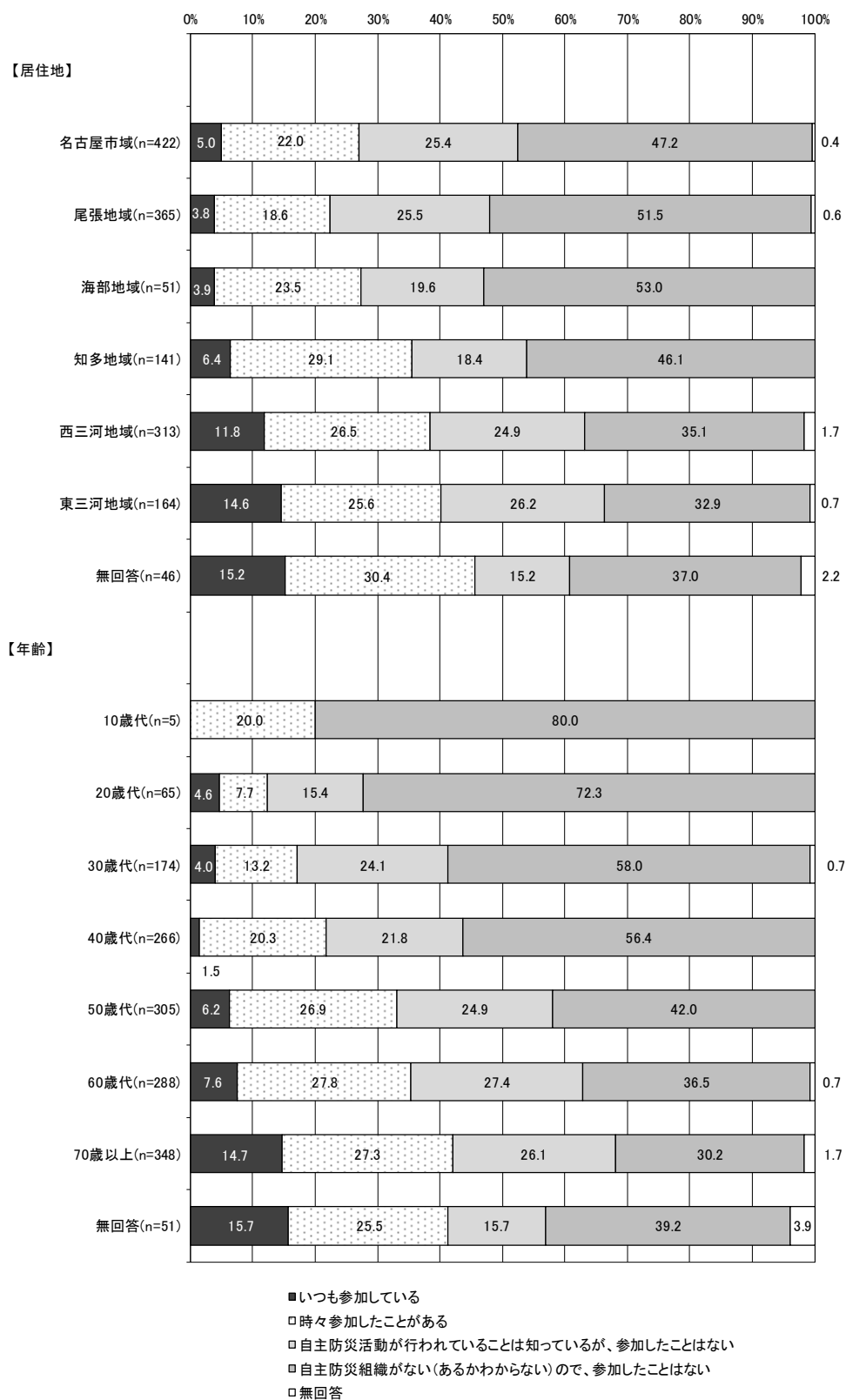
- いつも参加している
- 時々参加したことがある
- 自主防災活動が行われていることは知っているが、参加したことはない
- 自主防災組織がない(あるかわからない)ので、参加したことはない
- 無回答

(単位: %)

## ◆地域の自主防災活動への参加経験[居住地別、年齢別]

- 年齢が低いほど、『参加したことがない』人の割合が高くなっている。
- 居住地別では、東三河地域で「いつも参加している」人の割合が他の地域に比べ、高くなっている。

図 73. 地域の自主防災活動への参加経験[居住地別、年齢別]



(単位: %)

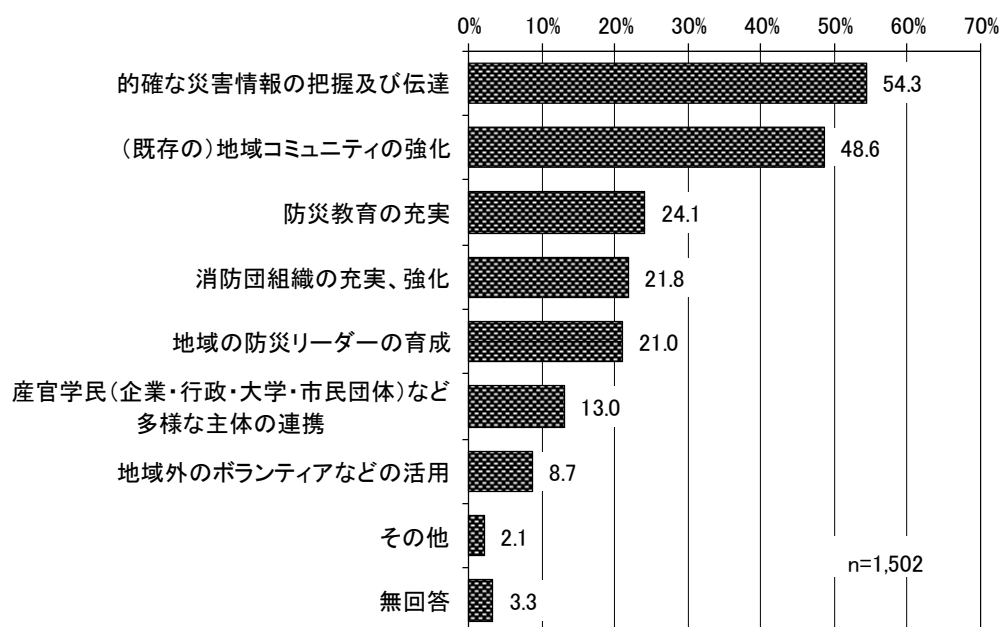
## (4) 地域の防災力を高めるために必要なこと

問 34 あなたは地域の防災力を高めるために何が必要だと思いますか？（〇は3つまで）

◎ 「的確な災害情報の把握及び伝達」が必要とする人が54.3%となっている。

○ 地域防災力を高めるために必要なことは、「的確な災害情報の把握及び伝達」が54.3%と最も多く、次いで「既存の地域コミュニティの強化」が48.6%となっている。

図 74. 地域の防災力を高めるために必要なこと



(単位: %)

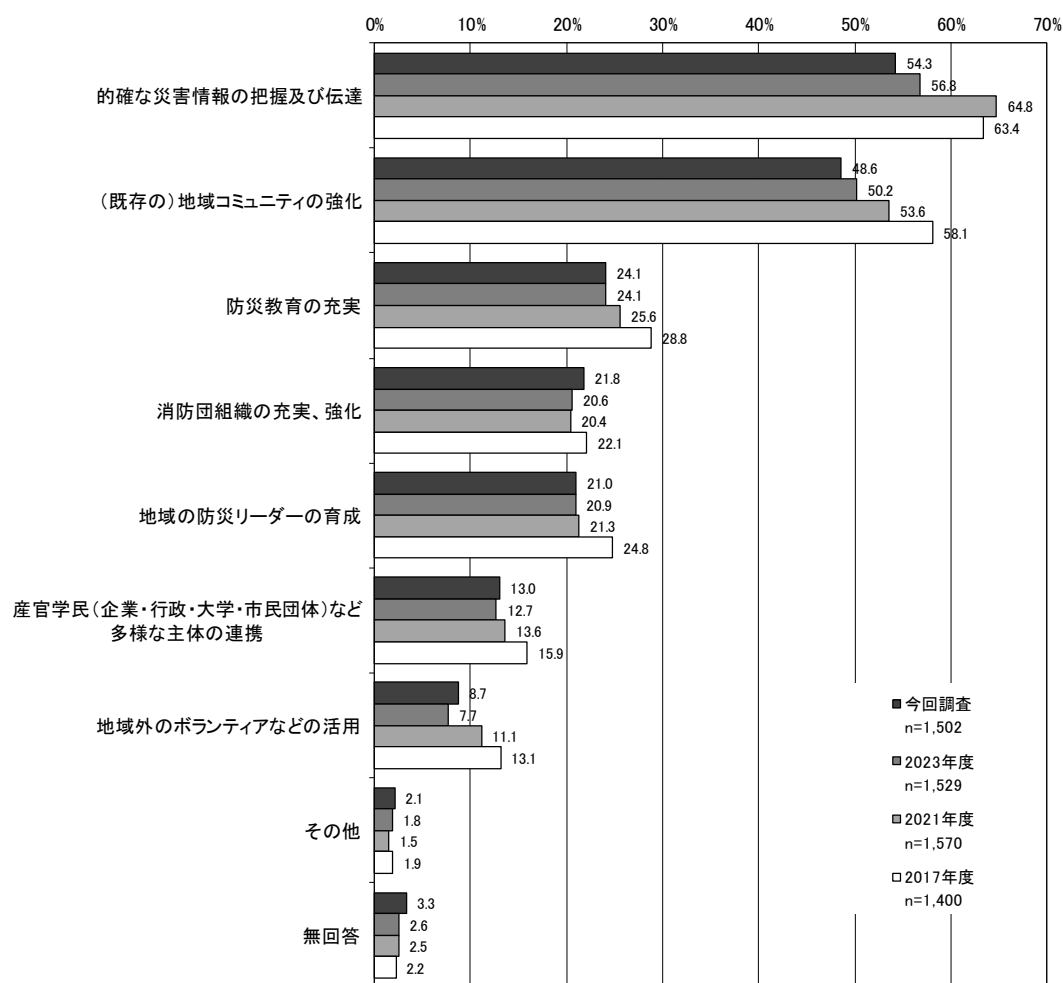
## ▽「その他」の記入内容

コメントなし (5)	わからない (6)
特になし	予算
防災訓練 (3)	各自の意識
現在町内会を退会される方が多い。何かあった時、退会された方はどうするんだろうと考える時があります。まずは小さなまとまりを作り、助ける事が必要かな。	行政による不安全箇所の見直しと是正。
高齢者に重視するが視聴覚障がい、両上下肢障がいの人にも対処を考えてほしい。	市区町村の役所の対応強化
自治会は不要。給料制の防災係を設ける。	自主防災組織はあるが全く機能していないし機能する状況にない。
消防・警察・自衛隊の強化	消防団等の活動に対する金銭的補助の拡充。
地域での防災について、会を開催して欲しい。	地域の防災力を高めるよりも、災害が起きたらすぐにボランティアが効果的な支援ができるようなシステムの構築が必要。
地域行政組織のリーダーシップ	堤防のかさあげ
避難所が保育園なので不安。避難場所の強化。	防災専門の職員を市及び区でやとうボランティアではだめ
防災無線の音声をクリアにすること	年なのでかえって迷惑をかけそうです！！

## ◆地域の防災力を高めるために必要なこと〔経年比較〕

○ 前回調査と比べ、「的確な災害情報の把握及び伝達」が 2.5 ポイント減少している。

図 75. 地域の防災力を高めるために必要なこと〔経年比較〕



(単位: %)

## ◆地域の防災力を高めるために必要なこと【居住地別、年齢別】

- 年齢別でみると 50 歳代の「的確な災害情報の把握及び伝達」の割合が 59.0%と最も高くなっている。

表 24. 地域の防災力を高めるために必要なこと【居住地別、年齢別】

	回答者数	ニ テ イ の 強 化	（ 既 存 の ） 地 域 コ ミ ュ	育 成 域 の 防 災 リ ー ダ ー の	地 域 外 の 活 用 ボ ラ ン テ ィ ア	地 域 外 の 活 用 ボ ラ ン テ ィ ア	消 防 団 組 織 の 充 実 、 強	及 び 伝 達	的 な 災 害 情 報 の 把 握	防 災 教 育 の 充 実	大 学 ・ 市 民 団 体 ） な ど 多	産 官 学 民 （ 企 業 ・ 行 政 ・	そ の 他	無 回 答
単位：%														
【居住地】														
名古屋市域	422	45.7	18.2	7.6	21.8	58.3	24.6	13.3	1.7	3.6				
尾張地域	365	51.5	21.4	9.3	22.5	54.8	26.8	16.7	1.1	2.5				
海部地域	51	41.2	27.5	15.7	31.4	47.1	21.6	17.6	3.9	0.0				
知多地域	141	57.4	21.3	8.5	19.1	53.9	24.1	9.9	2.8	2.8				
西三河地域	313	46.6	21.4	8.6	22.4	52.1	23.0	11.5	3.2	4.5				
東三河地域	164	50.6	25.0	9.1	19.5	51.8	20.7	9.1	2.4	1.8				
無回答	46	39.1	17.4	4.3	19.6	47.8	19.6	10.9	2.2	10.9				
【年齢】														
10歳代	5	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	60.0	40.0	0.0	0.0				
20歳代	65	43.1	15.4	15.4	29.2	44.6	38.5	21.5	1.5	0.0				
30歳代	174	44.3	13.8	9.2	23.0	51.1	32.8	14.4	1.7	3.4				
40歳代	266	48.5	21.4	10.2	22.9	51.1	25.9	14.7	2.6	2.6				
50歳代	305	47.2	18.0	7.9	17.4	59.0	27.5	15.7	1.0	2.0				
60歳代	288	55.6	26.7	7.3	18.4	55.2	21.2	12.2	2.8	1.4				
70歳以上	348	49.4	23.9	8.6	26.1	57.2	15.2	8.3	2.6	5.7				
無回答	51	37.3	17.6	3.9	21.6	45.1	19.6	7.8	2.0	13.7				

## 6. 災害時のボランティア活動について

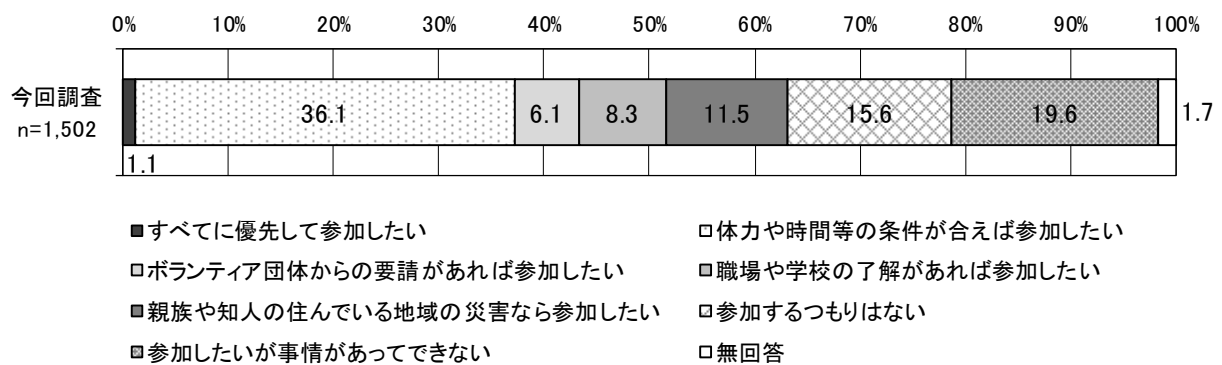
### (1) 被災地でのボランティア活動への参加意向

問 35 災害が発生すると、被災地では救援・医療活動や復旧活動、物資の搬送や情報伝達といった様々な支援が必要となってきます。あなたはお住まいの地域以外で災害が発生したとき、被災地の復旧・復興を支援するため、ボランティア活動をしたと思いますか？  
(○は1つ)

◎ 63.1%の人が条件次第で『参加したい』と思っている。

- 自分の地域以外の被災地でのボランティア活動に「体力や時間等の条件が合えば参加したい」人が36.1%と最も多くなっている。それ以外を含めて『参加したい』は63.1%になる。
- 「参加するつもりはない」と「参加したいが事情があってできない」を合わせて、35.2%となっている。

図 76. 被災地でのボランティア活動への参加意向

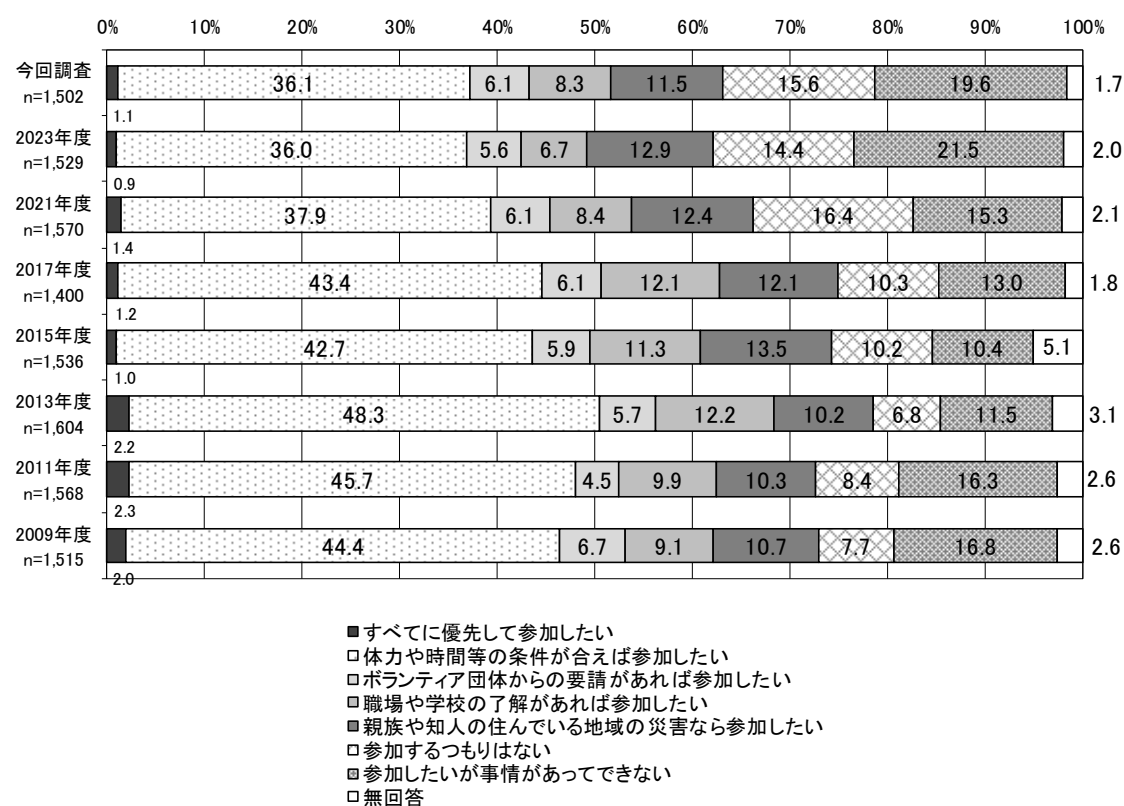


(単位: %)

## ◆被災地でのボランティア活動への参加意向[経年比較]

○ 前回調査と比べ、条件次第で『参加したい』が 1.0 ポイント増加した。

図 77. 被災地でのボランティア活動への参加意向[経年比較]



(単位: %)

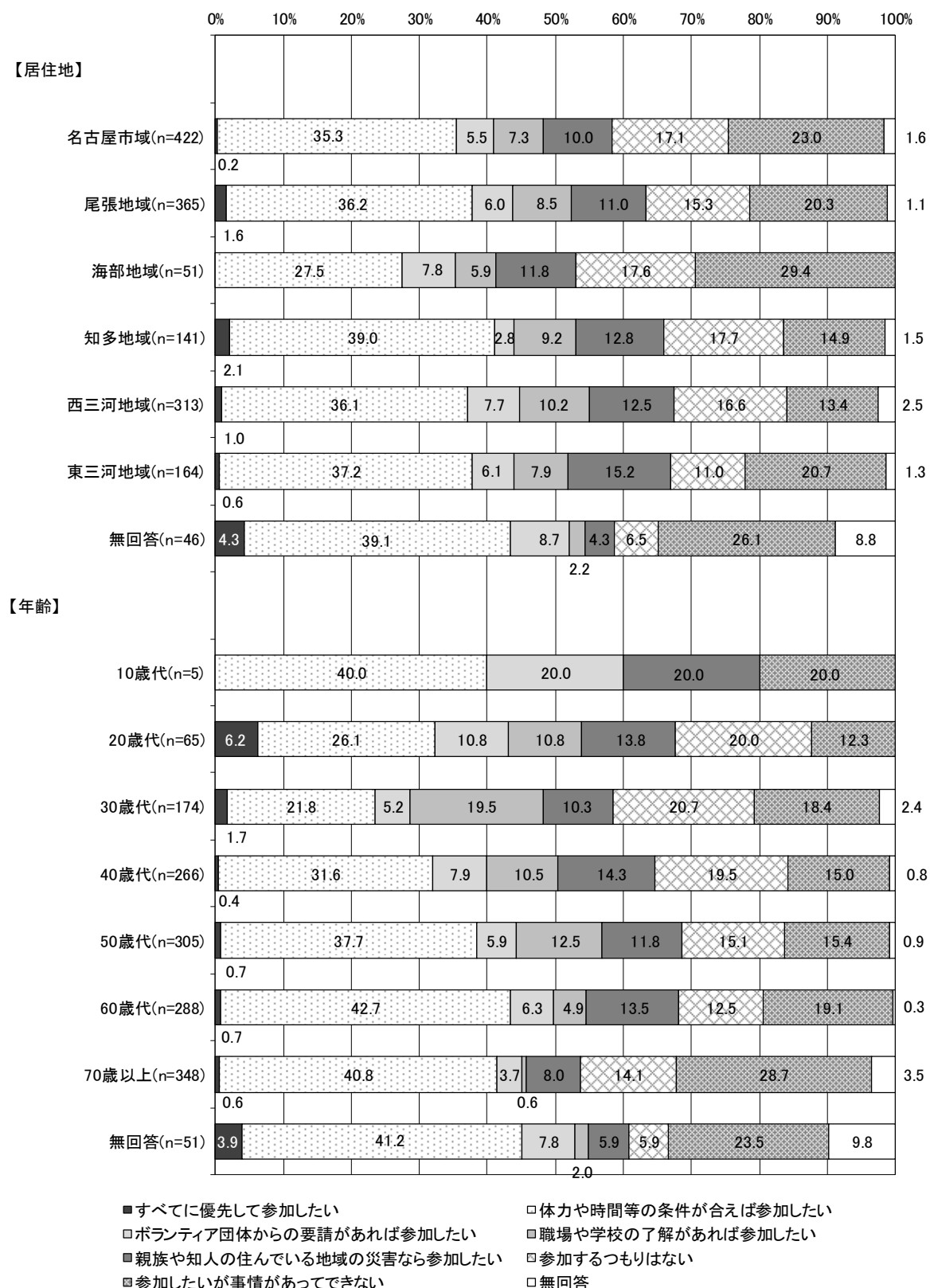
※ 2007 年度調査は、選択肢「参加するつもりはない・参加したいが事情があってできない」としている。



## ◆被災地でのボランティア活動への参加意向[居住地別、年齢別]

- 年齢別でみると、条件次第で『参加したい』が50歳代で多くなっている。
- 居住地別にみると、西三河地域が条件次第で『参加したい』が多くなっている。

図 78. 被災地でのボランティア活動への参加意向[居住地別、年齢別]



(単位: %)

## 7. 県・市町村の防災・災害対策について

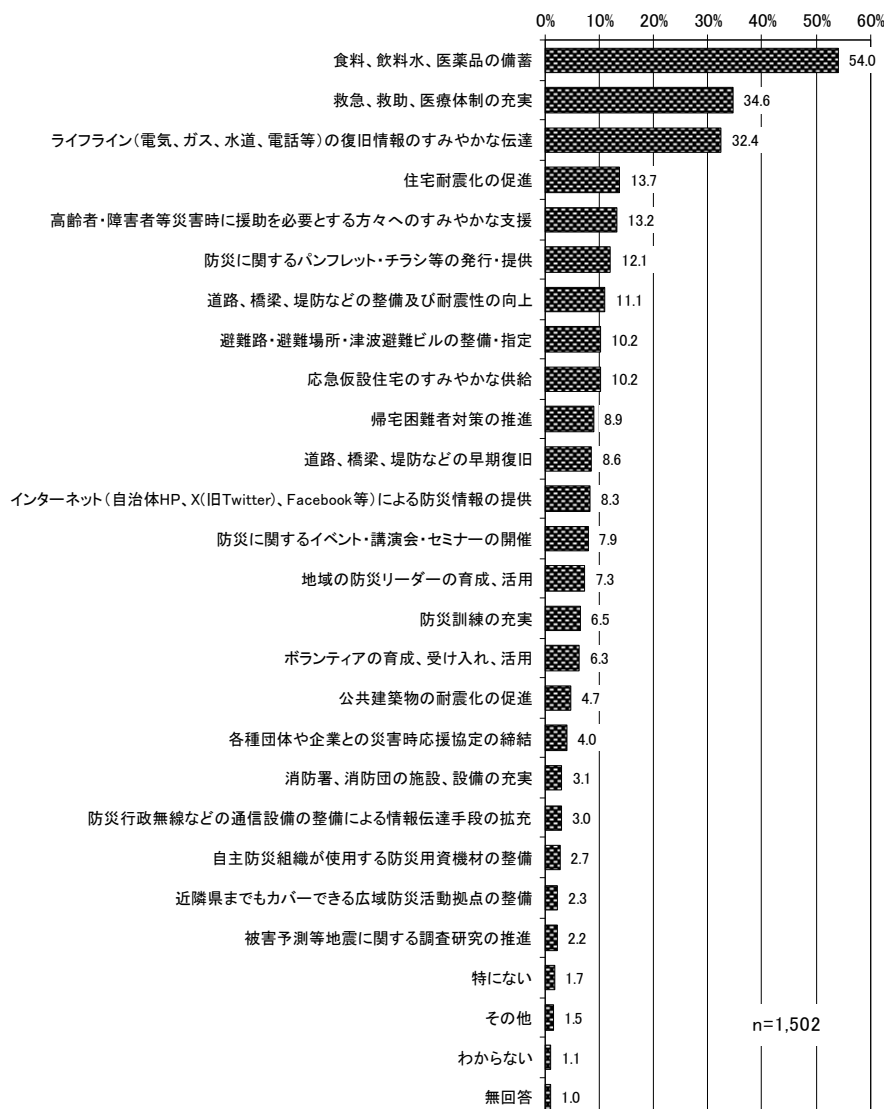
### (1) 県や市町村に力をいれてほしい防災・災害対策

問36 あなたが、県や市町村に特に力を入れてほしい防災・災害対策は、どのようなことですか？（〇は3つまで）

◎ 「食料、飲料水、医薬品の備蓄」が54.0%と最も力を入れてほしい対策としてあげられている。

○ 県や市町村に特に力を入れてほしい防災・災害対策は、「食料、飲料水、医薬品の備蓄」が54.0%と最も多く、次いで「救急、救助、医療体制の充実」(34.6%)、「ライフライン（電気、ガス、水道、電話等）の復旧情報のすみやかな伝達」が32.4%となっている。

図 79. 県や市町村に力をいれてほしい防災・災害対策



(単位: %)

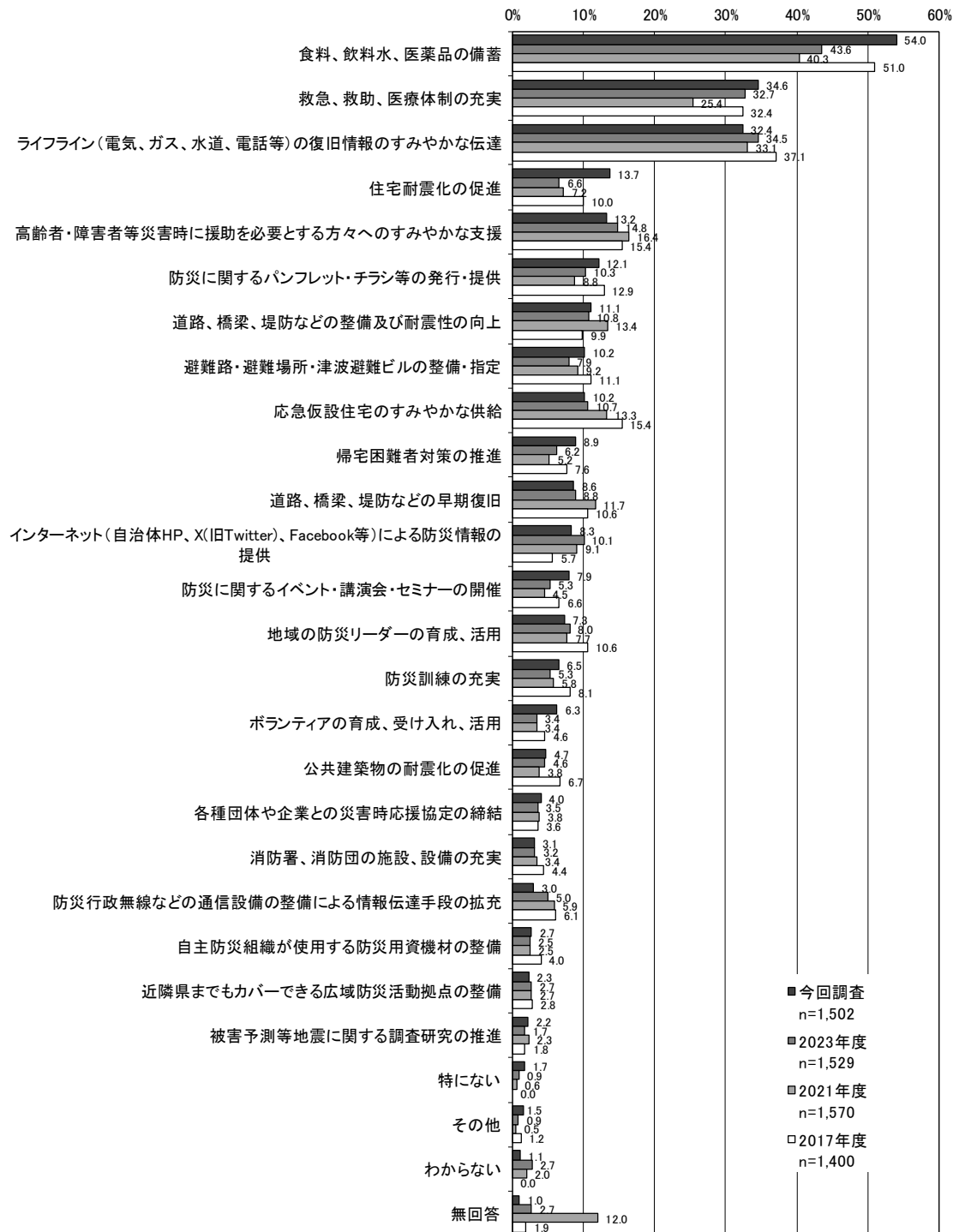
## ▽「その他」の記入内容

コメントなし	イベントや講演料に予算を使うより、ハード面に予算を使ってほしい
ペット	ペット同行避難訓練の実施
夏の災害時における冷房などの対策（毎年、真夏になると、停電が何日も続けば、熱中症で命が危険にさらされると感じています。市民が安全に過ごせるだけの冷房などの対策をお願いしたいと切に願います）	犬同伴避難
個人の意識向上	災害は、行政を頼らずに自助、互助でのりきる。
自宅避難ができる世帯を増やし、自宅避難可否の判断目安を教えて欲しい。	若年層、単身世帯者への防災、減災啓発
小、中、高校生に、災害時、防災を考える教育を受けさせてほしい。	側溝にごみがたまり、雨水があふれてしまうので対策してほしい。
東北・熊本・石川を見て色々準備しても、自然には勝てないのだと実感しました。その中でも、本当に老朽化してしまった建物を排除し、少しでも安心して避難できる所を整備してはどうでしょう。	避難所の充実。50年前と一緒に、ザコ寝
避難場所の準備（トイレ、風呂、段ボールベッド、しきり）	避難路が遠く行けない
非常用トイレ購入の補助金制度	問38に記載

## ◆県や市町村に力をいれてほしい防災・災害対策[経年比較]

- 前回の調査と比べると、「救急、救助、医療体制の充実」と「ライフライン（電気、ガス、水道、電話等）の復旧情報のすみやかな伝達」の順位が入れ替わった。

図 80. 県や市町村に力をいれてほしい防災・災害対策[経年比較]



(単位: %)

## ◆県や市町村に力をいれてほしい防災・災害対策[居住地別、年齢別]

- 年齢別にみると、どの年齢層でも高い傾向である「食料、飲料水、医薬品の備蓄」は、若い年齢層でやや高い傾向を示している。

表 7. 県や市町村に力をいれてほしい防災・災害対策[居住地別、年齢別]

	回答者数	防災に関するイベント・講演会・セミナーの開催	防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供	地域の防災リーダーの育成、活用	ボランティアの育成、受け入れ、活用	防災訓練の充実	帰宅困難者対策の推進	住宅耐震化の促進	救急、救助、医療体制の充実	食料、飲料水、医薬品の備蓄	各種団体や企業との災害時応援協定の締結	被害予測等地震に関する調査研究の推進	消防署、消防団の施設、設備の充実	近隣の整備
単位：％														
【居住地】														
名古屋市域	422	6.2	11.8	6.2	7.1	5.5	9.0	12.3	35.5	52.1	5.0	2.6	2.4	2.1
尾張地域	365	9.6	13.7	6.6	6.8	7.9	7.4	12.9	34.2	57.3	3.6	1.4	2.5	3.0
海部地域	51	7.8	5.9	2.0	9.8	5.9	11.8	17.6	29.4	45.1	2.0	2.0	0.0	3.9
知多地域	141	12.8	18.4	11.3	7.1	7.1	8.5	11.3	30.5	53.9	5.0	0.7	2.1	3.5
西三河地域	313	7.0	8.0	8.0	4.8	6.1	9.3	15.7	37.4	60.4	3.8	1.3	4.2	1.3
東三河地域	164	5.5	11.0	6.7	3.0	6.1	12.8	16.5	37.2	43.9	3.7	0.6	3.7	1.2
無回答	46	8.7	19.6	15.2	10.9	8.7	2.2	13.0	19.6	47.8	0.0	0.0	10.9	0.0
【年齢】														
10歳代	5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	40.0	60.0	0.0	0.0	40.0	0.0
20歳代	65	1.5	12.3	1.5	6.2	3.1	20.0	13.8	43.1	64.6	1.5	1.5	4.6	1.5
30歳代	174	8.0	9.2	4.6	3.4	5.2	11.5	19.0	40.8	63.2	2.9	1.7	2.9	1.7
40歳代	266	6.4	4.9	6.4	3.8	6.0	10.2	16.9	36.8	60.5	4.9	0.8	3.8	2.6
50歳代	305	7.5	11.8	5.9	5.9	5.2	12.5	13.4	34.8	56.1	4.6	1.0	2.3	2.6
60歳代	288	8.7	13.2	9.4	8.0	5.9	6.6	13.2	37.2	51.0	3.8	0.3	0.3	3.1
70歳以上	348	9.5	17.2	9.5	8.0	9.5	3.7	9.5	28.2	43.7	4.6	3.7	3.7	1.4
無回答	51	9.8	19.6	11.8	11.8	7.8	5.9	11.8	19.6	49.0	0.0	0.0	9.8	0.0

## 調査結果の分析

	回答者数	整備	自主防災組織が使用する防災用資機材の	避難路・避難場所・津波避難ビルの整備	公共建築物の耐震化の促進	道路、橋梁、堤防などの整備及び耐震性の向上	防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充	インターネット（自治体HP、X（旧Twitter）、Facebook等）による防災情報の提供	等）の復旧情報のすみやかな伝達	ライフライン（電気、ガス、水道、電話）の復旧情報のすみやかな伝達	道路、橋梁、堤防などの早期復旧	高齢者・障害者等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援	応急仮設住宅のすみやかな供給	その他	特になし	わからない	無回答
単位：％																	
【居住地】																	
名古屋市域	422	0.9	10.7	5.5	10.9	2.1	10.4	37.7	8.3	11.8	9.2	1.2	0.2	2.6	2.6		
尾張地域	365	1.4	9.0	3.6	8.5	3.6	8.8	30.4	7.9	16.4	10.4	1.6	1.1	3.3	0.5		
海部地域	51	2.0	15.7	5.9	15.7	5.9	5.9	29.4	13.7	11.8	11.8	0.0	2.0	0.0	2.0		
知多地域	141	3.5	9.2	5.0	8.5	3.5	6.4	31.2	9.2	12.1	10.6	0.0	1.4	3.5	1.4		
西三河地域	313	3.5	10.5	5.1	14.4	2.6	5.8	29.4	9.3	11.8	12.1	0.6	1.6	1.3	1.6		
東三河地域	164	3.7	10.4	3.7	12.2	4.3	9.8	32.9	8.5	12.8	7.9	1.8	0.0	4.3	1.2		
無回答	46	4.3	8.7	4.3	10.9	0.0	4.3	26.1	4.3	17.4	8.7	0.0	4.3	2.2	4.3		
【年齢】																	
10歳代	5	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	65	1.5	7.7	13.8	10.8	3.1	7.7	32.3	6.2	4.6	9.2	1.5	0.0	3.1	0.0		
30歳代	174	0.0	7.5	8.6	12.1	2.9	6.9	23.6	4.6	5.7	7.5	1.1	2.3	5.2	1.7		
40歳代	266	1.9	12.4	6.0	11.3	2.3	8.3	37.2	9.0	8.3	9.0	1.5	1.1	2.3	0.4		
50歳代	305	2.6	13.1	2.3	12.8	4.3	10.8	35.7	9.8	5.9	12.5	1.6	0.3	2.3	0.3		
60歳代	288	2.4	10.1	2.8	10.1	2.4	10.4	34.0	11.8	15.6	11.1	0.7	0.3	3.1	1.7		
70歳以上	348	3.2	8.6	3.4	10.1	3.4	5.7	30.5	7.8	26.4	9.8	0.6	0.9	1.7	3.7		
無回答	51	3.9	5.9	3.9	11.8	0.0	3.9	25.5	3.9	17.6	11.8	0.0	5.9	2.0	3.9		

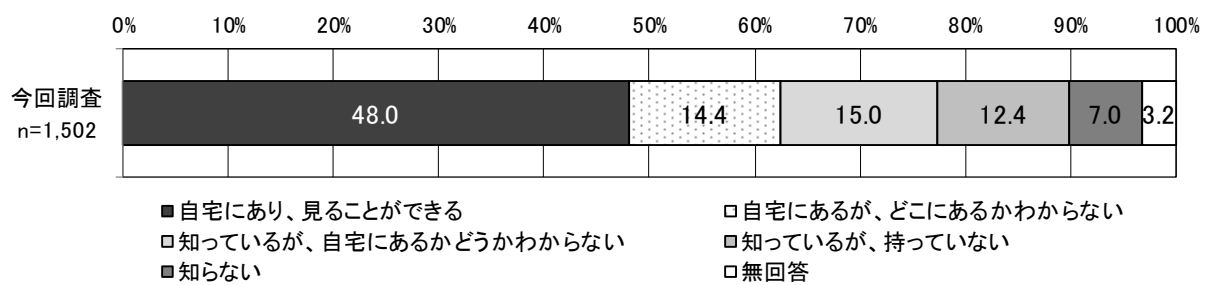
## (2) 地域の防災マップやハザードマップの所有

問 37 あなたは、市町村が作成・配布している、地域の防災マップやハザードマップ（地震や洪水等）を持っていますか？（○は1つ）

◎ 62.4%の人が『持っている』と答えている。

- 地域の防災マップやハザードマップについては、「自宅にあり、見ることができる」が 48.0%と最も多く、次いで「自宅にあるが、どこにあるかわからない」が 14.4%となっている。
- これに対して、「知っているが、持っていない」が 15.0、「知らない」が 7.0%となっている。

図 13. 地域の防災マップやハザードマップの所有

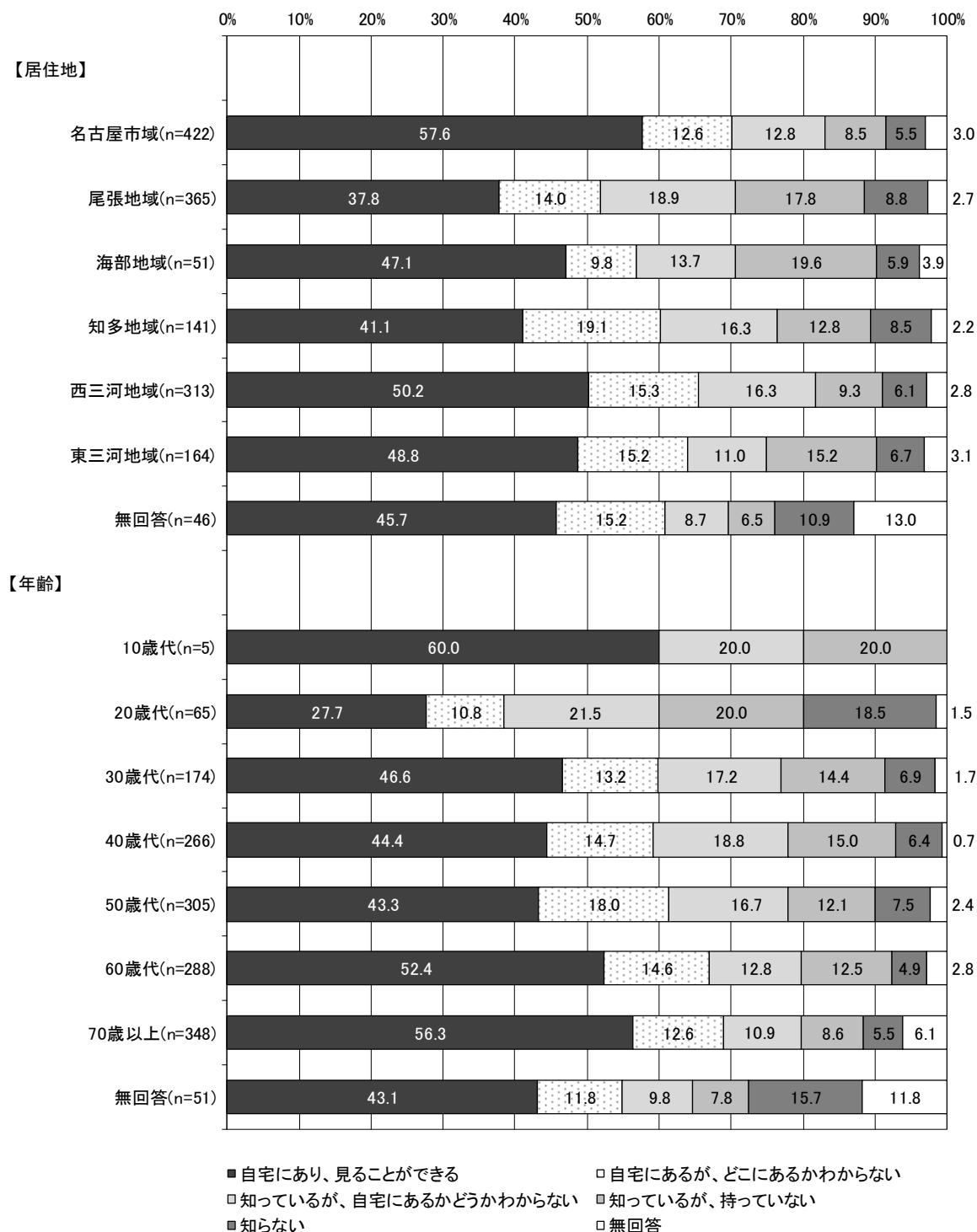


(単位: %)

◆地域の防災マップやハザードマップの所有[居住地別、年齢別]

- 居住地別でみると、名古屋市域、西三河地域、東三河地域で『持っている』割合が高くなっている。
- 年齢別でみると、60歳代、70歳以上で『持っている』割合が高い傾向になっている。

図 82. 地域の防災マップやハザードマップの所有[居住地別、年齢別]



(单位:%)



## 8. その他

## (1) 県の防災・災害対策への自由意見

問 38 県の防災・災害対策について、ご意見があればご記入ください。
------------------------------------

- 県の防災・災害対策に関する自由記入意見は、多数の意見が寄せられました。

表 26. 県の防災・災害対策への自由意見件数

行政への要望	インフラ、ライフラインに関して	23
行政への要望	食料・飲料水に関して	7
行政への要望	救助・避難のための方針に関して	30
行政への要望	防災対策に関する情報提供、啓発に関して	32
行政への要望	耐震診断、耐震化、家具固定の対策に関して	7
行政への要望	前述以外	17
自主防災活動	自主的な対策に関して	6
過去の被災経験	過去の災害経験を踏まえた意見等	4
その他の意見	感想、アンケートについて、他分野の要望等	36
合計		162

○ 県の防災・災害対策に関する自由記入意見を上記の項目別に分類した結果です。

行政への要望：インフラ、ライフラインに関して	
1	2 級河川の天白川の整備がゆっくり過ぎるので、特に天白川の河原、早くしてほしい
2	インフラの強化が大切だと思います。災害を最小限にするのが、まず第一であると思います。過去の災害を参考に県(市)民の為の安全を第一に考える。(利権で無く)有識者の先生の意見・研究を取り入れ、すみやかに行動をお願いしたいです。
3	医療体制の充実や備蓄物品の確保もそうですが、いつ来るか分からないからこそ公共建築物や避難場所の耐震や道路や下水管の補強など減災できる対策を広く早く進めてほしいです。
4	岡崎方面から豊橋へ続く幹線道路の地下にガス管が(何年も前に)通された。大規模地震がきたら亀裂が入るのでは。ガス漏れが起きて大事故につながらないか、という心配が常につきまっている。付近の住民への説明が必要と思う。
5	辺に住んでいるので洪水や津波が心配です。 近年河川の土砂が流れて来て溜まっているのを感じます。大雨が降ると堤防から溢れないかと不安になります。そういったところの調査をお願いします。
6	山間部は都市部に比べ復旧が遅くなる事が多いから、インフラが復旧するまで、市民だけで安心してすごせるような物資(匂いを閉じ込めれるゴミ袋等)、施設(特に明るくて綺麗なトイレ)を用意してもらいたいです。
7	私たちでは手がつけられない、堤防や橋などの改修、また土手の草刈りなどをしっかり行って欲しい。
8	○自宅前の側溝をいつも掃除しているが水が吸い込まれていくまでが長いため、大雨が降るとあふれそうで心配。
9	鹿乗川が氾濫 今回広く被害あり、土手を積むなど氾濫しない対策を早くして欲しい
10	職場から自宅の間は橋を通らないと帰れない。橋の診断や架け替えを計画的にしてほしい
11	大規模災害の場合、道路の寸断等が起こり、救急活動に支障が出る事なども考えられます。皆の心が救いに向かなければと思います。物資の確保を早めに備蓄して頂ければと思います。
12	排水溝の掃除はこまめにしてほしい。なぜなら、落ち葉でふさがっていたり、泥がたまったりしているし、ゲリラ豪雨の時に排水が追い付かない
13	地下鉄の通勤・通学に不安がある。自宅から避難所が遠い。高齢家族が遠くに住んでいる。安否確認の不安がある。
14	※最近では雨が降るたびに堤防がくずれ町が水びたしになる災害をよく見る。よく見ると橋に流木などがひっかかり水の流れを止め堤防をオーバーフローとなるケースをよく見うける。自然災害といえばそうだと思いますが…急ぎ復旧してもらいたすかります。対策とし復旧だけでなく橋梁を高くしそれに付ずいする道路も当然ゆるやかに高くする等。大小川を良く観察すると教えてくれます。(図が記載されているが省略)

15	緑が多く環境に良いとされている公園も良いが竜巻、突風などの倒木が多くなっている。道路が広くても、通行不良になる場合もある。人力では無理だと思うので対策をしてほしい。・停電対策
16	各地で災害が起こる度に避難所が何日も過ごせる場所では無いのを痛感します。特に不安に思うのがトイレです。2~3日食物が少ないくらいは水さえあればガマンできる気はするのですが今の快適なトイレからはほど遠いトイレ環境に耐えられる覚悟は全く自信ないです。
17	大雨の毎に道路が冠水する場所を改良工事してほしい。
18	避難所となる小学校の体育館に冷暖房が設置されておらず、現実的に避難所として環境が整っているとは言えないのではないかな。
19	避難所へ車で行く予定なので車をたくさん止められるようにしてい欲しい。
20	以前は、マンションに住んでいました。が、終活で、庭の広い賃貸木造一戸建てに引っ越しました。今の、エリアは、水害にあっているようで、早く、矢作川支流の堤防を高くしたり強化して欲しい。スタジアムやO×ホール等、直ぐに完成してゆくのに、住民を守る事は後回しになっている気がする
21	名古屋市天白区上田に居住。町内に水害用のボートがありません。高齢者で避難は無理と思います。特に、火災が起きると危険です。
22	老朽化したライフラインの再整備および優先度づけ。 民間企業と連携した災害時の行動のシステム化。
23	避難場所における備蓄品の強化：特に女性用トイレ、女性専用の場所の確保

行政への要望：食料・飲料水に関して	
1	犬がいる為なるべく自宅にいたいのですが、避難所に行かないと、水や食料が頂けないと聞きました。それは困るので改善して下さい。
2	自宅避難者に対しての対策の強化：支援物資の配給、情報伝達
3	以前、淡路島と東北地方で地震が起きました。南海トラフ巨大地震がいつ起こるのかはわからないけれど、自主防災組織が使用する防災用資機材の整備と、避難路・避難場所の整備と、食料・飲料水・医薬品の備蓄を重ねて置いてほしいと思います。よろしくお願いします。
4	災害発生時には在宅避難も選択肢の一つとなります。しかし日々の生活を優先すると非常用の備蓄を十分に準備することが難しいのが現状です。特に長期保存可能な食料やポータブル電源、高機能な災害用トイレなどは価格が高く購入に踏み切れない家庭も多いと思います。こうした高価な備蓄品について補助金制度や購入費用の助成などを検討して頂けると多くの県民が安心して備蓄を進めていけるのではと思います。またローリングストックについても色々な情報を提供して頂ければと思います。生活に無理なく取り入れられる具体的な備蓄方法やリストを提示してほしい
5	自治体によるばらつきの把握と支援
6	市町村で定期的に備蓄用の食料などを配付するとよいと思った。（その費用は税金として取ればよい）
7	物価高で防災関連品を揃えようとしても年金暮らしなので大変です。物価高対策、補助金などの対応をして欲しい。

行政への要望：救助・避難のための方針に関して	
1	避難場所の防犯対策の強化
2	ペット、犬の避難方法、場所の確保、同伴行動ができるように決め事を県、市町村で必ずわかるようにしてもらいたい。
3	避難所では泊りになると女子トイレ含む場所で性被害が必ず起こると聞いていて非常に怖いのでそのようなことに対する対策もどうするのか考える必要があると思う。
4	女子トイレは混むと聞くので、設置についてと、夜怖くてトイレに行かれないと記事で読み、夜中トイレには行くので対策してほしい。
5	1番はペットも家族なので、同行避難させてあげて欲しい！なので体育館は人だけとか学校の教室の一階は犬と人とか、そんなふうに区分分けがすぐできるように考えて欲しい！はじめから決めてあれば災害時に混乱が少しは減るんじゃないかと思います。
6	ペットと一緒に避難生活できるようにしてほしい
7	ペットを飼育している身としては、自分よりペットの方が大切だと思っています。人間は自分で生きていけますが、ペットは自分だけで生きていくのは難しいので、ペットの命を守る事について何か対策があればと思います。やむを得ずペットを自宅に残すという人が出ないようにしてほしい。ペットだけで自宅に残るのは絶対にキケンです。ペットがいる人同士で何か協力できたらと思います。うちは犬ですが、他の犬が苦手なのであずかれないけど、ハムスターとか小動物なら保護できる。そういう方、けっこういるんじゃないかと思います。
8	ペット同行避難場所を増やしてほしい
9	医療ケアが必要な人、子供、高齢者を優先に考え、だれもが取り残されことなく避難できる体制をとっていただきたいです。
10	家族に障害児がいます。避難所で他の人達と過ごせないため、できるだけ自宅や自宅付近で過ごせないか考えています。太陽光発電やキャンプグッズなど取り入れています。ただ自治体等からの情報、食料や飲料水の配布を受け取ることが困難と考えています。自宅等で避難生活をしている人の把握をできるだけ早く行ってほしい、食料等は配布しに来てもらえるとうれしいです。把握方法はスマホを使うなどでできるとよいなあとと思います。（非常時であることから障害児がパニックや情緒不安定になることが予想され、保護者が動けないと思われます）
11	強く希望するのは、女性専用避難所が設置され、選択できるようになることです。避難所が男女一緒ということに恐怖心を抱く女性はとても多いように思います。少しでも清潔な環境でストレスフリーな避難生活をだれもが送れるようなシステム構築を期待します。
12	県としての取り組みは評価できるが、勤労者の立場では職場の判断に従わざるをえない。結果として帰宅困難になってしまったり、対応が後手に回ることが少なくない。県として、非常時には企業に統一した対応がとられるように事前に権限を発揮してもらいたい。それがまず県としてできること
13	個人情報保護法によって、町内でも隣人の居住者の内訳（家族構成等）がわからず、tel 番号も不明の地域（団地）では、昔ながらの隣り組的発想では、災害対応できないのではありませんか。発想を変えた組織づくりが必要。

14	災害が発生し避難所の状況がテレビ等で何度も放送され、避難所として体育館が多く使用されており、トイレの詰まり問題・ダンボールベッドやプライバシーの確保するための区画壁など、同じ不備が何度も多い。市区町の防災担当の指導をしっかりとってほしい。
15	<p>災害列島”日本”においては、いつ災害が起きても不思議でなく、今後も温暖化に伴い災害規模は大きくなるばかりです。</p> <p>今までの様に市町村及び県での対応では不足と思います。</p> <p>地方自治体の職員の方も被災されている中での救援活動は限界があり、国としての取り組みが必要。</p> <p>防災省が早く実現し、予算をさいて活動して欲しい。</p> <p>発災後すぐに対応できる様準備して欲しい。</p> <p>特に避難所が体育館でのぞこ寝しかないという状態は世界的にも遅れているとしか思えない。</p> <p>かつてTVで見たイタリヤも地震国なのに、食事時にはテーブルでのレストラン風</p>
16	市町村との連携を強化し諸対応の迅速化を図る
17	障害者の避難場所を作ってほしい。
18	<p>先ほども少し触れましたが、夏場の冷房対策についてとても心配しています。暑い中みんなが二次災害で苦しまないような対策をお願いしたいです。</p> <p>また、避難場所でのプライバシーの問題も気になっております。他国では、家族ごとにテントなどで区切ってプライバシーを保っておりますが、日本はいまだにダンボールで体育館を仕切った程度で、非常に簡易的すぎると感じています。避難所では性犯罪も多々あると聞いているため、安心して避難できる場所の確保をお願いしたいです。</p>
19	地域で指定されている公民館、体育館だけでは、大きな災害時収容しきれないと思っている。私的な大学、会社、企業、ホテル、ショッピングモールその他いろいろ開放し提供するべきだと思う。
20	避難場所に指定されている学校の体育館には冷房を設置してほしい。予算を県と市町村で出すべき。
21	南海トラフ確率併記（9月27日の中日新聞より）科学的な評価と政策判断を分けたことは前進とあるが、地震発生時の切迫度はいずれの手法でも最高の「Ⅲランク」で従来と変わらない。社会の最悪の想定で（まだまだ不足）前提に対策を進めるべきである。現地、現物を確認した、防災予算の計上、最近発生した地震対策や復旧の遅れを検討しているか？東海地区はここ数年大きな災害が発生してないがいつ起こるのか、と大変危惧している。
22	身体の障害だけでなく、心の障害があると、協同の生活が無理なので、（パニック起きる）そのような人の避難も考えてほしいです。
23	県や市町村が台風や線状降水帯、地震などの状況を判断して避難警報を出すかどうか迷う場合もあると想定されるので、警報を出す段階で避難警報を出す可能性の有無もお知らせすると県民も天気や警報に注意するので、避難警報を出す場合に速やかに避難できるし、深夜寝ていて警報に気づかずに逃げ遅れる可能性も減ると思われる。警報の出し方や周知先（各市町村やその地域の自治会など）を検討してほしい。

24	イタリア等に比べ、貧弱な発災後のケア（トイレ、食事、衛生、女性、乳児、ペット、障がい者への対応の半世紀以上変化のない、生活レベルの低い現在状況）を改善するべく民間との協力の推進を対策へ真剣に進めるべき。愛知県が手本となるような対策をできるだけ早く１つずつでもよいから発信し、日本全体のやる気を高めるべき。政府を頼っていてはいつになるかわからない。道路等インフラも復旧情報をスマホ等への伝達を速やかをお願いしたい。（民間の知見を日ごろから活用してほしい）
25	〈県の防災・災害対策について〉 1. トイレの確保 2. 救急・医療体制の充実 3. 公正さ 4. 情報公開 5. 個人情報
26	以前に障害者がありいざという時は、だれかをたのむ人があるか？という質問を頂き出しましたが、何の返事もなく少々不安であります、高齢者（二人共）ですので、声かけをしてほしいです。
27	海拔ゼロメートル地帯に住んでいます。高台への避難場所がないことに不安を感じます。
28	子供にアレルギーがあることもあり自身でかなり備蓄している方だと思います。RC 住宅に住んでるし、大型家具もそもそも置かない様にしていってその気になれば１カ月以上自宅待機可能です。ただ近所の古井へいや不造住宅が倒壊しないか心配です。子供が下校時に地震があった時などに、安全に避難できる環境作りや地域の方の目など強化するといいなあとと思っています。あと、うちはペットがいませんが、子供みたいなものだと思うのでいざという時、受入体制整えておく避難所があるといいなと思います。
29	台湾、イタリアのようにTKBの迅速な整備が可能となる体制を実現。24時間以内に、TKBの十分な確保。避難所運営がスムーズにできるボランティア体制の準備と訓練。資材の用意だけでは運営できない。日頃からボランティア活動が可能となるようなコミュニケーション、訓練を実行しておく。
30	特に高齢者や障害者、子供、女性が安心して過ごせる環境があると、避難場所にもちゅうちょせず避難しやすくなると思います。

行政への要望：防災対策に関する情報提供、啓発に関して	
1	防災訓練の強化 なかなか訓練だと参加されない方が多いようで、困った時だと来る！文句を言う！方が目立ちます。どうしたらいいのでしょうか？ 検討の方宜しくをお願いします。
2	住んでいる区域で定期的に防災訓練を実施したほうがいい
3	URに住んでおり、今回のアンケートで不明な点を教えてもらえる機会が欲しい。勉強会など。
4	いろんな情報がありすぎてわからない。
5	テレビでの避難指示は豊川市とか具体的にしか出ないが、もう少し具体的に知りたい。防災無線聞き取りにくい。毎月発行の豊川市広報をもっと充実して欲しい。インターネット・携帯電話・・・防災や災害時使えるように強化して欲しい。
6	もっと身近に感じるような広報があってもよいと思います。
7	一般的な災害対策セミナー、情報ではなく、狭い範囲(町単位)の防災対策やその周知に努めていただきたい。町の年齢構成・地形・道路状況等を考慮したきめ細かい事前の情報提供、セミナー等を希望します。
8	各個人の防災意識を高めることは重要ですが、職場（病院）での避難訓練が甘いと思います。市町村レベルで各職場に対する、避難内容を厳格化、きちんとしたプランを建てる必要があると思います。特に、施設、学校、病院などをそれぞれの災害に対し、細かいプランそれに対する備蓄物を必ず用意すること、費用がないのであれば補助金の設定など対策をしていくべきです。今はいろいろな災害がいつ発生してもおかしくない環境なので、もっと早く対策を行う必要があると思います。
9	巨大地震注意のレベルが周知されていないので、「注意」だと行政はお知らせを流す程度になるのかなあと思わざるを得ない。注意であれば即警戒ではないかと思料する。
10	訓練などで、近所に設置されたスピーカー或いは自動車などで音声流れることがあるが、家の中にいると全く聞こえないか、何かが聞こえても、何を喋っているのか全く分からないことがほとんどある。 現在の多くの家屋は防音性能も高く、また建物の数が多いため反響もあるので、もっと伝わりやすい方法を考えるべきではないでしょうか。
11	警報が出た際、確認がわかりにくい。
12	高齢に伴い、ネット、SNS等使用できない。行政からのパンフレットやチラシはありがたい。当然慣れていかななくてはならないが、耳、目、等悪くなるため、情報がわかりやすい方法があるといいと思う。障害のある家族がいるため、災害があった時の移動、手段等、悩んだりすることがある。避難通路や避難場所、そこでの生活がストレスにならないよう願うばかりである。
13	高齢者なのであまり協力ができませんが、情報は発信してもらいたい。
14	災害が起きたとき、逃げることも大事ですが、逃げようとしてかえって危険な目にあうこともあるようです。ついやりがちな初期の判断ミスなど気を付けることをわかりやすく広報してください。（1コマ漫画やアニメなど）あればチラシ等で教えてください。
15	自治会だけでなく、もっと大規模な市や区の規模で避難訓練とかやってほしい。



16	自宅のある地域内にて 15 年程前有志が集まって自主防災会を立ち上げました。その中で名前だけの役員として活動している者ですが、防災訓練を実施しても毎回今いちもりに上げに欠けます。行政の防災について範囲が大きすぎて同じ？どうしたらいいのかな。
17	小学生の頃「なまず号」という、地震を体験する大型車に乗って、震度 1~7? までの強さと怖さを実際に体感する機会がありました。あの設備を市や県のイベントでもっと使用して、たくさんの方に巨大地震の恐怖を知ってもらおうと防災意識が高まるのかなと思います。以来、私は少しの地震でも怖くて仕方ないです。恐怖を持つことは悪いことではないです。正しく知って知識をもって、いつか来るその日を乗り越えたいです。家族の理解が足りないと「やりすぎ、心配すぎ」と、取り合ってくれないこともしばしば。幅広い年代に、均等に、正しい知識を広げてほしい
18	迅速に対応していただきたい。情報を早くまわして欲しい。
19	大規模災害が起こるとか報道でよく流れていたころ、隣近所の老夫婦世帯の方から「ここで寝ています」と教えて頂きました。万が一の際、停電でも最速で救出出来ると、よい考えだなと感心しましたが、自分たちもその世代に近くなってきましたが、若い世代の方とは、お仕事で日中いられないので、昔の様な立ち話もなく、訪問してお伝えするのもどうなのか？と思案しています。幸い我が家は 20 代の子供もいますので連絡は密にしています。個人情報のこともあるので、昔のようなコミュニティーを作り上げるのは難しいのかなと思っています。
20	大震災を経験した地域から学び、必要準備をして欲しい。
21	地域（市役所）の伝達情報放送が入るが、聞き取りづらく、防災・災害等には役が立たない。県からの何か良い伝達方法を考え、実施してほしい。
22	避難所には毛布や食料が置いてないと聞かされて驚いた。自分が使うものは自分で準備しておかなければいけないことを皆に伝えるべき。町内会に支給される物資等は町内会に入会している戸数で分配されると聞き、それが事実ならそういうことを町内会に入会していない人たちにも知らせるべきだと思う。
23	不安をあおりすぎ。このようなアンケートで防災意識を高めるのも大切ですが、不安をあおるのはマスコミと同じ。県は不安をあおるだけでなく、県民に対して安心情報を提供すべし。「愛知県は〇〇をしているから安心して下さい」という県の実績を示してほしい。
24	碧南市は、情報が弱い。屋外スピーカー少ない。
25	防災、災害に関する専門家の講演、セミナー、訓練を街単位で実施して欲しい
26	防災の知識はあるのですが、いざ災害が発生したらその後どう過ごすのか？がいまいちわからず不安です。大地震が来ることがわかっているのであれば、あとは待つのみなので、年代別（子育て層など）に 1 日目～復旧（ライフライン）するまでどう過ごすのか。自衛隊やボランティア頼りになってしまいますが、いつ来ていただけるのか目や鵜 s がわかるとパニックになりづらく、落ち着いて行動できるかなと思います。上記のことは自ら SNS 上で調べてはいるものの情報が多く、まとまっていません。小学生でもわかるような「災害後どう過ごす？」の”まとめ“があるとよい

27	防災訓練が実施されても、いつも土日で、出たことがないので、平日でも行ってほしいです。
28	防災無線をつけてほしい。
29	自宅では防災訓練に参加して、避難経路など確認しているが、大学に通っている娘が、大学から帰る、向かう間での電車などの時に災害にあった場合の避難場所（駅付近で泊まれる所）は分からない。遠距離で通っている学生の場合の泊まれる所など、ネットで情報を教えてほしいと思います。
30	各家庭にデジタルでなく手に取って見られる防災・災害対策の『もの』があるとよい。スマホありきなのがどうかと思う。
31	災害時に情報を得るのにスマホをどれだけ早く活用できるかが気になってます。
32	他県との連携。災害時の情報開示特に医療に対して。

行政への要望：耐震診断、耐震化、家具固定の対策に関して	
1	<p>自宅の土地をかさ上げたことで固定資産税が増額されているが、むしろ減税してほしい。近年多発している大雨などの浸水被害から自宅をまもるため盛り土をし、かさ上げしている。その分、費用もかかり会談の将校も必要になったが、自宅を守るための自助努力として行った。しかし、盛り土は金銭的に余裕がある人のぜいたく品という扱いのようで固定資産税まで増やされている。災害時に復旧のための税金からの支出を減らすためにも、盛り土などの自助努力は推奨（＝減税）すべきで、罰金のように増税すべきものではないと思う。</p>
2	<p>住宅の耐震補強や大型家具固定費用の補助事業を充実させて欲しい</p>
3	<p>家を建てる時、（土地を買う時）液状化のない価格の高い土地を買った。ローンを組んで、その分の支払いもしている。でも、土地が低い、液状化の可能性があり、価格の安い土地を選んで、買った人に、補助金とか、手厚くするのは何で？と思う。・耐震も同じ。建てた時に、耐震や制震を知らなかった（まだ、世の中が防災にそこまで興味がない）その時に、家を建てた人と、その後の人とは助ける割合が同じなのも、違和感。・古い建物こそ、取り壊すなどの対策が必要だと思う。</p>
4	<p>問 38. ・防災・減災・国土強靱化の推進・地域の防災意識を高める取り組み強化（平時の備え）・災害に強いまちづくりの整備</p>
5	<p>温暖化の影響で、各地での様々な災害を見聞きすることが増えた昨今、他人事ではなく自分のこととして考え、防災の意識を高めることは大切だと思います。我家は1994年12月に建った木造住宅なので、市による無料耐震診断や耐震改修費補助が受けられないのですが、大きな地震が起きたら、自宅が倒壊するのではないかという不安はいつもあります。可能であれば、その対象範囲を広げるとか、相談できるところを教えてもらえればと思います。</p>
6	<p>耐震改修費補助の充実を願っている。</p>
7	<p>年金生活なので、住宅の耐震補強まで金の余裕がない。</p>

行政への要望：前述以外	
1	無人の民家を更地に
2	避難の際、空き巣問題。
3	インターネット、電話の早期復旧、水、ガス
4	他県の災害発生に迅速で手厚い支援を行ってください。
5	災害は市町村単位で起こるわけではないので、広域を把握してリードすべき立場の県の協力で柔軟なリーダーシップを期待します。
6	東北地震、能登地震、最近地震が頻繁に起きている豪雨災害など被害者が取り残されている様子が報道されています。支援に向けた事前の計画、予算、人員の確保などを手厚く進めてください。
7	台湾の地震対策がすばらしかったとニュースで見ました。他国・他県で進んでいる所を吸収活かしてください。
8	私の住んでいる地域は、外国籍の方が多いです。彼らまで情報が伝わり、救済されるのか心配です。
9	タブーなのかわかりませんが、大地震後、犯罪の対策を本当に考えて欲しいです。愛知県は特に危険です。愛知県なら県警の強化(予算の確保・人員の増強)をお願いします。治安は県民が安全で安心して暮らす為に必要で、平時でも有事でも必要です。私の会社では、地震が発生し会社から自宅に帰る時、徒歩帰宅もある為危険が予想されます。その他色々あります。有事の時はマンパワーが威力を発揮するので対策をお願いします。県から地震の危険がせまっているのなら、企業活動を制限させて欲しい。出勤を制限するとか、人の移動を少なくする・させる etc
10	県の行っている防災・災害対策について具体的な内容がよくわかっていない
11	高齢者や赤ちゃんに対しては態様
12	災害時とその後が、今の県市の行政の結果がわかる時ですね。市民は小さな事、小さな力しか出来ないですが、何かあった時に頼れる愛知県であってほしいです。私達、いい時ばかり暮らしているのではなく、大変な時も税金を払い続けております。1人1人が大変な思いをして払っている大切なお金を、どうか上手に市民のために使ってもらい、皆様の力と県民の力で乗り越えて行けたらと願います。私の力は微々たるものでありますが、地域とのまじわりを大切に声を掛け合い、遠いか近いかわかりませんが、自分なりにとも考え実行してみます。
13	避難所のキャパシティが不足していないか不安、避難訓練も年一度で本番時に上手くいくか心配です
14	敏速な対応をお願いします
15	障害者のひなんうまくできるのか
16	避難所の充実、連携、意識強化
17	予算をつけるべき

自主防災活動 自主的な対策に関して	
1	1人暮らしで高齢なので、自分ではどうすることもできない。田舎に住んでいるので、何かあったら隣同士で助け合うつもりです。
2	高齢者(70歳以上)の独り暮らし(女)です。防災・災害対策について、町内会にも入っていないです。地域はマンションが多く、一戸建に住んでいますが、耐震等費用がかかり面倒でやれないです。信頼出来る人、業者、だまされない様にすることが精一杯です。
3	私の住んでいる所は、地盤がしっかりしていると父や母から聞いています！！年なので何かあった時に動くとかえって人様に迷惑をかけそうな気がします！家もそんなに古くないので嵐(災難)が通り過ぎるまで、家でじっとしているつもりです！！
4	持病があります。薬がなくなると、すぐ死にます。合併症で障害者手帳の対象になります。薬の予備はあるけど、冷蔵庫での保管です。誰の助けもできないので、そうなったらあきらめようかと、水・トイレ・食はあるけどと、なんとなく思うので。電車がないと大府から名古屋医療センター行けないし、あきらめます。
5	避難場所の確保、自宅内での訓練、指導
6	ポータブル電源購入に補助金を出してほしい。

過去の被災経験 過去の災害経験を踏まえた意見等	
1	昭和 56 年 1 月完成の軽量鉄骨建造物有り、少々不安。2000 年 9 月 11 日東海豪雨にて自宅無す（町内で我が家のみ）2001 年 8 月 1 日自宅完成 230 cm埋め立て。埋立てすぐに建設したので地盤が弱いのでは？◎9 月 11 日 避難所に行かず翌日から空家探し。◎水災害にて保険も公共からも支援無し。
2	能登半島地震の際、災害派遣に行って参りました。 発災後、4 か月近くたってもまだライフラインの復旧していない地域があったり、倒壊した建物がそのままになっていて、再び地震があったら、また道路に崩れ落ちてきてしまいそうな状況もありました。 個人の力だけではできることに限界がありますし、地域の力と言っても、若年層、単身世帯などは自治組織に属していなかったりして、これも限界を感じます。かといって行政のみに頼るのも違うと思っています。 防災啓発活動も行っていますが、やはり若年層、単身世帯者と接する機会が少なく。
3	伊勢湾台風で水のこわさを知っています。当時高い所へにげるところはなく、ういてきたたたみを高くつんで、その上ですごしました。子供ながらこのまま死ぬんだと思いました。水のこわさは忘れられません。現在住んでいる所は避難場所が少ないので、ふやしてほしい。高台がありません。
4	能登で地震があった昨年、わが家の近くの企業の寮が全室空になりました。1 棟に約 100 室近くあり、数棟あります。これを仮設住宅に使えないものかと思いました。

その他の意見 感想、アンケートについて、他分野の要望等	
1	「転ばぬ杖」の一言に尽きます。予算も限りがあると思いますが、準備は大事だと思いますので、よろしくお願いします。
2	高齢者世帯なので、すべきことがわかっていても、資金面、体力面で思うように防災対策が十分に行えません。
3	アンケートの質問がめんどくさい。イラストなどで Yes No で解答できるとわかりやすい。質問に対して行政は今どうしているかとの説明などがあると、人に伝えやすく災害対策の助けになるとおもう。
4	どこかで災害が起こった時に意識が高まり、不安となって確認したりするものの、普段は、「何とかかなる」としてしまい、備蓄品も期限が切れているのに補充できていない。家族があり困るだろうなと思ってはいるが、被災したこともなく、実際にイメージがつきにくく他人事のような気持ちです。体験した人が実際に困ったこと準備しておけばよかったもの、こうしておけばよかったという情報であったり、体験できるともっと自分事として備えができるかなと思いました。自分で本当は調べて想像して備えるべきだとわかってはいますが、サポートしていただけたら助かります。
5	がんばれ

6	愛知県は大地震がくる！くる！と言われ続けなかなか起こらず…（良いことなのですが…）災害に対して気持ちが薄れている様な気がします。 大きな災害が起きてからでは遅いので、自分も準備を…と思うのですがなかなか手が見つからないのが現状です。
7	安心して住める愛知県にしてください。
8	安心して暮らせるように引き続き防災対策に力を入れてください。
9	県の防災、災害対策に必ず不満はつきものです それで良いのです。 頑張ってください。 むしろ、声を出せない、弱者の方に、ほんの少し目を向け助けてやって下さい。
10	県内の災害時に被災しそうな場所の改修や補強等をしっかりやって下さい。よろしくお願いします！
11	現在要介護4の妻と2人で生活しています。災害発生時、まず「どこにも移動できない、食住がダメになる」どうしようもないことです。
12	高齢で足腰が悪く、とても非難するのは難しいので、どうしたらよいかいつも不安に思っている
13	今回のアンケートに、 ①火災に関する記載がすくない。 ②回答項目が多すぎる。 ③互助の要である町内会などの自治組織の運営が担い手不足で機能しないのではないかと危惧しています。また、発災時は、若い人は、会社や工場の復旧に取られ、残された年寄りだけでは避難所の運営すらできないのではないかと心配です。 ④避難所での外国籍の人との協働に不安がある。
14	市からの防災対策情報は把握しているが”県”という認識が一切なかった。
15	市町村からの広報が重要であることから、県内や中部管内でのとりまとめなどは後回しにして、市町村民への情報公開を優先できるような仕組みにして欲しい。
16	設問数が多過ぎるのと、類似の設問が散見されるのが気になりました。情報を取りたいのは分かりますが、回答する一般市民のモチベーションは必ずしも高くはありません。もっと、設問を整理して下さい。
17	日頃、災害対策をしていただき、ありがとうございます。地震が起きる度、個人でも対策をしなくてはと日々感じています。 災害対策が充分か心配だったので診断 web サイトをさっそく使いたいと思います。 こちらのサイトはこのアンケートで初めて知りました。 同じように心配に思っている方もたくさんいると思うので、もっと多くの人に知ってもらえるように告知してもいいのではないかなと思いました。
18	日頃より、県民の安全な生活のためにご尽力ありがとうございます。
19	日々防災について考えていただきありがとうございます。

20	<p>防災は何時来るか分からないが、来る事が予想されていてもなかなか準備を完成するのは難しいし、どこまでが準備OKかは災害の大きさに決まりがないので、なるべくの段階でしかない。</p> <p>公共的にだけにまかせるのではなく少しでも個々が出来る事を準備するしかない。</p> <p>被害の当事者になってしまえば困ることばかりだろう</p> <p>自分が出来る事を行ない'皆で協力'でしかない。</p> <p>これまでの災害も困りながらも人間力の協力でなんとか復興して来ている！！</p> <p>公も私も知恵を出し合い、してゆく事が大切でしょう。</p>
21	<p>防災訓練等に参加すると、もらえるものが毎回ありがたいです。1日～2日分(5人)は少しずつあつめて、たまったので助かってます。小学校・幼稚園でも多く訓練をしていただけるので、声をかけずとも地震がくると机の下にかくれたり、すぐ行動をとるのがすごい。親が大丈夫・大げさなどと言うと意味が無くなるので、同じようにしますが、親の意識も大切だと思いました。</p>
22	<p>防災災害対策は、県による取り組みのほか、やはり一人一人の日ごろからの備えが重要であると考えるため、今回のアンケートも意識を高めるきっかけになりました。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。</p>
23	<p>毎年全国各地で地震・水害・竜巻等の被害が出ているが、幸い東海豪雨以降名古屋周辺、大きな被害が出ておらず、行政・地域からの情報が有りますが、自らの対策意識が薄らいでいます。</p>
24	<p>明日災害が起きても県としてすぐ対応出来るのか。まだ準備できることはたくさんあると思う。</p>
25	<p>諸事情にて、住所より15km程奥の実家に住んでいます。80代の母と犬と。津波の心配は全くありませんが、家のすぐ裏には山が繋がっており、がけ崩れ、山津波の危険は100%あると思っています。高齢者の割合が多く、声を掛け合うといっても、どこも高齢者宅が多く、安心ではありません。大雨、山からの土砂崩れ等になったら逃げることもできずどうしようもなく…考えてもどうしようもない現実です。</p>
26	<p>一番大切なことは自己責任が優先自分のことは人をアテにしない</p>
27	<p>『愛知県の防災・災害対策について思うこと』愛知県に生まれてから今日に至るまで、有り難いことに大きな災害に遭うことなく暮らしております。東海豪雨の際も避難することもなく、ただテレビの報道や新聞の記事で災害の大きさを痛感していたくらいなのでいざ大きな地震等が起こったとき、冷静に対応できるか正直自信がありません。今回、意識調査通して自分(家族)の防災意識や備蓄の不足等が再確認できたので良かったです。</p>
28	<p>いつも愛知県の防災・災害にご尽力下さりありがとうございます。地震は「いつくるか、いつくるか…」と心構えしてはいるものの、実際大地震が来れば、物流もとまり、ライフラインもとまり思っている以上の困難があると思います。そんな時でも、周りを見て、助けあいながら生きていくためにしっかりそなえておきたいと思います。あと、防災とは関係ありませんが、名古屋がフェンタニルの輸出拠点になっていた事に、とても大きな衝撃を受けました。</p>
29	<p>家の裏に休耕地があり、通行人がそこにゴミを捨てます。休耕地は管理されておらず、ゴミがたまり、雨で側溝へ流れ、雨水がゴミのせいで滞まり、あふれてしまっているので、空き地の管理を所有者にさせて欲しい。</p>
30	<p>感電ブレーカーの助成金がある事を知れて参考になりました。</p>



31	Web 回答が時間に間に合わず、回答できてなかったのならすいません。こちらの回答と選択の差があるかもしれません。
32	多様化する社会に対応した防災対策を進めていることは、とてもすばらしいです。誰もが助かる対策が、まだまだ完全ではなく、土砂災害で亡くなる方がみえます。今後の情報発信を迅速に行って、避難しやすい環境づくりが大切だと思います。
33	南海トラフの発生率が上がったと聞きましたが、特に何もしていない状態です。東日本大震災、能登の地震をみて本当に天災は怖いと思っていますが、この地域にはこないのではないかと勝手に思っています。実際におきた地域の方のいたみがわかっていません。でも少しずつでも対策していこうと思います。今は必要な情報をすぐにけんさくできる便利なツールがあるので、最大限に活用して対策していこうと思います。
34	海外支援にばかり税金を使わず、県内に使ってほしい。備蓄米の放出が行われたことで災害時、在庫が足りない、国民・被災者に届かないということもあるのではないかと。県として災害発生した後の県民を守る長期間の食料対策をしてほしい。
35	現在、愛知県内、外国の方が多くなっていて、災害時日本人でも経験したことのない状態になりその状況を利用して悪用、悪行をする人もいるのに、育った所や価値観の違う外国の方・日本人と体格も違うこともあり、女性として、子や女性への暴力や性被害、避難所での生活で不安がある県として避難所での生活をみすえた対策もはっきりと示してほしい。避難所指定の場所のトイレには女性、生理用品の設置が必要だと思う。
36	地震臨時情報が発表された際の対応の仕方を再度確認したいと思います。ふだん心がけるべきこととともに情報の提供をお願いします。